

# 小野川流域の遺跡Ⅱ

— 北梅本悪社谷遺跡 —

1998

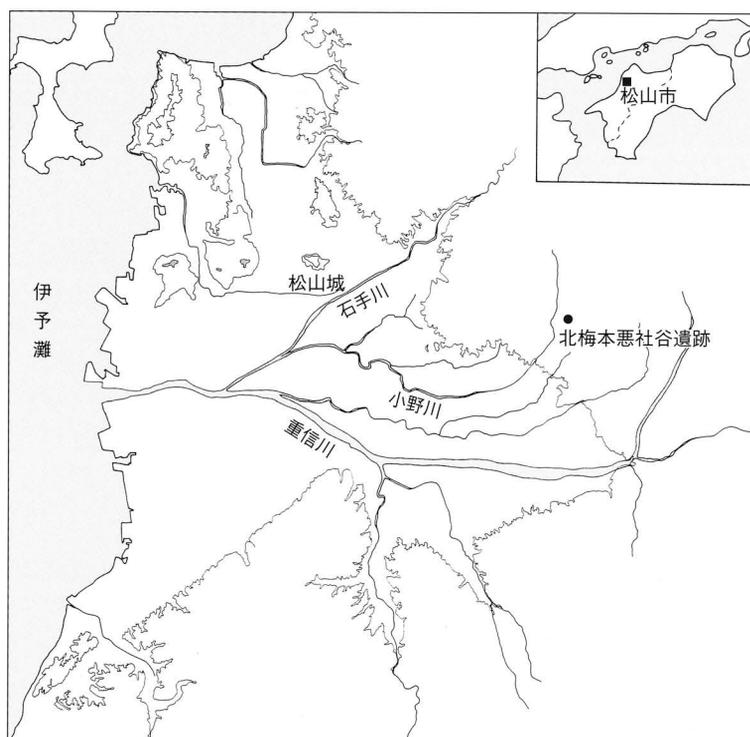
松山市教育委員会

(財)松山市生涯学習振興財団

埋蔵文化財センター

# 小野川流域の遺跡Ⅱ

— 北梅本悪社谷遺跡 —



1998

松山市教育委員会

(財)松山市生涯学習振興財団

埋蔵文化財センター

## 序

本書は、平成2年から平成8年までに、松山平野東部に位置する小野地区において、緊急調査した北梅本悪社谷遺跡の発掘調査報告書です。

小野川上流域は、古墳時代から古代までの窯跡が広く分布し、特に小野地区には松山平野を代表する古代窯跡群が展開します。また、古墳も数多く、木棺が発見された葉佐池古墳もこの地域にあります。

今回報告します北梅本悪社谷遺跡は、悪社谷窯址・枝朶下池窯址に近接しており調査では、これらの窯址に関する資料を得ることになりました。

調査結果は、小野川上流域にひろがる古代窯址とその構造を解明するための基礎的資料になるものと思われます。

本書の刊行にあたり、発掘調査についてのご指導、ご協力を頂きました関係各位、ならびに関係機関に対し厚くお礼申し上げます。

今後とも埋蔵文化財の発掘調査に関して、より一層のご協力をお願い申し上げます。

平成10年3月31日

財団法人 松山市生涯学習振興財団  
理事長 田中誠一

## 例 言

1. 本書は、松山市教育委員会と(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが平成2年10月から平成8年1月までに、松山市北梅本町で実施した埋蔵文化財の試掘調査及び発掘調査の報告書である。これ等の調査は、農道新設に伴う調査であり、北梅本悪社谷遺跡(3区)の調査については、一部が松山市文化財調査報告書40に報告されているが、本書では未報告となった調査資料を追加して報告している。
2. 本文では、呼称を略号で記述したものがあある。確認トレンチ：T、その他：SXである。
3. 遺構の製図、遺物の実測・製図は担当者の指示のもと水口あをい、山下満佐子、平岡直美、大西陽子、日之西美春、西本三枝、渡辺いづみ、加島なおみ、中村 紫の協力を得て行った。
4. 遺構図・遺物図の縮尺は、縮分値をスケール下に記した。
5. 本書に使用した方位は、すべて磁北である。
6. 本書にかかわる遺物と記録物は、松山市立埋蔵文化財センターで保管している。
7. 報告書作成においては、長井数秋氏(日本考古学協会)と善永光一氏には助言と協力を賜った。記して感謝申し上げます。
8. 本書の執筆は報告を梅木謙一、高尾和長、山本健一、河野史知が行い、附章では善永光一氏に執筆を依頼した。写真図版は、大西朋子と各担当者が協議の上、大西が作成した。
9. 編集は梅木が行い、水口あをいの協力を得た。
10. 製版 写真図版-175線  
印刷 オフセット印刷  
用紙 カラー写真・本文 マットコート 110k  
写真図版 マットコート 135k  
製本 アジロ綴り

# 本文目次

第1章	はじめに	梅木	1
	1. 調査に至る経緯 2. 刊行組織 3. 環境		
第2章	1区の調査	高尾	7
	1. 調査の経過 2. 層位 3. 遺構と遺物 4. 小結		
第3章	2区の調査	高尾	15
	1. 調査の経過 2. 層位 3. 遺構と遺物 4. 小結		
第4章	3区の調査 (北梅本悪社谷遺跡)	山本	43
	1. 調査の経過 2. 層位 3. 遺構と遺物 4. 小結		
第5章	4区の調査	河野	55
	1. 調査の経過 2. 層位 3. 遺構と遺物 4. 小結		
第6章	調査の成果と課題	梅木	66
附章Ⅰ	小野川上流域の表採資料	梅木	67
	Ⅱ. 松山市小野地区における窯址の分布と変遷	善永	75
写真図版		大西・梅木	99

# 挿 図 目 次

## 第1章 はじめに

第1図 松山平野の主要遺跡分布図（縮尺1／100,000）	3
第2図 調査地周辺の遺跡分布図（縮尺1／50,000）	5
第3図 調査地位置図（縮尺1／5,000）	6

## 第2章 1区の調査

第4図 調査地位置図（縮尺1／1,000）	11
第5図 土層柱状図（縮尺1／20）	13

## 第3章 2区の調査

第6図 土層柱状図（縮尺1／20）	18
第7図 調査地位置図（縮尺1／1,000）	19
第8図 枝朶下池3号窯址遺物採集地点測量図（縮尺1／250）	21
第9図 枝朶下池3号窯址採集遺物実測図（1）（縮尺1／3）	22
第10図 枝朶下池3号窯址採集遺物実測図（2）（縮尺1／3）	23
第11図 枝朶下池3号窯址採集遺物実測図（3）（縮尺1／3）	24
第12図 枝朶下池3号窯址採集遺物実測図（4）（縮尺1／3）	25
第13図 枝朶下池3号窯址採集遺物実測図（5）（縮尺1／3）	26
第14図 枝朶下池3号窯址採集遺物実測図（6）（縮尺1／3）	27
第15図 枝朶下池3号窯址採集遺物実測図（7）（縮尺1／3）	28
第16図 枝朶下池3号窯址採集遺物実測図（8）（縮尺1／3）	29
第17図 枝朶下池3号窯址採集遺物実測図（9）（縮尺1／3）	30
第18図 悪社谷1号窯址採集遺物実測図（1）（縮尺1／3）	31
第19図 悪社谷1号窯址採集遺物実測図（2）（縮尺1／3）	32

## 第4章 3区の調査（北梅本悪社谷遺跡）

第20図 調査地位置図（縮尺1／600）	47
第21図 土層柱状図（縮尺1／20）	49
第22図 T10平・断面図・出土遺物実測図（縮尺1／60・1／3）	52
第23図 T11平・断面図・出土遺物実測図（縮尺1／80・1／3・2／3）	53

## 第5章 4区の調査

第24図 調査地位置図（縮尺1／1,000）	59
第25図 土層柱状図(1)（縮尺1／40）	61
第26図 土層柱状図(2)（縮尺1／40）	63

## 附章Ⅰ 小野川上流域の表採資料

第27図	悪社谷1号窯址採集遺物実測図(96年)(縮尺1/3)	67
第28図	枝朶下池2号窯址採集遺物実測図(1)(縮尺1/3)	69
第29図	枝朶下池2号窯址採集遺物実測図(2)(縮尺1/3)	70
第30図	小野谷駄場窯址採集遺物実測図(縮尺1/3)	71

## 附章Ⅱ 松山市小野地区における窯址の分布と変遷

第31図	柳ヶ谷窯址採集遺物実測図(縮尺1/3)	76
第32図	小野谷駄場窯址採集遺物実測図(縮尺1/3)	77
第33図	枝朶下池3号窯址採集遺物実測図(1)(縮尺1/3)	79
第34図	枝朶下池3号窯址採集遺物実測図(2)(縮尺1/3)	80
第35図	枝朶下池5号窯址採集遺物実測図(縮尺1/3)	81
第36図	潮見山南窯址採集遺物実測図(1)(縮尺1/3)	83
第37図	潮見山南窯址採集遺物実測図(2)(縮尺1/3)	84
第38図	小野地区における須恵器の変遷(縮尺1/6)	87
第39図	小野・平井地区の窯址分布図(縮尺1/5,000)	95

# 表 目 次

第1章 はじめに	
表1	調査地一覧 ..... 1
第3章 2区の調査	
表2	枝朶下池3号窯址採集遺物観察表（土製品） ..... 33
表3	悪社谷1号窯址採集遺物観察表（土製品） ..... 40
第4章 3区の調査（北梅本悪社谷遺跡）	
表4	出土遺物観察表（土製品・石製品） ..... 54
附章Ⅰ 小野川上流域の表採資料	
表5	悪社谷1号窯址採集遺物観察表（土製品） ..... 72
表6	枝朶下池2号窯址採集遺物観察表（土製品）
表7	小野谷駄場窯址採集遺物観察表（土製品） ..... 74
附章Ⅱ 松山市小野地区における窯址の分布と変遷	
表8	柳ヶ谷窯址採集遺物観察表（土製品） ..... 89
表9	小野谷駄場窯址採集遺物観察表（土製品）
表10	枝朶下池3号窯址採集遺物観察表（土製品） ..... 90
表11	枝朶下池5号窯址採集遺物観察表（土製品） ..... 92
表12	潮見山南窯址採集遺物観察表（土製品） ..... 93
表13	小野・平井地区の窯址一覧 ..... 94

# 写真図版目次

## 第1章 はじめに

図版1. 1 調査地全景（上空より）

## 第2章 1区の調査

図版2. 1	T 1 完掘状況（西より）	2	T 1 土層（西より）
3	T 2 完掘状況（西より）	4	T 2 土層（東より）
5	T 3 完掘状況（西より）	6	T 3 土層（西より）
7	T 4 完掘状況（西より）	8	T 4 土層（西より）
図版3. 1	T 5 完掘状況（北より）	2	T 5 土層（東より）
3	T 6 完掘状況（南より）	4	T 6 土層（東より）
5	T 7 完掘状況（東より）	6	T 7 土層（南より）
7	T 8 完掘状況・土層（東より）	8	T 9 土層（西より）

## 第3章 2区の調査

図版4. 1	T10調査前（東より）	2	T10土層（北より）
3	T11調査前（西より）	4	T11土層（東より）
5	T12調査前（西より）	6	T12土層（北より）
7	T13調査前（西より）	8	T13土層（西より）
図版5. 1	枝朶下池3号窯址検出状況①（南より）	2	枝朶下池3号窯址検出状況②（北より）

## 第4章 3区の調査（北梅本悪社谷遺跡）

図版6. 1	T 1 掘削状況（西より）	2	T 2 掘削状況（西より）
3	T 3 掘削状況（東より）	4	T 4 掘削状況（東より）
5	T 5 掘削状況（東より）	6	T 6 掘削状況（東より）
7	T 7 掘削状況（東より）	8	T 8 掘削状況（東より）
図版7. 1	T 9 掘削状況（西より）	2	T10掘削状況（西より）
3	T11掘削状況（東より）	4	T12掘削状況（東より）
5	3区の現況（南西より）		

## 第5章 4区の調査

図版8. 1	T 1～2 地点（西より）	2	T 4～6 地点（西より）
3	T 7～8 地点（西より）	4	T 9～10地点（西より）
5	T12地点（西より）	6	T13～14地点（西より）
7	T15地点（西より）	8	T20地点（西より）

- |       |   |                  |   |                |
|-------|---|------------------|---|----------------|
| 図版9.  | 1 | T 1 土層 (北より)     | 2 | T 2 土層 (北東より)  |
|       | 3 | T 3 土層 (北西より)    | 4 | T 4 土層 (北より)   |
|       | 5 | T 5 土層 (北より)     | 6 | T 6 土層 (北より)   |
|       | 7 | T 7 土層 (南より)     | 8 | T 8 土層 (北より)   |
| 図版10. | 1 | T 9 土層 (西より)     | 2 | T 10 土層 (西より)  |
|       | 3 | T 11 土層 (南より)    | 4 | T 12 土層 (南より)  |
|       | 5 | T 13 土層 (南東より)   | 6 | T 14 土層 (南西より) |
| 図版11. | 1 | T 15 土層 (南より)    | 2 | T 16 土層 (南より)  |
|       | 3 | T 17 土層 (南より)    | 4 | T 20 土層 (南より)  |
|       | 5 | 3・4区の現況 (南より)    |   |                |
| 図版12. | 1 | 小野谷駄場・潮見山南窯址採集遺物 |   |                |

# 第1章 はじめに

## 1. 調査に至る経緯

平成2年～8年の間、松山市教育委員会文化教育課と(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターは、松山市農林土木課の申請に対して、松山市北梅本町の農業道路拡幅整備に伴う埋蔵文化財の確認調査及び本格調査を実施した。

北梅本町一帯には、古代窯址群が広く展開していることは周知のところであり、調査報告書『小野川流域の遺跡』では窯址10基の資料を提示した。よって、今回の確認調査の場所は、窯址や古墳が存在する地域内にあるために実施されたものである。

確認調査は、4次に分けて実施し、調査区名を1～4区として呼称した。

1・2・4区では、埋蔵文化財の確認調査のために試掘溝を計33カ所設定した。その結果、古墳や窯址に関連する遺構・遺物は検出されず、旧地形や土層の測量をし、本格調査は実施しなかった。

3区は、11ヶ所の試掘溝のうち、他には認められない土壌や数点の遺物を確認したため、該当資料の検出地点に限り調査地を拡大し、本格調査を行った。

## 2. 刊行組織 (平成10年3月31日現在)

松山市教育委員会	教 育 長	池田 尚郷
生涯教育部	部 長	三好 俊彦
	次 長	丹下 正勝
文化教育課	課 長	松平 泰定
(財)松山市生涯学習振興財団	理 事 長	田中 誠一
	事 務 局 長	池田 秀雄
	事務局次長	河口 雄三
埋蔵文化財センター	所 長	河口 雄三
	次 長	田所 延行
	調 査 係 長	田城 武志
	主 任	栗田 正芳 (文化教育課職員)
	担 当	梅木 謙一
		高尾 和長
		山本 健一
		河野 史知
		大西 朋子

表1 調査一覧

地区名	所在 (松山市)	面積(m <sup>2</sup> )	調 査 期 間	調 査
1区	北梅本町1378他	20,900	1990年11月19日～同年12月25日	試掘
2区	北梅本町1378他	17,100	1991年11月11日～1992年1月11日	試掘
3区	北梅本町甲695外	900	1994年5月30日～同年6月30日	本格
4区	北梅本町乙690-2外	4,200	1995年9月18日～1996年1月24日	試掘

### 3. 環境 (第1図)

松山平野の東部には、高縄半島西麓を水源とする大小の河川がある。平野の西部、北梅本町一帯を水源とする小野川は、小野・平井地区から来住台地、天山・星ノ岡・東山の伊予三山を経て、松山平野の主要河川である石手川、さらには重信川へと合流し、伊予灘に至る。小野川流域には、縄文時代から中世までの集落跡が数多く展開している。ここでは、小野・平井地区から来住台地までの遺跡を概観する。

#### 先土器～縄文時代

先土器時代の遺物は、石器が五郎兵衛谷古墳、久米小田池遺跡等で表採されている。採集品については、長井数秋氏、重松佳久氏、多田 仁氏により石材や技法に関する論考がなされている(註1)。ただし、現在までに遺構の検出はなく、良好な資料の確認が待たれる。

縄文時代は、後～晩期の資料が散見される。久米窪田森元遺跡では、多量の土器が出土した土坑が検出され、松山平野でも数少ない後期資料として注目される。また、晩期の土器と石器が南久米片廻り遺跡2次調査地より出土している。

#### 弥生時代

来住台地とその周辺地では、前期から終末期までの遺物が出土するが、前期末～中期初頭を除くと遺構数は少ない。

**前期** 近年の調査により、来住台地では、前期末から中期初頭の土坑が多数検出されている。さらに、集落区画の溝が台地北側で3条、南側で2条検出され、集落周縁部の状況が明らかになりつつある。ただし、同時期の住居址は確かなものがなく、集落復元は大きな課題になっている。

**中期** 前半の資料は少ないが、後半の資料は来住廃寺15次調査地に良好な一括資料がある。ただし、前期に比べると遺構や遺物の数量は極めて少ない。

**後期** 来住廃寺の寺域内では竪穴式住居址が検出されており、集落の存在が確実である。また、廃寺の東方2kmの平井遺跡では完形品を含む多量の土器が出土し、近隣に集落が存在することは間違いない。

#### 古墳時代

前期古墳は確認がない。来住台地周辺は5世紀後半以降になると前方後円墳が造営され、北の山麓にも6世紀以降の群集墳があり、松山平野の主要地となる。古墳の内容と数は、伊予において上位を占める地域である。

集落は、来住台地内外で6世紀の竪穴式住居址が検出されている。徐々にではあるが墳墓と集落の関係を解明する資料は整ってきている。

また、6世紀末には北東部の小野・平井地区で窯業が開始され、7世紀代には須恵器の生産が活発化する。本書で取り上げる遺跡は、この窯址群のなかにある。

#### 古代

来住台地上には、官衙遺構が展開する。約80次におよぶ調査と研究では、西日本的に評価される遺跡であることが判明してきた。

現在、来住台地上での調査は、専任の担当者による遺構の年代決定と遺構間の関係が整理され、教育委員会により調査方針や整備に向けての検討がなされている。市内唯一の学術調査地帯である。



①北梅本悪社谷遺跡 ②駄場姥ヶ懐窯址 ③葉佐池古墳 ④上刃屋遺跡1・2次 ⑤波賀部神社古墳 ⑥開遺跡1・2次 ⑦采住庵寺 ⑧今在家遺跡 ⑨南久米片廻り遺跡2次 ⑩福音小学校構内遺跡  
 ⑪石井幼稚園遺跡 ⑫南中学校構内遺跡 ⑬道後湯月城遺跡 ⑭祝谷六丁場遺跡 ⑮文京遺跡 ⑯松山大学構内遺跡 ⑰若草町遺跡 ⑱朝日台2号墳 ⑳宮前川遺跡

第1図 松山平野の主要遺跡分布図 (S=1:100,000)

## 中世～近世

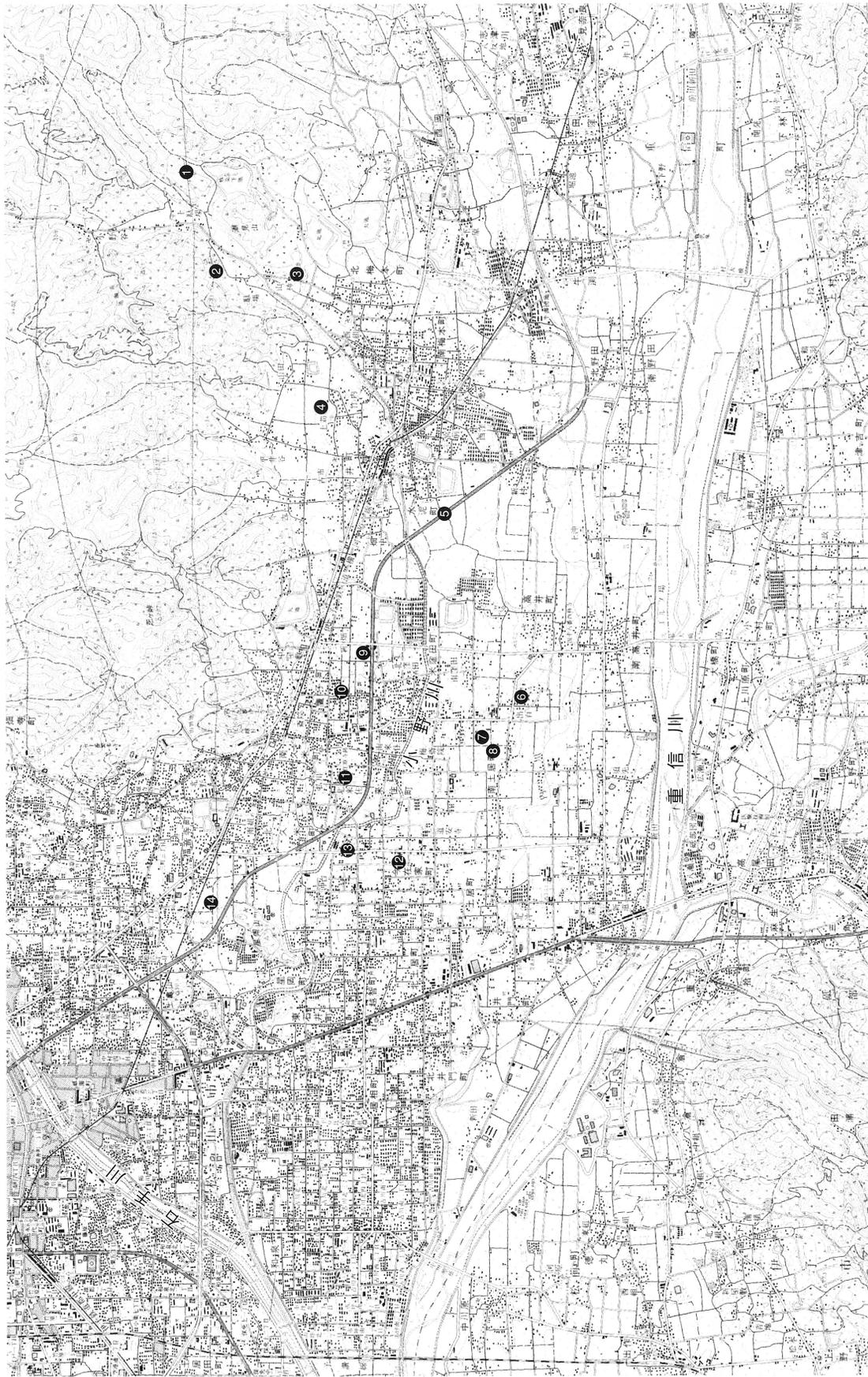
中・近世の遺跡は、来住台地東部の鷹ノ子遺跡一帯で集落遺構の検出が進んでいる。来住廃寺内の北部分では、掘立柱建物群が集中して検出されている。建物は幾重にも検出され、継続的な建物であったことが知れるが、性格については明らかではない。本報告が待たれる。

## 〔註〕

1. 長井数秋 1982 「先土器時代の遺構と遺物」『愛媛県史 原始・古代 I』愛媛県史編さん委員会
- 重松佳久 1992 a 「石手川水系に於ける旧石器文化」『桑原地区の遺跡』（財松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター）
- 重松佳久 1992 b 「小野川水系における旧石器文化」『来住・久米地区の遺跡』（財松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター）
- 多田 仁 1992 「松山平野の石器文化」『祝谷アイリ遺跡』（財松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター）

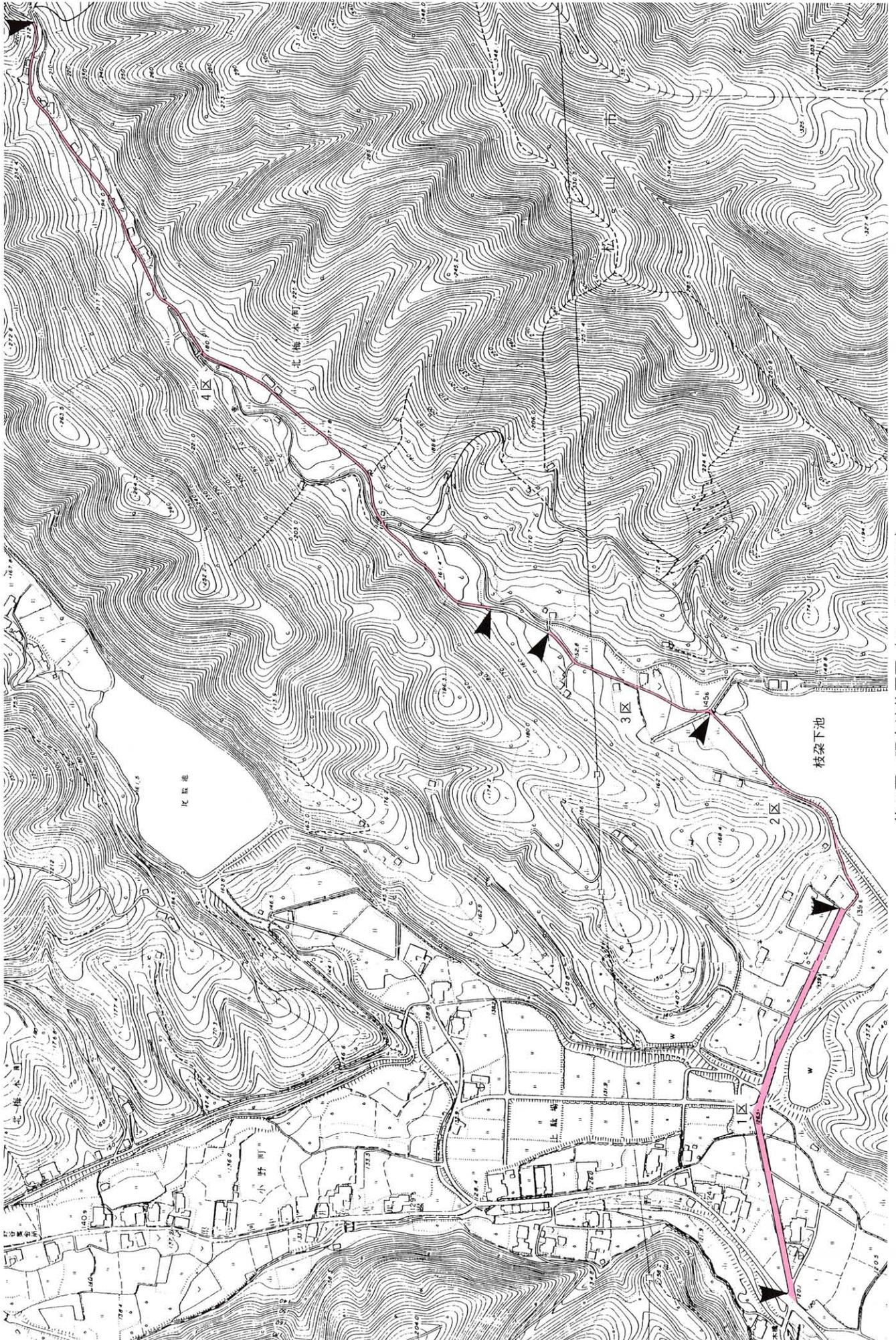
## 〔文献〕

- 岸 郁男・森 光晴 他 1979 『来住廃寺』松山市教育委員会
- 森 光晴 1983 『国道11号バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書』松山市教育委員会
- 梅木謙一 編 1992 『来住・久米地区の遺跡』（財松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター）
- 西尾幸則 編 1993 『来住廃寺遺跡－第15次調査－』松山市教育委員会・（財松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター）
- 橋本雄一 1994 『北久米浄蓮寺遺跡－3次調査地－』松山市教育委員会・（財松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター）
- 宮内慎一 1996 『来住廃寺－第19次調査－』松山市教育委員会・（財松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター）
- 梅木謙一 編 1996 『小野川流域の遺跡』松山市教育委員会・（財松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター）
- 栗田茂敏 1997 『檜山峠7号墳』松山市教育委員会、（財松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター）
- 西尾幸則・栗田茂敏 他 1987 『松山市埋蔵文化財調査年報 I』松山市教育委員会
- 西尾幸則・重松佳久 他 1989 『松山市埋蔵文化財調査年報 II』松山市教育委員会
- 田城武志 編 1991 『松山市埋蔵文化財調査年報 III』松山市教育委員会・松山市立埋蔵文化財センター
- 田城武志 編 1992 『松山市埋蔵文化財調査年報 IV』（財松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター）
- 梅木謙一 編 1993 『松山市埋蔵文化財調査年報 V』松山市教育委員会・（財松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター）
- 栗田正芳 編 1994 『松山市埋蔵文化財調査年報 VI』松山市教育委員会・（財松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター）
- 田城武志 編 1995 『松山市埋蔵文化財調査年報 VII』松山市教育委員会・（財松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター）
- 田城武志・宮内慎一 1996 『松山市埋蔵文化財調査年報 VIII』松山市教育委員会・（財松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター）
- 田城武志・山之内志郎 1997 『松山市埋蔵文化財調査年報 IX』松山市教育委員会・（財松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター）



①北梅本悪社遺跡 ②駄場姥ヶ懐竈址 ③葉佐池古墳 ④上刃屋遺跡1・2次 ⑤平井遺跡 ⑥波賀部神社古墳 ⑦開遺跡1次 ⑧開遺跡2次 ⑨久米窪田森元遺跡 ⑩鷹ノ子遺跡  
⑪来住庵寺 ⑫今在家遺跡 ⑬南久米片廻り遺跡2次 ⑭福富小学校構内遺跡

第2図 調査地周辺の遺跡分布図 (S=1:50,000)



第3図 調査位置図 (S=1:5,000)

## 第2章

# 1 区 の 調 査



## 第2章 1区の調査

### 1. 調査の経過

#### (1) 経過

調査は1990（平成2）年11月～12月に1区を、1991（平成3）年11月～1992（平成4）年1月に2区の試掘調査を行った。調査地は県道河中・平井停車場線から枝朶下池に至る全長670mで、農業道路の拡幅整備工事に伴う事前調査である。このうち1区は西側の長さ370m区間である。1区の調査はすでにある道路の横に幅2m、長さ20～40mのトレンチを9本設定した。調査は表土掘削の後、遺構の検出作業を行った。さらに、探堀を行い、土層の堆積状況を調査した。

#### (2) 調査組織

調査地	松山市北梅本町1378
調査期間	1990（平成2）年11月19日～同年12月25日
調査面積	20,900m <sup>2</sup>
調査担当	調査員 松村 淳（平成5年退職） 調査員補 眞木 潔（平成4年退職）

### 2. 層位

基本層位は、第Ⅰ層耕作土（灰色土）・造成土、第Ⅱ層床土（黄灰色土）、第Ⅲ層地山（黄色土）、第Ⅳ層黄褐色礫である。

調査区の地形は、T1～4地点までは緩やかな傾斜をもち、各トレンチは段々な水田と畑に設置した。T5・6地点は丘陵部の水田と雑木林の中にある。T7地点は緩やかな斜面の果樹園の中にある。T8・9地点は平坦な水田地である。

### 3. 遺構と遺物

#### T1（第4・5図、図版2）

T1は調査地西部にあり、既設道路の北側に設定した。トレンチの規模は長さ26m、幅2mで、地表下35～120cmまで掘り下げた。層位は基本層位の第Ⅰ層、第Ⅱ層、第Ⅳ層を検出したが、第Ⅲ層は未検出である。各層位の堆積は、第Ⅰ層35cm、第Ⅱ層5cm、第Ⅳ層80cmを測る。出土物はない。

#### T2（第4・5図、図版2）

T2は調査地西部にあり、既設道路の北側に2本を設定した。トレンチの規模はT2-①が長さ11m、幅2m、T2-②が長さ14.5m、幅2mで、地表下25～120cmまで掘り下げた。層位は基本層位の第Ⅰ層、第Ⅱ層、第Ⅳ層を検出したが、第Ⅲ層は未検出である。各層位の堆積は、第Ⅰ層25cm、第Ⅱ層4cm、第Ⅳ層90cmを測る。出土物はない。

## 1 区 の 調 査

### T 3 (第4・5図、図版2)

T 3は調査地の西部にあり、既設道路の北側に設定した。トレンチの規模は長さ21m、幅2mで地表下20～140cmまで掘り下げた。層位は基本層位の第Ⅰ層、第Ⅱ層、第Ⅲ層(部分的に)、第Ⅳ層を検出した。各層位の堆積は第Ⅰ層20cm、第Ⅱ層10cm、第Ⅲ層3～12cm、第Ⅳ層100cmを測る。出土物はない。

### T 4 (第4・5図、図版2)

T 4は調査地の西部にあり、既設道路の北側に設定した。トレンチの規模は長さ42m、幅2mで、地表下25～115cmまで掘り下げた。層位は基本層位の第Ⅰ層、第Ⅱ層、第Ⅲ層(部分的に)、第Ⅳ層を検出した。各層位の堆積は第Ⅰ層25cm、第Ⅱ層10cm、第Ⅲ層15cm、第Ⅳ層65cmを測る。出土物はない。

### T 5 (第4・5図、図版3)

T 5は調査地の中央部にあり、既設道路の南側に設定した。トレンチの規模は長さ24m、幅2mで、東側を一部5×8m拡張し、地表下8～120cmまで掘り下げた。層位は基本層位の第Ⅰ層と第Ⅲ層を検出したが、第Ⅱ層と第Ⅳ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅰ層8cm、第Ⅲ層110cmを測る。出土物は土師器片が数点出土した。

### T 6 (第4・5図、図版3)

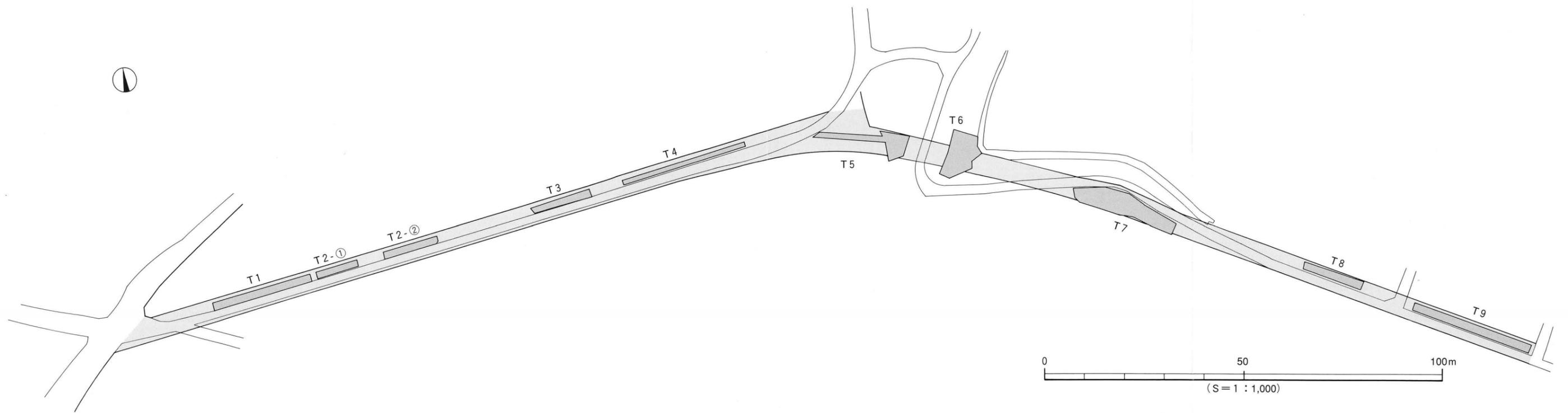
T 6は調査地中央部の緩やかな斜面にあり、古墳及び窯址が想定されたため地形測量を行い、その後トレンチ調査を行った。トレンチの規模は長さ8m、幅5mで、地表下35～70cmまで掘り下げた。調査の結果、古墳及び窯址は検出されなかった。層位は第Ⅰ層と第Ⅲ層を検出したが、第Ⅱ層と第Ⅳ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅰ層35cm、第Ⅲ層20cmを測る。出土物はない。

### T 7 (第4・5図、図版3)

T 7は調査地の中央部にあり、既設道路の南側に設定した。トレンチの規模は長さ27.5m、幅4mで、地表下5～90cmまで掘り下げた。層位は基本層位の第Ⅰ層と第Ⅲ層を検出したが、第Ⅱ層と第Ⅳ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅰ層5cm、第Ⅲ層85cmを測る。出土物はない。

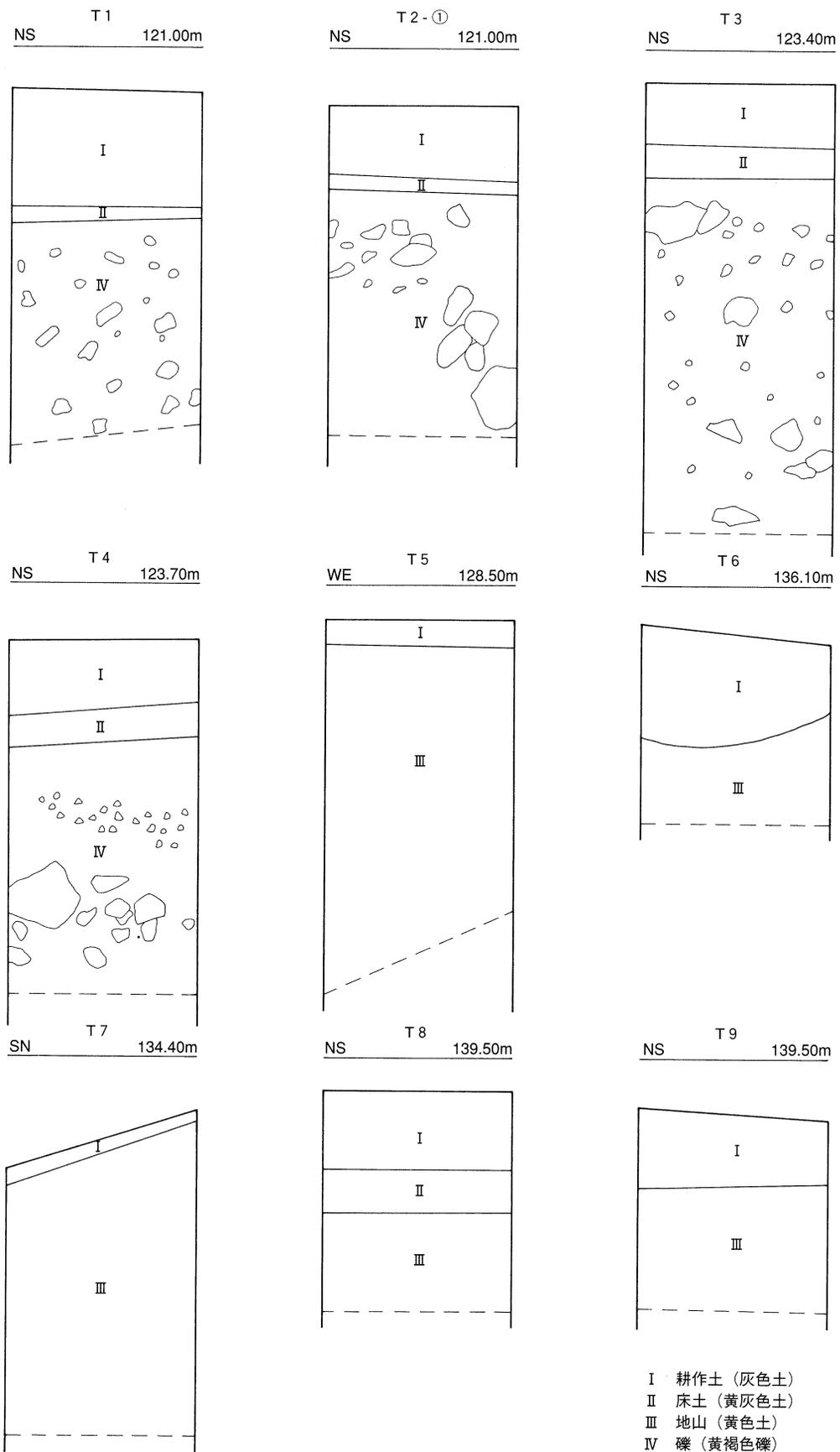
### T 8 (第4・5図、図版3)

T 8は調査地の東側にあり、既設道路の北側に設定した。トレンチの規模は長さ16m、幅2mで、地表下10～80cmまで掘り下げた。層位は基本層位の第Ⅰ層、第Ⅱ層、第Ⅲ層を検出したが、第Ⅳ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅰ層10cm、第Ⅱ層20cm、第Ⅲ層50cmを測る。遺構はトレンチの東側より自然流路の落ちを検出した。規模は検出長2.0m、幅0.9m、深さ10cmを測る。埋土は明褐色土である。出土物は、土師器片が数点出土した。



第4図 調査地位置図

遺構と遺物



第5図 土層柱状図 (S = 1 : 20)

## 1 区 の 調 査

T 9 (第 4・5 図、図版 3)

T 9 は調査地の東側にあり、既設道路の北側に設定した。トレンチの規模は長さ31m、幅 2 mで、地表下25～65cmまで掘り下げた。層位は基本層位の第 I 層と第 III 層を検出したが、第 II 層と第 IV 層は未検出である。各層位の堆積は第 I 層25cm、第 III 層40cmを測る。出土物はない。

## 4 . 小 結

調査の結果、T 1～4の間には、黄褐色礫層が広い範囲に堆積している事を確認した。この礫層は、調査地の西側を北から南に流れる小野川の氾濫により形成されたものと思われる。T 5～9の間では窯址や古墳を想定していたが、それらに関する資料は検出されなかった。しかし、T 8の自然流路内とT 5からは、土師器片が出土したことより、調査地周辺部（高所部）には遺構が存在すると考えられる。

## 第3章

# 2 区の調査



## 第3章 2区の調査

### 1. 調査の経過

#### (1) 経過

調査は、前年に引継ぎを行った。調査地は1区の東側長さ300mの区間である。トレンチは4本を設定した。調査地の地目は、T10・12・13が平地の水田、T11は斜面で果樹園となっていた。調査は表土剥ぎを行い、次に遺構検出を行った。さらには、土層の堆積状況を調査した。なお、トレンチ番号は前年からの続き番号を付した。

#### (2) 調査組織

調査地	松山市北梅本町1378他
調査期間	1991（平成3）年11月11日～1992（平成4）年1月11日
調査面積	17,100m <sup>2</sup>
調査担当	調査主任 田城武志 調査員 高尾和長 大森一成（平成10年退職）

### 2. 層位

基本層位は第Ⅰ層耕作土及び表土（灰色土、腐葉土）、第Ⅱ層床土（黄灰色土）、第Ⅲ層地山（黄色土）である。地形は、T10地点は前年度のT9地点と同じで平坦な水田である。T11地点は丘陵裾の斜面で、果樹園になる。T12・13地点は平坦な水田である。T11・13地点の南側には枝朶下池が接して広がっている。

### 3. 遺構と遺物

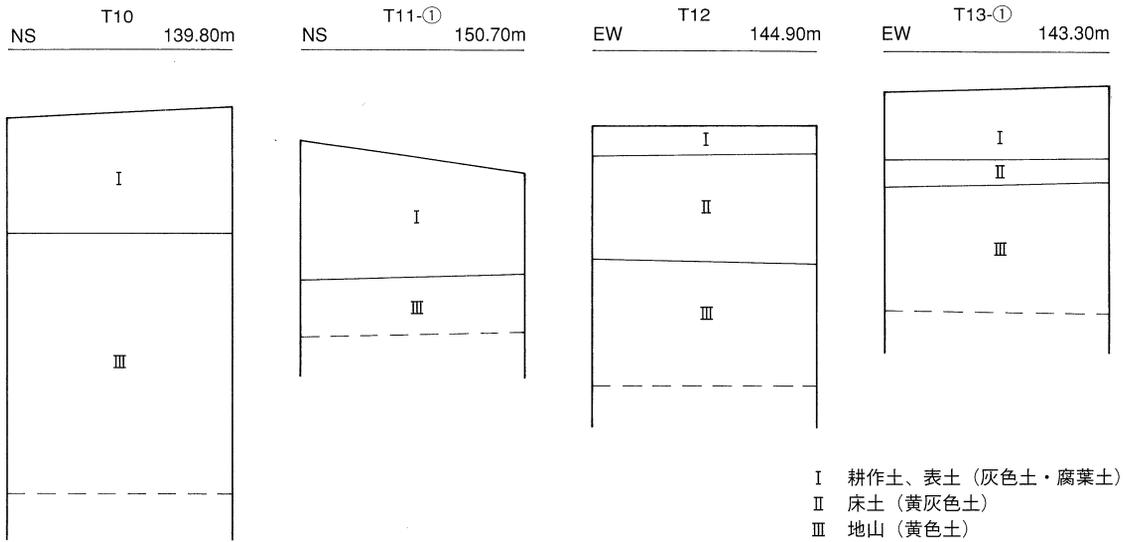
#### T10（第6・7図、図版4）

T10は調査地の西部にあり、既設道路の北側に設定した。トレンチの規模は長さ32m、幅1.5mで、地表下25～105cmまで掘り下げた。層位は基本層位の第Ⅰ層と第Ⅲ層を検出したが、第Ⅱ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅰ層25cm、第Ⅲ層80cmを測る。出土物はない。

#### T11（第6・7図、図版4）

T11は調査地の中央部にある。調査前は丘陵部の果樹園であった。丘陵部であるため古墳及び窯址を想定し、まず地形測量を行った。トレンチは尾根にそう2本、尾根に直交する2本の計4本を設定した。トレンチの規模は、T11-①は長さ16m、幅2m、T11-②は長さ9m、幅1m、T11-③は長さ4m、幅1m、T11-④は長さ4m、幅1mで、地表下35～50cmまで掘り下げた。層位は基本層位の第Ⅰ層、第Ⅲ層を検出したが、第Ⅱ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅰ層35cm、第Ⅲ層15cmを測る。古墳や窯址は検出されず、出土物もない。

2 区 の 調 査



第 6 図 土層柱状図 (S = 1 : 20)

T 12 (第 6 ・ 7 図、図版 4)

T 12は調査地の東部にあり、既設道路の北側に設定した。トレンチの規模は長さ83m、幅1mで、地表下25～85cmまで掘り下げた。層位は基本層位の第I層、第II層、第III層を検出した。各層位の堆積は第I層10cm、第II層15cm、第III層60cmを測る。出土物は弥生土器片と石器が数点出土した。小片のため図化できるものはない。

T 13 (第 6 ・ 7 図、図版 4)

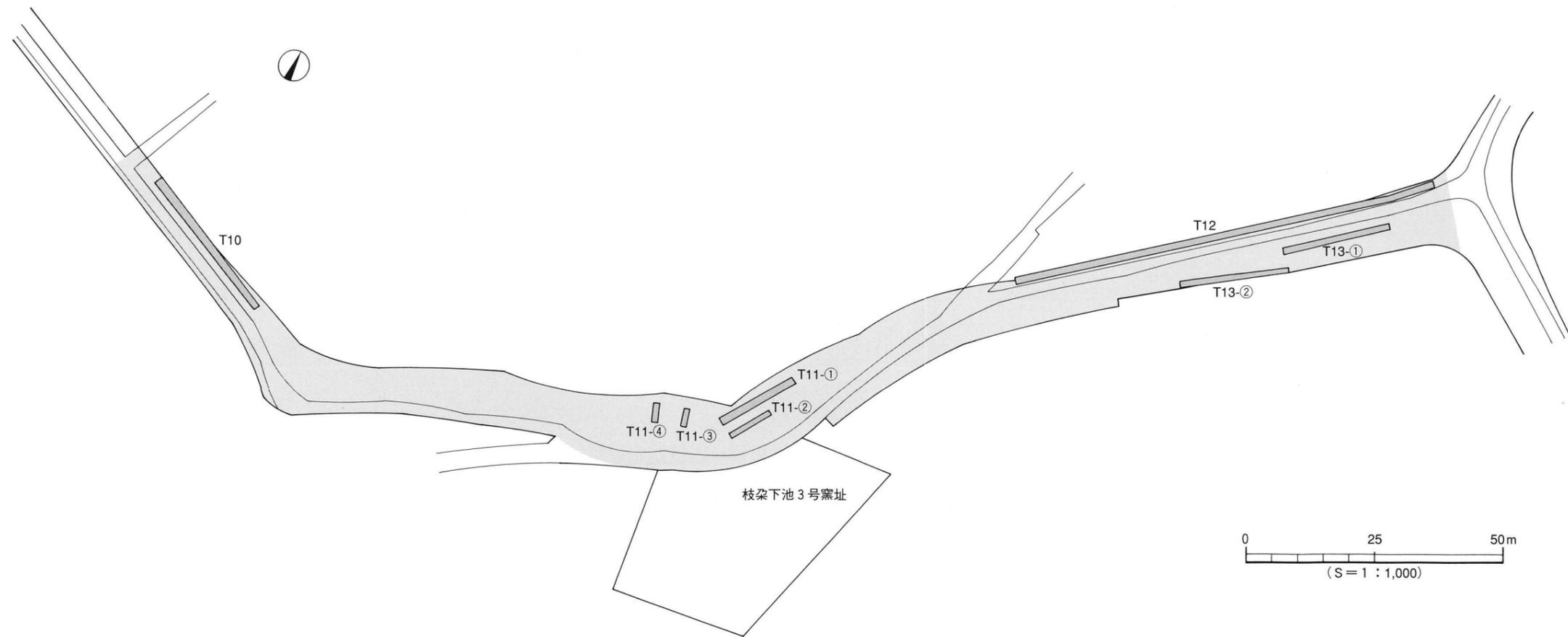
T 13は調査地東側にあり、既設道路の南側に2本設定した。トレンチの規模はT 13-①が長さ22m、幅1m、T 13-②が長さ21m、幅1mで、地表下15～60cmまで掘り下げた。層位は第I層、第II層、第III層を検出した。各層位の堆積は第I層15cm、第II層10cm、第III層35cmを測る。出土物はない。

4. 小 結

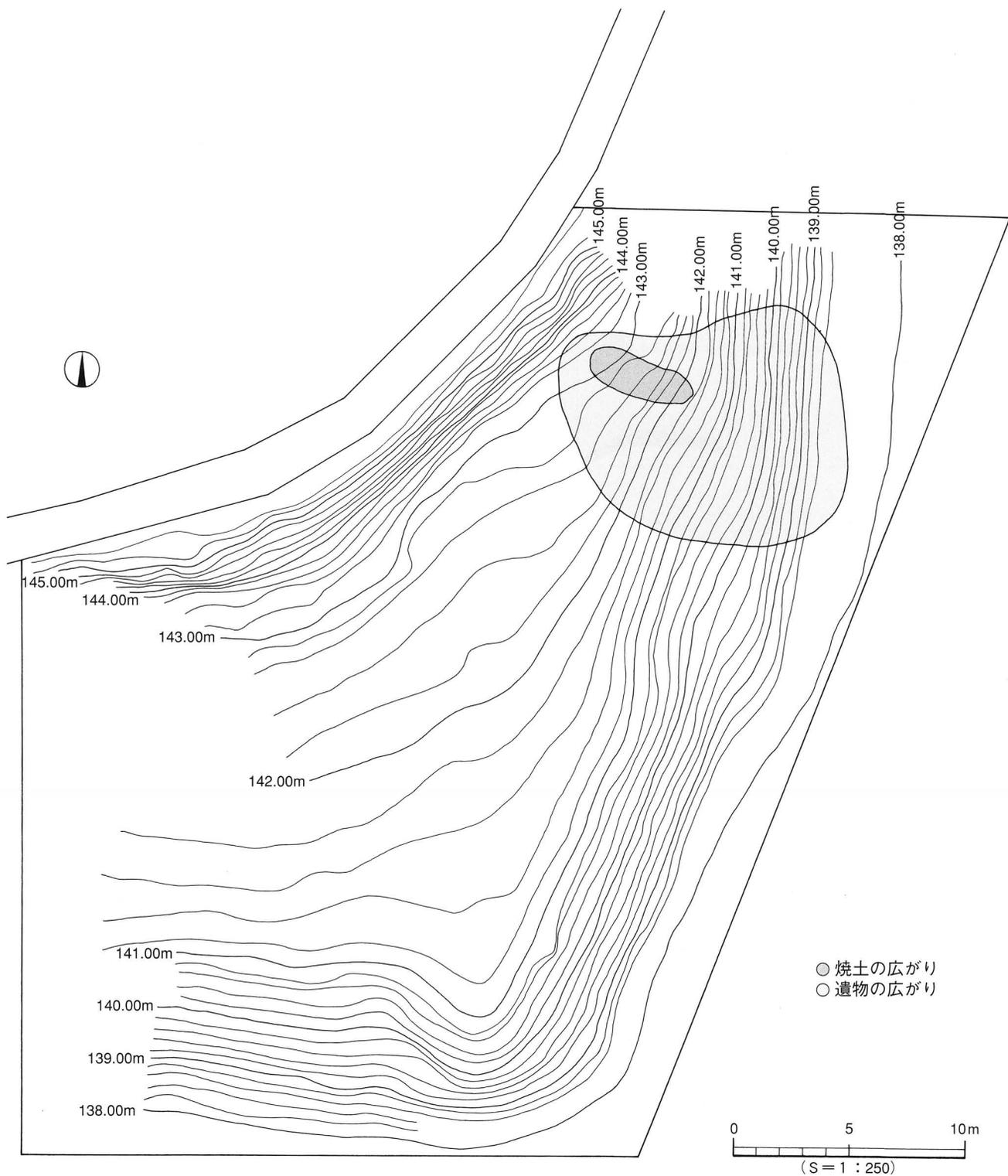
調査の結果、遺構は検出されず、調査地内は居住域でないものと判断した。しかし、T 12からは弥生土器や石器が出土したことより、T 12の北側には遺構の存在が考えられる。また、調査地外にあたるT 11南側の枝朶下池の湖畔からは、窯址のものと思われる焼土と土器を採集した。関連資料として、地形及び遺物の広がりを測量し、遺物の採集を行った。採集した遺物の範囲図と実測図を掲載する。なお、これらの遺物は枝朶下池3号窯址のものともみられる。また、悪社谷1号窯址にても表面採集を行った。採集品は枝朶下池3号窯址出土品につづけて掲載する(梅木謙一編 1996)。

[文献]

梅木謙一 編 1996 『小野川流域の遺跡』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

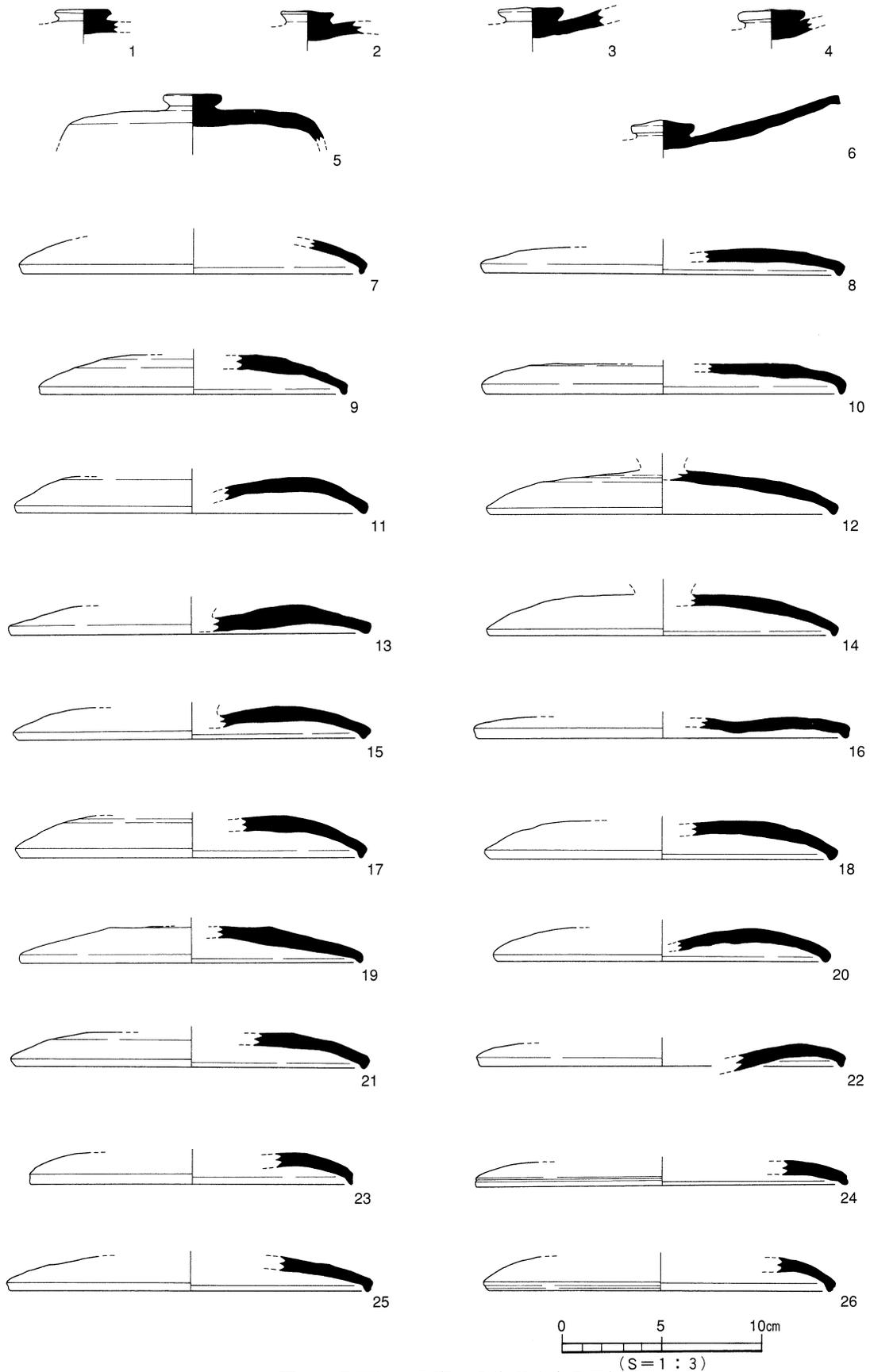


第7図 調査地位置図



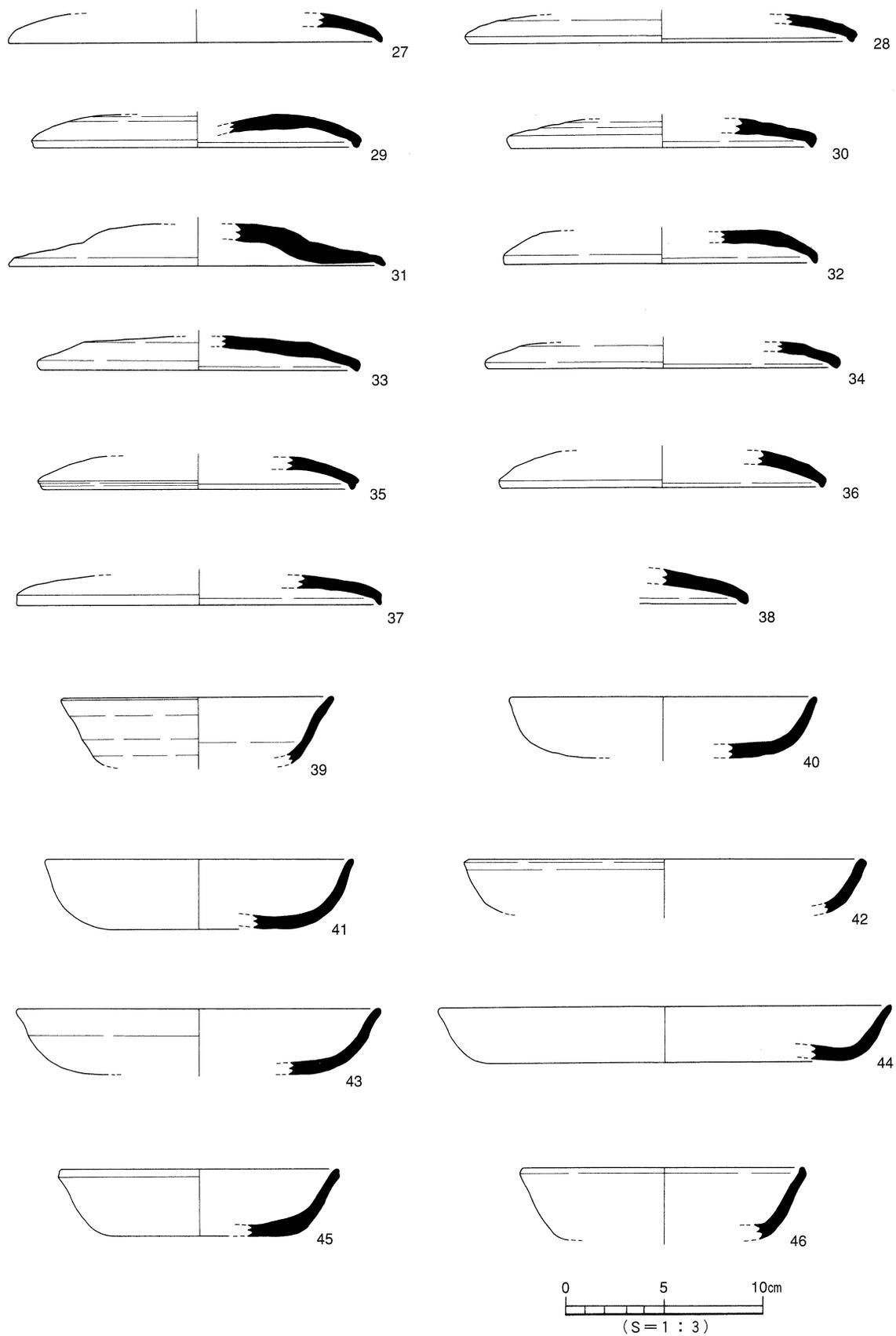
第 8 図 枝朶下池 3 号窯址遺物採集地点測量図

2 区 の 調 査



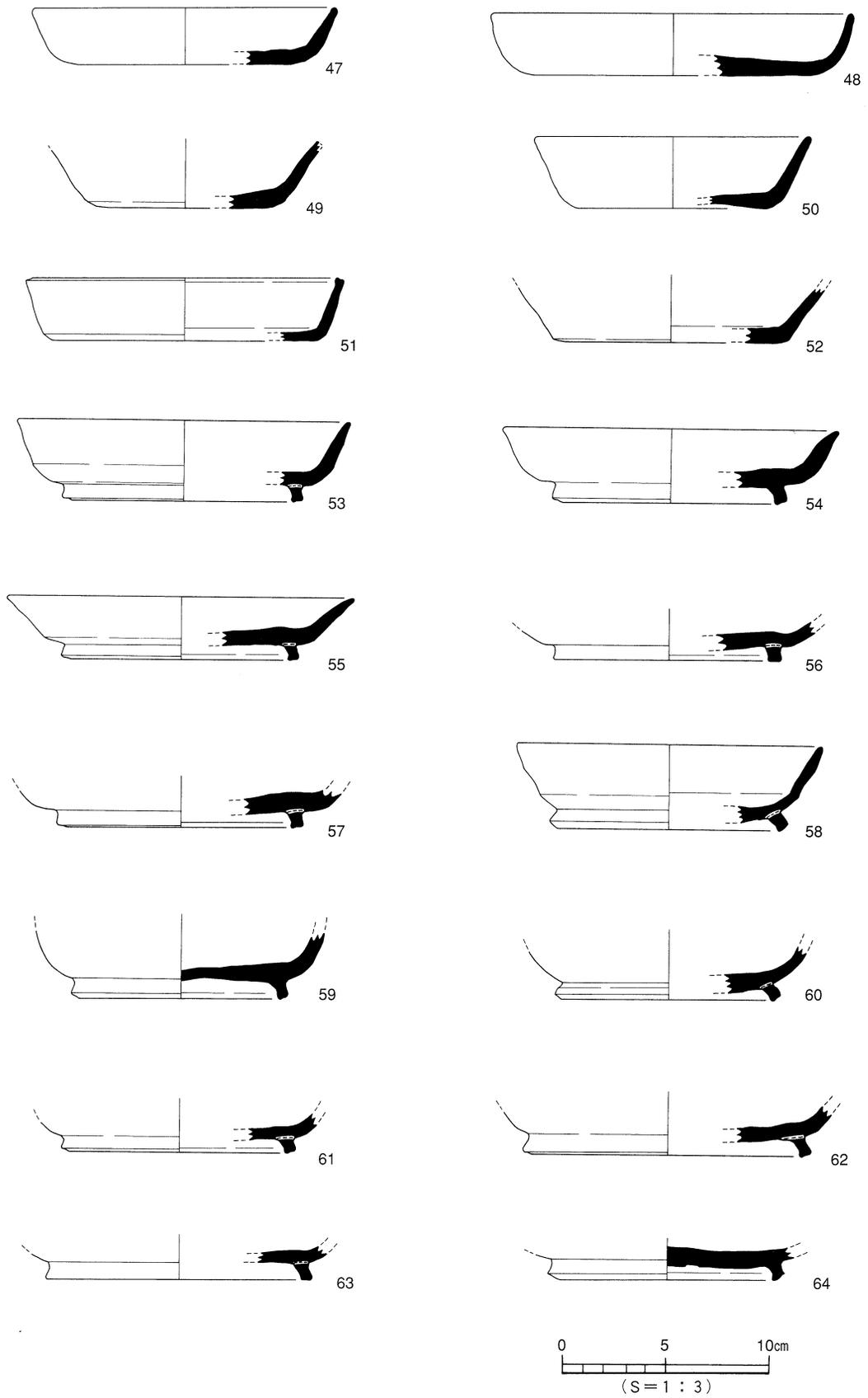
第 9 図 枝朶下池 3 号窠址採集遺物実測図(1)

小 結



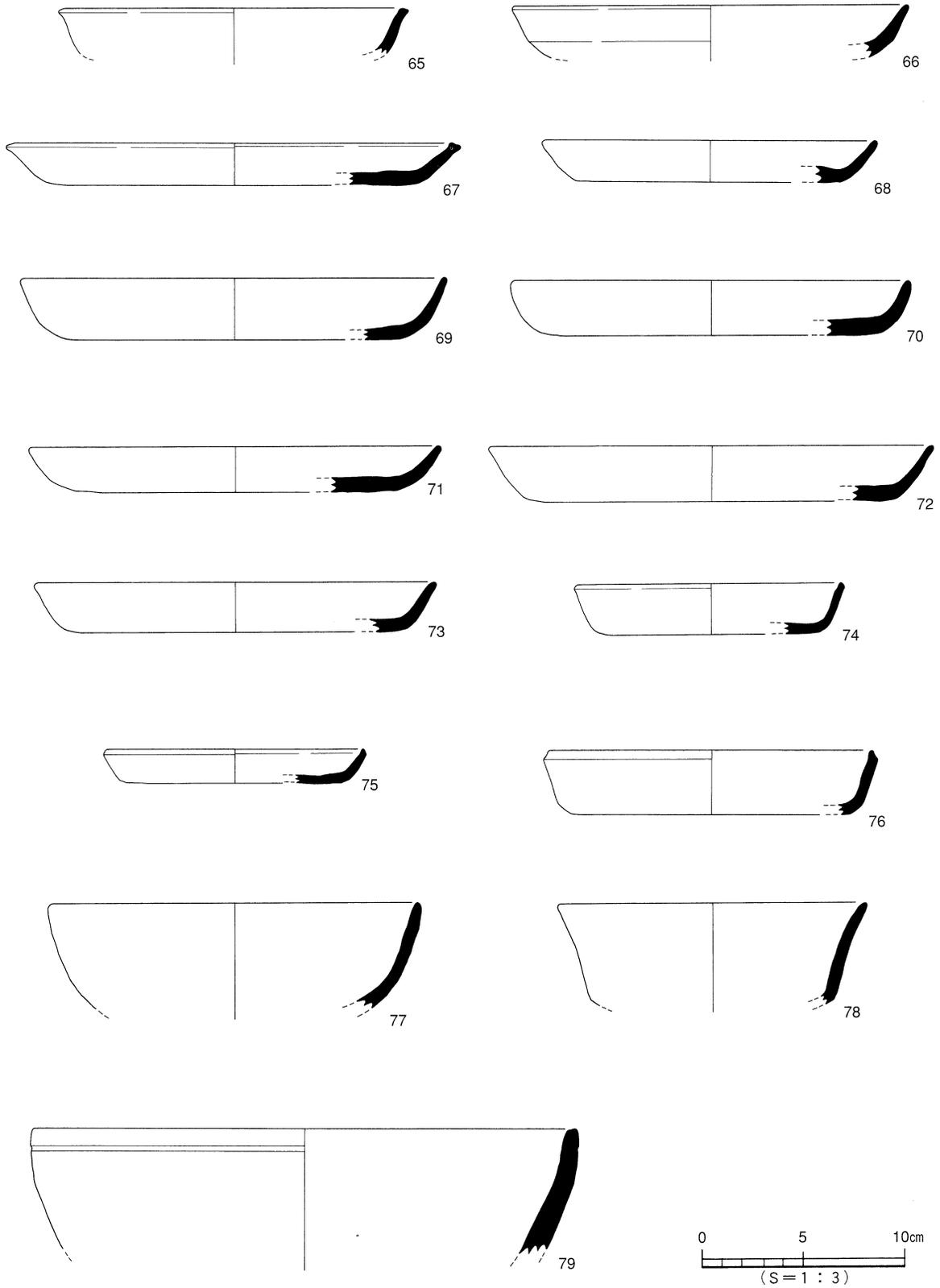
第10図 枝朶下池3号窯址採集遺物実測図(2)

2 区 の 調 査



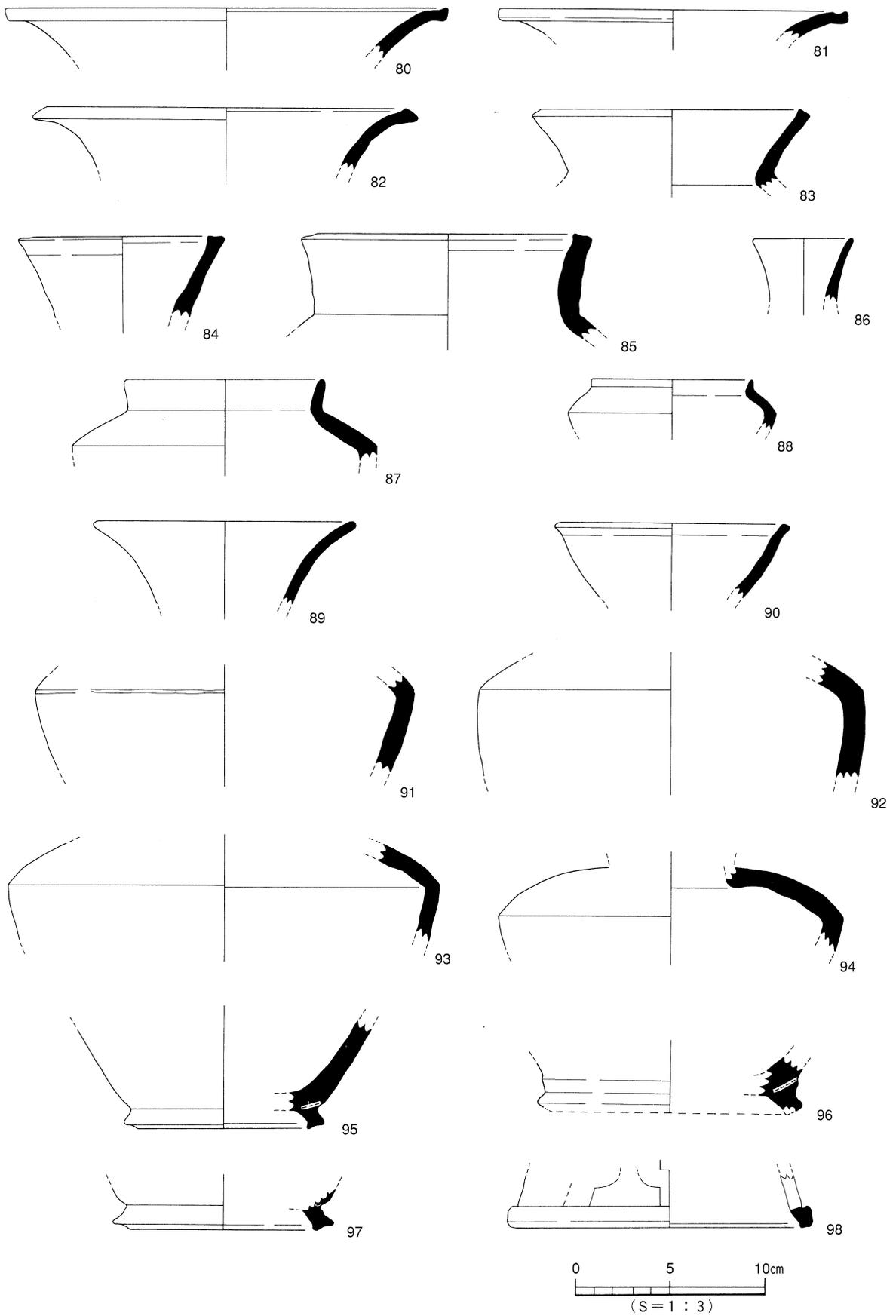
第11図 枝朶下池3号窯址採集遺物実測図(3)

小 結



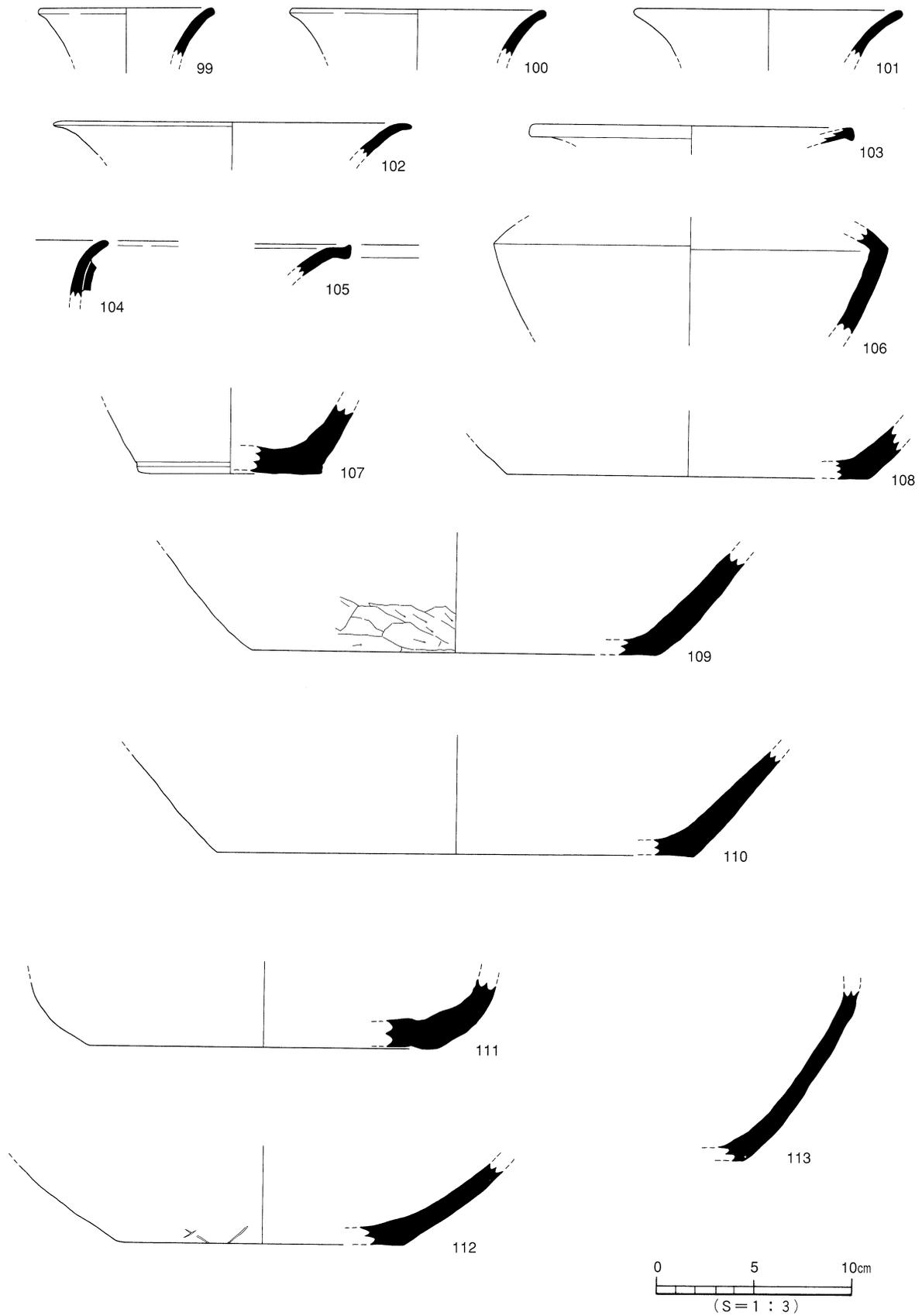
第12図 枝朶下池3号窯址採集遺物実測図(4)

2 区 の 調 査



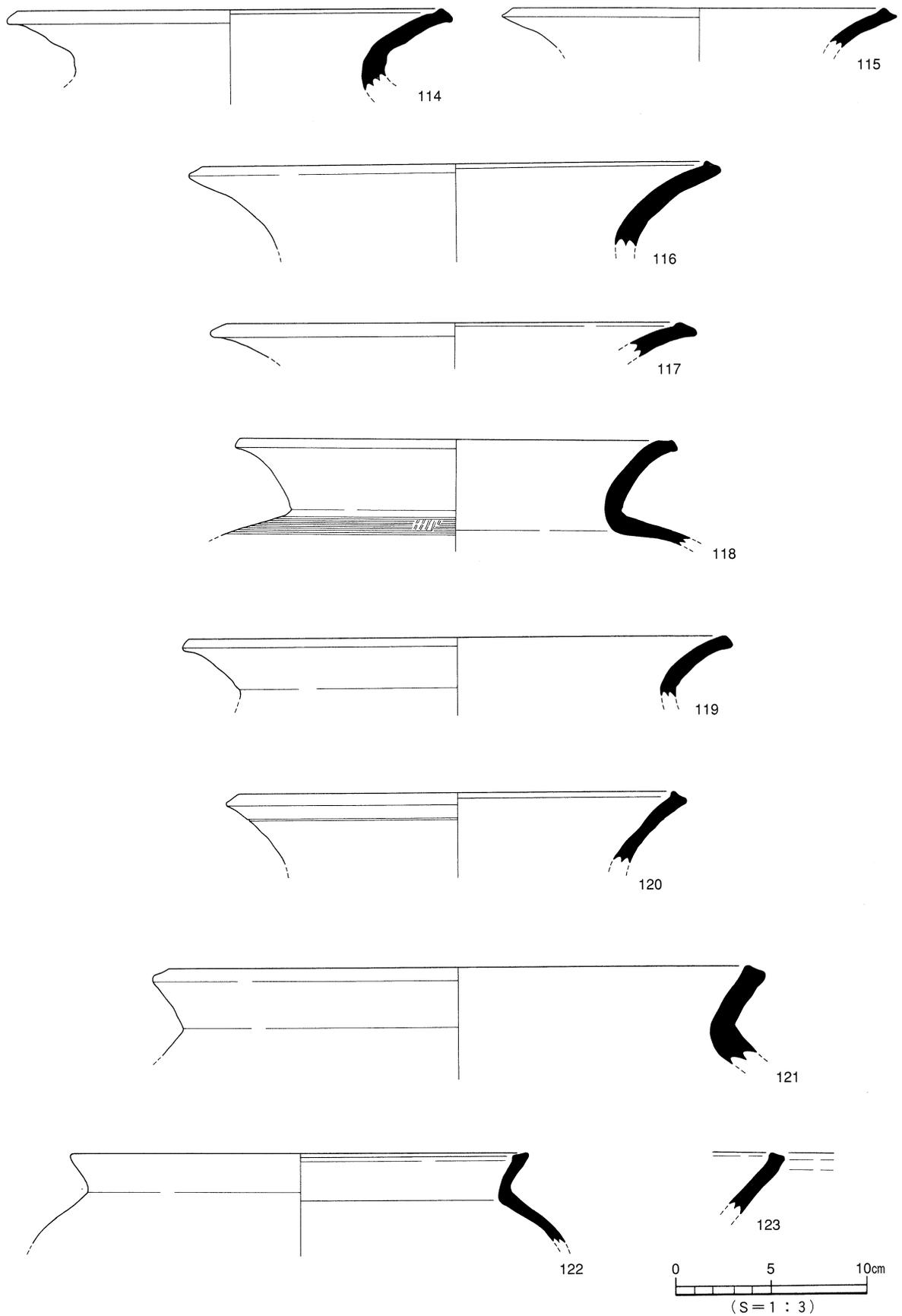
第13図 枝朶下池3号窯址採集遺物実測図(5)

小 結



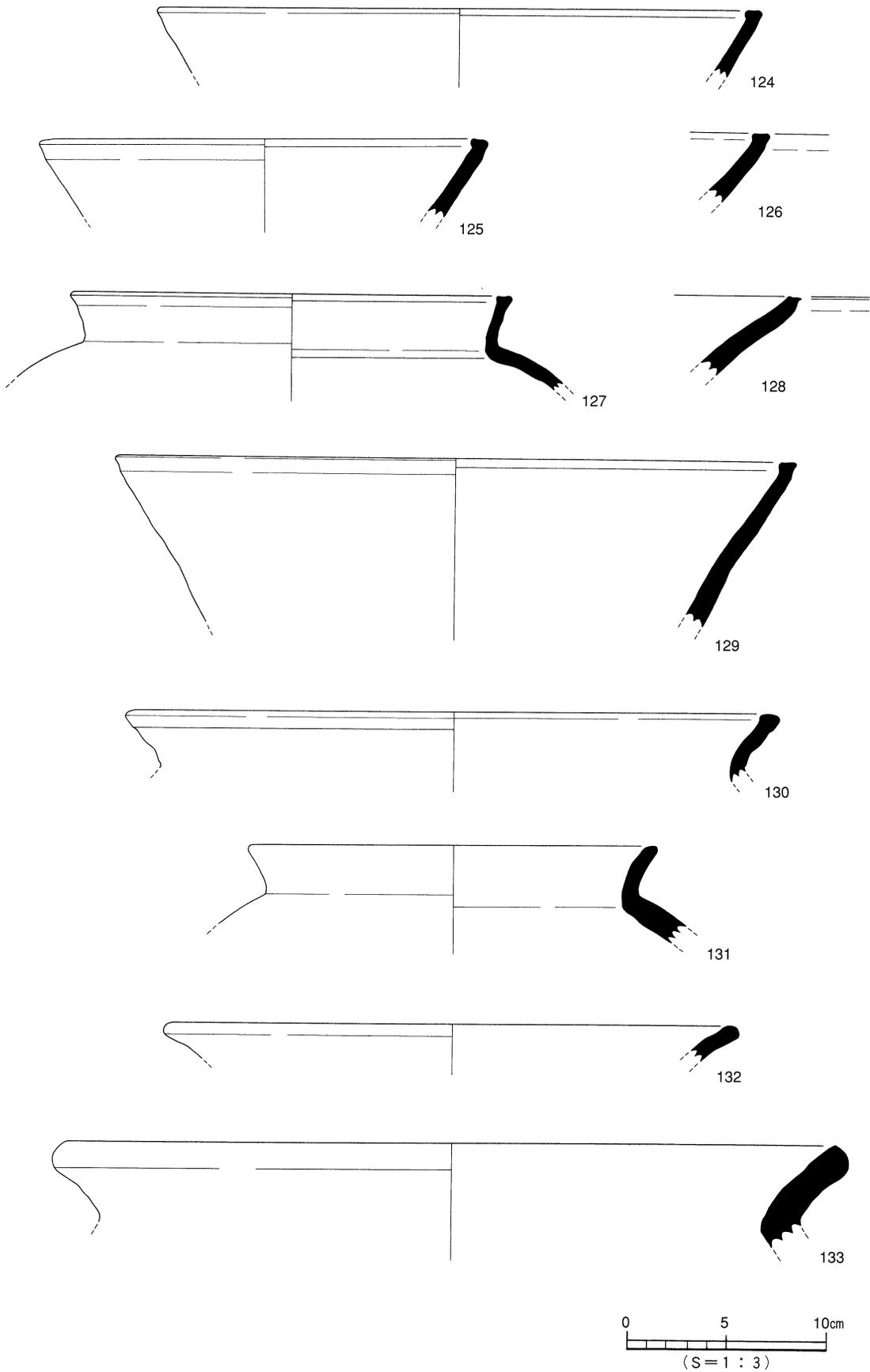
第14図 枝朶下池3号窯址採集遺物実測図(6)

2 区 の 調 査



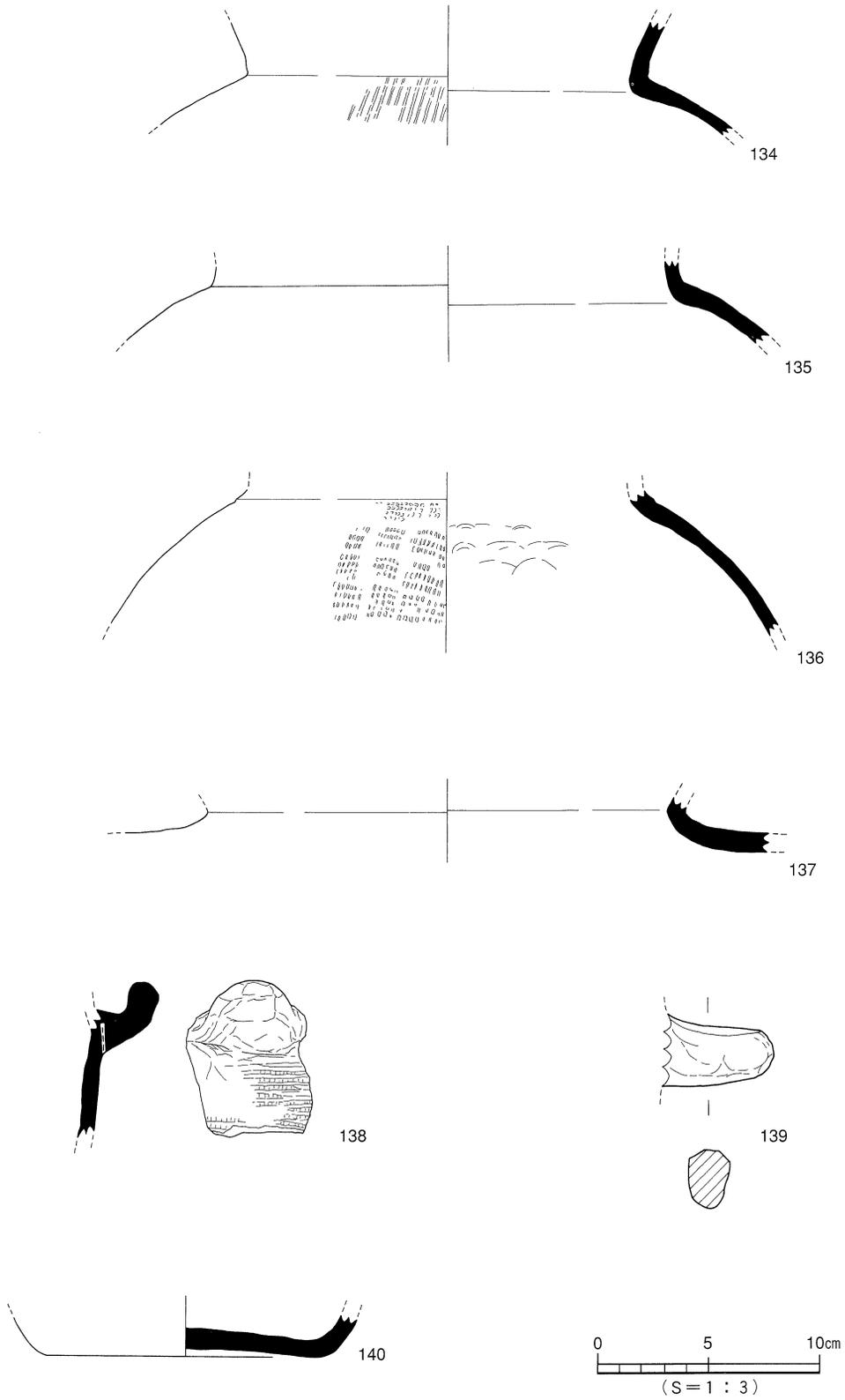
第15図 枝朶下池3号窯址採集遺物実測図(7)

小 結

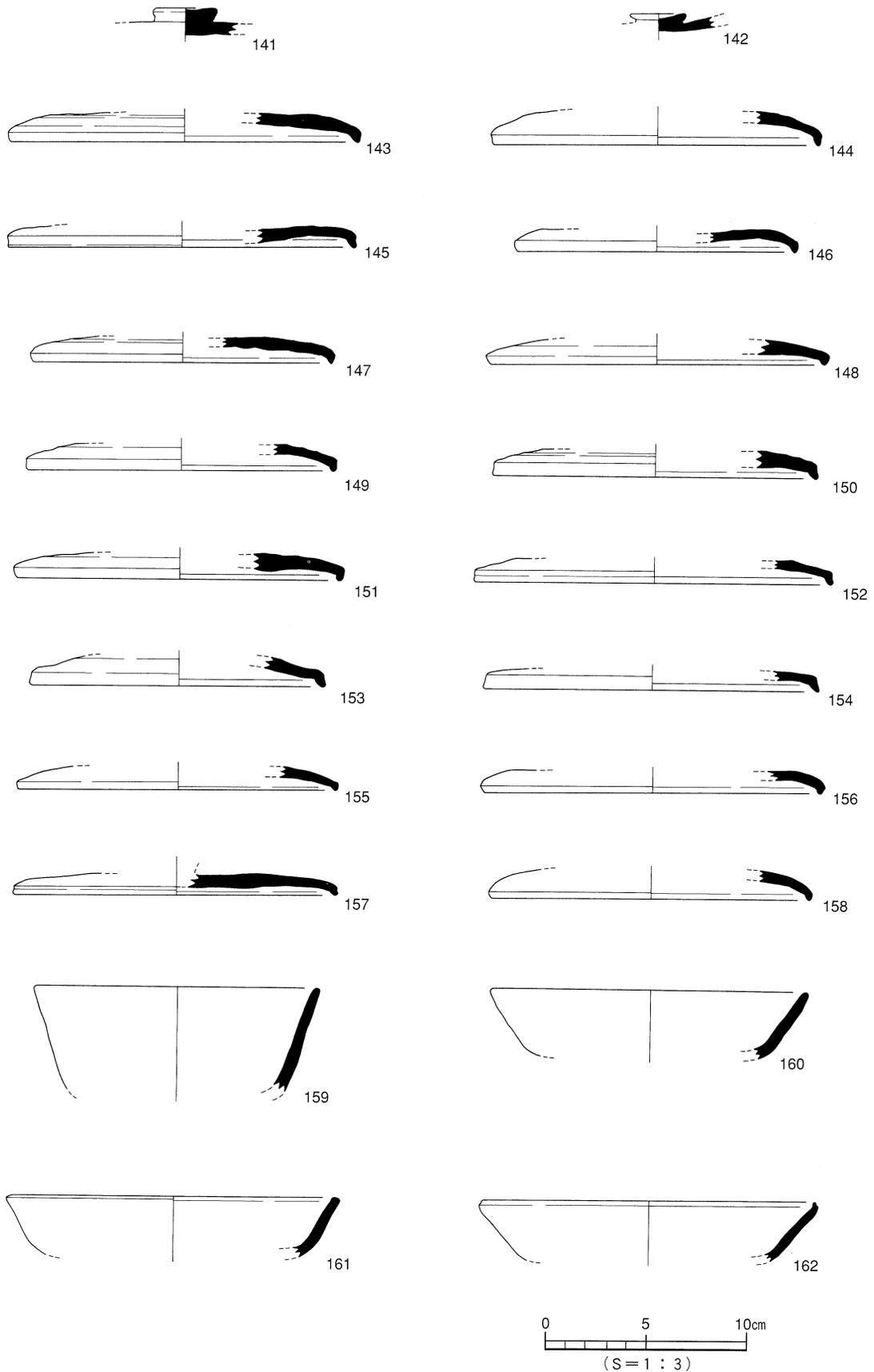


第16図 枝朶下池3号窠址採集遺物実測図(8)

2 区 の 調 査

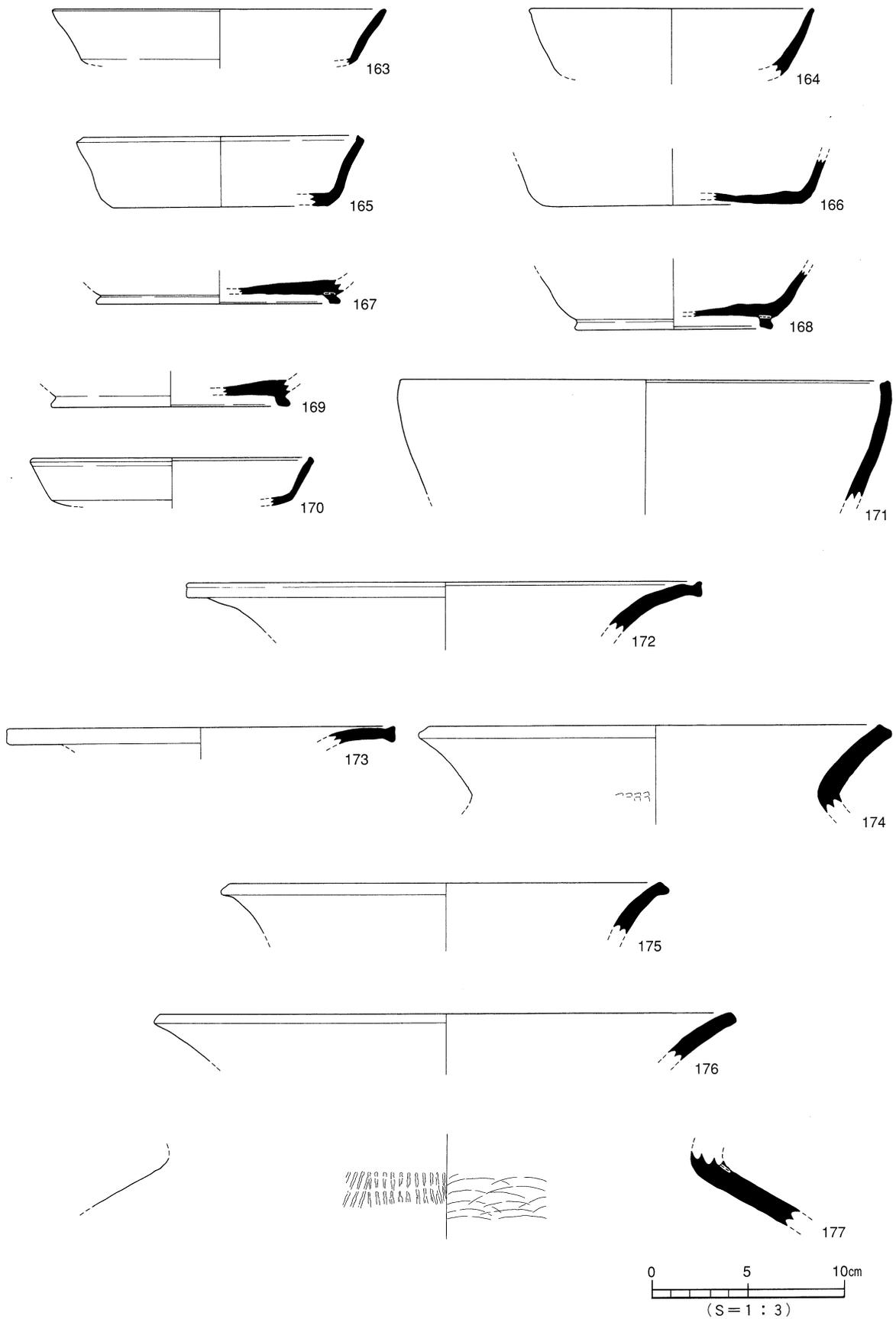


第17図 枝朶下池3号窯址採集遺物実測図(9)



第18図 悪社谷1号窯址採集遺物実測図(1)

2 区 の 調 査



第19図 悪社谷1号窯址採集遺物実測図(2)

遺物観察表

遺物一覧（作成者：平岡直美）

- (1) 遺物の計測値及び観察一覧である。
- (2) 遺物観察表の各記載について。

法 量 欄 ( ) : 復元推定値

形態・施文欄 土器の各部位名称を略記。例) 天→天井部、口→口縁部、胴上→胴部上位、裾→裾部、胴底→胴部～底部。

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記した。例) 砂→砂粒、長→長石、石→石英、密→精製土。( )中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。例) 石・長(1~4)→「1~4mm大の石英・長石を含む」である。

焼成欄の略記について。◎→良好、○→良、△→不良。

表2 枝朶下池3号窯址採集遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面 内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
1	蓋	つまみ径2.8 つまみ高0.6 残高 1.3	扁平なつまみ。	不明	ナデ	緑灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
2	蓋	つまみ径2.6 つまみ高0.7 残高 1.5	扁平で、中央がわずかに凸形をなすつまみ。	ナデ	ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
3	蓋	つまみ径3.3 つまみ高0.7 残高 1.5	扁平なつまみ。	回転ナデ	ナデ 回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
4	蓋	つまみ径3.3 つまみ高0.8 残高 1.5	扁平で、中央が凸形をなすつまみ。	不明	不明	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
5	蓋	つまみ径2.9 つまみ高0.8 残高 2.3	扁平なつまみが付く天井部。	㊦回転ナデ ㊧回転ヘラケズリ	㊦ナデ ㊧回転ナデ	乳黄灰色 紫灰色	密 ◎		
6	蓋	口径(18.2) つまみ径3.2 つまみ高0.9 残高 2.6	天井部は焼け歪む。 つまみは中央が凸形をなす。	回転ナデ	㊦ナデ ㊧回転ナデ	淡灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
7	蓋	口径(16.8) 残高 1.7	口縁端部は下方へ屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	淡灰色 淡灰色	密 ◎		
8	蓋	口径(17.8) 残高 1.3	口縁端部は下方へ短く屈曲し、丸みをもつ。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	回転ナデ	淡灰色 淡灰色	密 ◎		
9	蓋	口径(15.2) 残高 1.9	口縁端部は下方へ屈曲する。	回転ナデ	㊦ナデ ㊧回転ナデ	淡灰色 青灰色	密 ◎		
10	蓋	口径(17.8) 残高 1.5	口縁端部は下方へ屈曲し、丸みをもつ。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	㊦ナデ ㊧回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
11	蓋	口径(17.2) 残高 1.8	口縁端部は丸くおさめる。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	㊦回転ナデ→ナデ ㊧回転ナデ	淡灰黄色 青灰色	密 ◎		
12	蓋	口径(17.0) 残高 2.3	口縁端部のつまみ出しは弱い。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	㊦ナデ ㊧回転ナデ	灰青色 緑灰色	密 ◎		

## 2 区 の 調 査

## 枝 采 下 池 3 号 窯 址 採 集 遺 物 観 察 表

## 土 製 品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形 態 ・ 施 文	調 整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
13	蓋	口径(17.7) 残高 1.4	口縁端部のつまみ出しは弱い。	㊸回転ヘラケズリ →回転ナデ ㊹回転ナデ	㊸ナデ ㊹回転ナデ	淡灰色 淡灰色	密 ◎		
14	蓋	口径(17.3) 残高 2.0	口縁端部は下方へ短く屈曲し、丸みをもつ。	回転ナデ	㊸ナデ ㊹回転ナデ	灰黄色 灰色	密 ◎		
15	蓋	口径(17.2) 残高 1.6	口縁端部のつまみ出しは弱い。	回転ナデ	㊸ナデ ㊹回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
16	蓋	口径(18.3) 残高 1.1	口縁端部は下方へ短く屈曲し、丸みをもつ。	㊸回転ヘラケズリ →ナデ ㊹回転ナデ	㊸ナデ ㊹回転ナデ	濃青灰色 青灰色	密 ◎		
17	蓋	口径(16.8) 残高 2.1	口縁端部は下方へ屈曲する。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 ◎		
18	蓋	口径(16.8) 残高 1.8	口縁端部は下方へ短く屈曲し、丸みをもつ。	回転ナデ	㊸回転ナデ→ナデ ㊹回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
19	蓋	口径(16.8) 残高 1.8	口縁端部のつまみ出しは弱い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
20	蓋	口径(16.4) 残高 1.6	口縁端部のつまみ出しは弱い。	回転ナデ	㊸ナデ ㊹回転ナデ	淡灰色 淡灰色	密 ◎		
21	蓋	口径(17.4) 残高 1.7	口縁端部は下方へ短く屈曲する。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	㊸ナデ ㊹回転ナデ	暗灰色 灰色	密 ◎		
22	蓋	口径(17.9) 残高 1.1	天井部は焼け歪む。口縁端部は下方へ屈曲する。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	回転ナデ	淡灰色 淡灰色	密 ◎	自然釉	
23	蓋	口径(16.0) 残高 1.6	口縁端部は下方へ屈曲し、尖る。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
24	蓋	口径(18.5) 残高 1.2	口縁端部外面に沈線1条。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
25	蓋	口径(17.8) 残高 1.7	口縁端部は下方へ屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎		
26	蓋	口径(16.9) 残高 1.7	口縁端部は下方へ屈曲する。外面に沈線状の凹み。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
27	蓋	口径(18.8) 残高 1.5	口縁端部は丸くおさめる。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
28	蓋	口径(19.4) 残高 1.4	口縁端部のつまみ出しは弱い。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	㊸ナデ ㊹回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
29	蓋	口径(16.2) 残高 1.7	口縁端部は下方へ短く屈曲する。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	㊸ナデ ㊹回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
30	蓋	口径(15.2) 残高 1.4	口縁端部は下方へ屈曲し、やや尖る。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	㊸ナデ ㊹回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎		
31	蓋	口径(18.9) 残高 2.1	口縁端部は下外方へ屈曲する。	㊸不明 ㊹回転ナデ	㊸回転ナデ→ナデ ㊹回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎	自然釉	
32	蓋	口径(15.6) 残高 1.7	口縁端部は下方へ屈曲する。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	㊸ナデ ㊹回転ナデ	白灰色 白灰色	密 ○		

遺物観察表

枝朶下池3号窯址採集遺物観察表 土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
33	蓋	口径(16.0) 残高 1.7	口縁端部のつまみ出しは弱い。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 ◎		
34	蓋	口径(17.6) 残高 1.3	口縁端部のつまみ出しは弱い。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	㊸ナデ ㊹回転ナデ	灰黄色 乳黄色	密 ○		
35	蓋	口径(15.6) 残高 1.7	口縁端部外面に沈線状の凹み。	マメツ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
36	蓋	口径(16.2) 残高 1.9	口縁端部のつまみ出しは弱い。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 ◎		
37	蓋	口径(18.2) 残高 1.5	口縁端部は下方へ屈曲し、やや尖る。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	回転ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1) ○		
38	蓋	残高 1.8	口縁端部のつまみ出しは弱い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 暗灰色	密 ◎		
39	坏	口径(13.5) 残高 3.4	口縁部は外方へ開き、端部は丸くおさめる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎		
40	坏	口径(15.4) 残高 3.1	口縁部は外方へ開き、底部との境は丸みをもつ。	回転ナデ	ナデ	白灰色 白灰色	長(1~1.5) ◎		
41	坏	口径(15.4) 器高 3.5 底径(9.6)	口縁部は外方へ開き、底部との境は丸みをもつ。	㊹回転ナデ ㊸ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
42	坏	口径(20.0) 残高 2.7	口縁部は外方へ開き、端部は面をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
43	坏	口径(18.4) 残高 3.3	口縁部は外反し、端部は丸くおさめる。	㊹回転ナデ ㊸回転ヘラケズリ	㊹回転ナデ ㊸ナデ	暗灰色 青灰色	密 ◎		
44	坏	口径(22.8) 器高 2.8 底径(17.6)	口縁部はやや外反する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
45	坏	口径(13.9) 器高 3.4 底径(9.6)	口縁部はやや外反する。	回転ナデ	㊹回転ナデ ㊸ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
46	坏	口径(14.2) 残高 3.6	口縁部は外方へ開き、端部は内側へ屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
47	坏	口径(14.5) 器高 2.8 底径(10.2)	口縁部は外方へ開き、端部はわずかに内側へ屈曲する。	㊹不明 ㊸ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
48	坏	口径(17.2) 器高 3.0 底径(13.1)	口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は丸くおさめる。	㊹回転ナデ ㊸回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎		
49	坏	残高 3.2 底径(8.6)	口縁部はやや外反して開く。	マメツ	㊹回転ナデ ㊸ナデ	乳灰黄色 乳灰黄色	密 ◎		
50	坏	口径(13.1) 器高 3.4 底径(9.3)	口縁部は外方へ開き、端部は丸くおさめる。	㊹回転ナデ ㊸ナデ	不明	灰色 灰色	密 ◎	窯体付着	
51	坏	口径(14.7) 器高 3.0 底径(12.8)	口縁部は外方へ開き、端部は内側へ屈曲する。	㊹回転ナデ ㊸回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎	自然釉	
52	坏	残高 2.6 底径(11.4)	口縁部と底部の境は明瞭。	㊹回転ナデ ㊸ナデ	回転ナデ	灰色 白灰色	密 ◎		

2 区 の 調 査

枝 架 下 池 3 号 窯 址 採 集 遺 物 観 察 表

土 製 品

(4)

番号	器種	法量 (cm)	形 態 ・ 施 文	調 整		色 調 (外面 内面)	胎 土 焼 成	備 考	図 版
				外 面	内 面				
53	高台坏	口径(15.8) 器高 3.9 底径(10.6)	口縁部は外方に開く。底端部よりやや内側に高台が付く。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎		
54	高台坏	口径(15.8) 器高 3.6 底径(10.2)	口縁部は外反する。底端部よりやや内側に高台が付く。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 ◎		
55	高台坏	口径(16.4) 器高 3.0 底径(10.4)	底端部よりやや内側に高台が付く、内端部は屈曲する。	㊦回転ナデ ㊧ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
56	高台坏	残高 1.9 底径(10.8)	底端部よりやや内側に高台が付く。	㊨回転ナデ ㊩ナデ	㊪ナデ ㊫ナデ	乳灰色 青灰色	密 ◎		
57	高台坏	残高 1.8 底径(10.8)	底端部よりかなり内側に高台が付く。	㊬回転ナデ ㊭ケズリ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 ◎		
58	高台坏	口径(14.6) 器高 4.1 底径(10.6)	底端部に「ハ」の字状の高台が付く。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
59	高台坏	残高 3.1 底径(9.6)	底端部付近に高台が付く。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
60	高台坏	残高 2.6 底径(10.1)	底端部に「ハ」の字状の高台が付く。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
61	高台坏	残高 1.9 底径(10.4)	高台内端部はわずかに屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
62	高台坏	残高 2.4 底径(12.8)	高台は「ハ」の字状に付く。	㊮回転ナデ ㊯回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
63	高台坏	残高 1.6 底径(12.6)	高台は「ハ」の字状に付く。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
64	高台坏	残高 1.6 底径 10.2	焼け歪みあり。高台内端部は屈曲する。	㊰回転ナデ ㊱ケズリ?	ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
65	皿	口径(16.5) 残高 2.3	口縁部は外反して開く。	回転ナデ	回転ナデ	淡灰色 淡灰色	密 ◎		
66	皿	口径(19.4) 残高 2.6	口縁部は外方へ開く。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎		
67	皿	口径(21.6) 器高 2.1 底径(16.2)	口縁部は外方へ開き、端部は内外につまみ出される。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
68	皿	口径(16.2) 器高 2.1 底径(12.8)	口縁部は外方へ開き、端部は丸くおさめる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
69	皿	口径(20.7) 器高 3.1 底径(15.4)	口縁部は外方へ開き、端部は丸くおさめる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
70	皿	口径(19.2) 器高 2.7 底径(15.0)	口縁部は内湾気味に立ち上がる。	㊲回転ナデ ㊳ナデ	回転ナデ	淡灰色 淡灰色	密 ○		
71	皿	口径(19.8) 器高 2.3 底径(15.8)	口縁部は外方へ開き、端部付近でわずかに外反する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
72	皿	口径(21.8) 器高 2.7 底径(17.8)	口縁部は外方へ開き、端部付近でわずかに外反する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	

遺物観察表

枝朶下池3号窯址採集遺物観察表 土製品

(5)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
73	皿	口径(19.6) 器高 2.4 底径(17.0)	口縁部は外方へ開き、端部付近でわずかに外反する。	マメツ	マメツ	白灰色 白灰色	密 ○		
74	皿	口径(12.8) 器高 2.5 底径(10.2)	口縁部は外方へ開き、端部付近でわずかに外反する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
75	皿	口径(12.6) 器高 1.7 底径(10.4)	口縁端部は内側へ屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
76	皿	口径(15.8) 器高 3.2 底径(13.6)	口縁端部は内側へ屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
77	碗	口径(18.0) 残高 5.2	口縁部は内湾気味に立ち上がる。	回転ナデ	回転ナデ	淡褐色 淡褐色	密 △		
78	碗	口径(15.0) 残高 5.0	口縁部は外反する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 淡灰色	密 ◎	自然釉	
79	碗	口径(26.8) 残高 6.1	口縁部外面に沈線が1条巡る。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
80	壺	口径(23.1) 残高 2.6	口縁部は外反して、端部付近で外方へ屈曲し、さらに端部は上方へ屈曲する。	マメツ	マメツ	灰色 灰色	密 ○		
81	壺	口径(18.1) 残高 1.4	口縁部は外反して、端部付近で外方へ屈曲し、さらに端部は上方へ屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
82	壺	口径(19.0) 残高 3.2	口縁部は外反し、端部内面は稜をなす。	回転ナデ	回転ナデ	緑灰色 緑灰色	密 ◎	自然釉	
83	壺	口径(13.7) 残高 4.1	口縁部は外方へ開き、端面はわずかに凹む。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 暗灰色	密 ◎		
84	壺	口径(9.2) 残高 4.3	口縁部は外方へ開き、端面はわずかに凹む。	回転ナデ	回転ナデ	淡灰色 淡灰色	密 ◎		
85	壺	口径(13.6) 残高 5.5	口縁部は直立気味に立ち上がる。端面は凹む。	回転ナデ	回転ナデ	緑灰色 灰色	密 ◎		
86	壺	口径(5.1) 残高 3.3	口縁部は外反する。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
87	短頸壺	口径(10.2) 残高 4.2	口縁部はわずかに外方へ開く。肩部の稜線は明瞭。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
88	短頸壺	口径(8.4) 残高 2.6	肩部の稜線は明瞭。	マメツ	マメツ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
89	長頸壺	口径(13.5) 残高 4.3	口縁部は外反し、端部は丸くおさめる。	回転ナデ	回転ナデ	茶灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
90	長頸壺	口径(11.6) 残高 3.9	口縁部は内湾し、端部付近で外反する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
91	長頸壺	残高 5.0	肩部に沈線状の凹み。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎		
92	長頸壺	残高 6.1	体部は内湾気味。	マメツ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		

2 区 の 調 査

枝 采 下 池 3 号 窠 址 採 集 遺 物 観 察 表

土 製 品

(6)

番号	器種	法量(cm)	形 態 ・ 施 文	調 整		色 調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備 考	図 版
				外 面	内 面				
93	長頸壺	残高 5.2	肩部の稜線は明瞭。	回転ナデ	回転ナデ	白灰色 白灰色	密 ◎	自然釉	
94	長頸壺	残高 4.4	肩部の稜線は明瞭。	回転ナデ	回転ナデ	緑灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
95	長頸壺	残高 4.7 底径 (9.1)	「ハ」の字状の高台の内端部は屈曲する。	回転ナデ	マメツ	灰色 淡灰色	密 ◎	自然釉	
96	長頸壺	残高 2.8	高台は「ハ」の字状に付く。内端部欠損。	回転ナデ	ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
97	長頸壺	残高 2.2 底径 (9.8)	「ハ」の字状の高台の内端部は屈曲する。	回転ナデ		白灰色	密 ◎	自然釉	
98	長頸壺(?)	残高 2.8 底径(15.8)	2ヶ所にスカシがあるが、形状は不明。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
99	長頸瓶	口径(8.8) 残高 2.5	口縁部は外反し、端部は丸くおさめる。	回転ナデ	回転ナデ	黒色 暗灰色	密 ◎	自然釉	
100	長頸瓶	口径(13.2) 残高 2.3	口縁部は外反し、端部は丸くおさめる。	回転ナデ	回転ナデ	淡緑灰色 淡緑灰色	密 ◎	自然釉	
101	長頸瓶	口径(13.3) 残高 2.4	口縁部は外反し、端部は丸くおさめる。	マメツ	マメツ	淡灰色 淡黄灰色	密 ○	自然釉	
102	長頸瓶	口径(18.4) 残高 1.7	口縁部は外反し、端部は尖り気味に丸くおさめる。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
103	長頸瓶	口径(16.4) 残高 0.8	口縁端部は下方へ屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
104	長頸瓶	残高 2.9	口縁部は外反する。焼成時に別個体片付着。	回転ナデ	回転ナデ	緑灰色 緑灰色	密 ◎	自然釉	
105	長頸瓶	残高 1.6	端部付近で外方へ屈曲し、さらに端部で上方へ屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	淡灰色 淡灰色	密 ○		
106	長頸瓶	残高 5.4	肩部の稜線は明瞭。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎		
107	長頸瓶	残高 3.5 底径 (9.3)	平底の底部。沈線状の凹みあり。	㊸ヘラケズリ→ナデ ㊹ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
108	長頸瓶	残高 2.7 底径(18.6)	底部より外方に立ち上がる。	ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎		
109	長頸瓶	残高 5.2 底径(20.8)	底部より外方に立ち上がる。	㊸回転ナデ ㊹ケズリ ㊺ケズリ	回転ナデ	灰色 白灰色	密 ○		
110	長頸瓶	残高 5.4 底径(24.5)	底部より外方に立ち上がる。	㊸回転ナデ ㊹ケズリ ㊺ケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
111	長頸瓶	残高 3.6 底径(18.0)	底部より内湾気味に立ち上がる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 暗灰色	密 ◎		
112	長頸瓶	残高 4.2 底径(14.8)	底部より外方に立ち上がる。	㊸回転ナデ ㊹ナデ	㊸回転ナデ ㊹ナデ	灰色 灰色	密 ◎		

遺物観察表

枝朶下池3号窯址採集遺物観察表 土製品

(7)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
113	長頸瓶	残高 8.8	底部より外方に立ち上がる。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
114	甕	口径(22.0) 残高 4.3	口縁部は外方に開き、内端部を屈曲させる。	回転ナデ	マメツ	灰色 淡灰色	密 ◎		
115	甕	口径(19.4) 残高 2.1	口縁部は外方に開き、端面を凹ませる。	回転ナデ	回転ナデ	淡灰色 淡灰色	密 ◎		
116	甕	口径(26.2) 残高 4.3	口縁部は外方に開き、内端部を屈曲させる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
117	甕	口径(23.6) 残高 1.8	口縁部は外方に開き、内端部を屈曲させる。	回転ナデ	回転ナデ	淡灰色 灰色	密 ◎		
118	甕	口径(22.5) 残高 5.5	口縁部は外反し、内端面を凹ませる。	㊦回転ナデ ㊧カキ目	回転ナデ	淡茶灰色 淡茶灰色	密 ◎		
119	甕	口径(28.0) 残高 3.2	口縁部は外反する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
120	甕	口径(22.7) 残高 3.7	口縁内端部を屈曲させる。外面には1条の沈線が巡る。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎		
121	甕	口径(30.1) 残高 5.1	口縁部は外方に開く。端面はわずかに凹む。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
122	甕	口径(21.8) 残高 4.7	口縁端部は内外につまみ出される。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
123	甕	残高 3.2	口縁内端部を屈曲させる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
124	甕	口径(30.0) 残高 3.3	口縁内端部を屈曲させる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
125	甕	口径(21.0) 残高 3.9	口縁内端部を屈曲させる。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
126	甕	残高 3.5	口縁内端部を屈曲させる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
127	甕	口径(23.6) 残高 4.7	口縁端部は内傾し、わずかに内側へ屈曲させる。	回転ナデ	ナデ	白灰色 白灰色	密 ○		
128	甕	残高 4.0	口縁端部は外側へ屈曲し、尖る。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
129	甕	口径(33.8) 残高 8.3	口縁部は外方に開き、端部は内外につまみ出される。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 淡灰色	密 ○		
130	甕	口径(31.6) 残高 3.4	口縁内端部はわずかに屈曲させる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎		
131	甕	口径(20.0) 残高 4.9	口縁部は外反し、端部は丸くおさめる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
132	甕	口径(27.8) 残高 1.8	口縁端部は丸くおさめる。	マメツ	マメツ	暗灰色 暗灰色	密 ◎		

枝朶下池 3 号窯址採集遺物観察表 土製品

(8)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
133	甕	口径(38.4) 残高 5.2	口縁部は外方へ開く。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
134	甕	残高 5.1	口縁部は外方へ開く。	㊸回転ナデ ㊹タタキ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
135	甕	残高 3.7	肩部はなだらか。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
136	甕	残高 6.5	肩部はなだらか。	回転ナデ →タタキ	タタキ	灰色 灰茶色	密 ◎		
137	甕	残高 2.5	肩部は張る。	回転ナデ	マメツ	緑灰色 白灰色	密 ◎		
138	把手	残高 7.0	上方に折り曲げられ、端部は丸くおさめる。	㊸ナデ ㊹タタキ	ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
139	把手	残高 3.3	水平方向にのびる。	ナデ・ケズリ		淡灰色 淡灰色	密 ◎		
140	不明	残高 1.9 底径(12.4)	中央がやや上がる底部。	㊸回転ナデ ㊹ナデ	回転ナデ	茶色 茶色	密 ○		

表 3 悪社谷 1 号窯址採集遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
141	蓋	つまみ径3.2 つまみ高0.7 残高 1.4	扁平で中央がわずかに凸形をなすつまみ。	マメツ	マメツ	淡橙色 淡灰色	密 ○		
142	蓋	つまみ径2.8 つまみ高0.5 残高 0.9	中央が凹むつまみ。	㊸つまみ回転ナデ ㊹ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
143	蓋	口径(17.2) 残高 1.4	口縁端部は下方へ屈曲し、丸みをもつ。	㊸回転ヘラケズリ →ナデ ㊹回転ナデ	回転ナデ→ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
144	蓋	口径(16.1) 残高 1.7	口縁端部は下方へ屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 淡灰色	密 ◎		
145	蓋	口径(17.2) 残高 1.1	口縁端部は下方へ屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	淡灰色 灰色	密 ◎		
146	蓋	口径(13.8) 残高 1.1	口縁端部は下方へ屈曲し、丸みをもつ。	㊸回転ヘラケズリ →ナデ ㊹回転ナデ	㊹ナデ ㊺回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
147	蓋	口径(14.8) 残高 1.3	口縁端部は下方へ屈曲し、やや尖る。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	㊹ナデ ㊺回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
148	蓋	口径(16.6) 残高 1.2	口縁端部は下方へ屈曲し、丸みをもつ。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
149	蓋	口径(15.1) 残高 1.3	口縁端部は下方へ短く屈曲する。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
150	蓋	口径(16.0) 残高 1.3	口縁端部は下方へ屈曲する。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 ◎		

遺物観察表

悪社谷1号窯址採集遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
151	蓋	口径(15.8) 残高 1.3	口縁端部は下方へ屈曲する。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 ◎	窯体付着 自然釉	
152	蓋	口径(17.6) 残高 1.2	口縁端部は下方へ屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
153	蓋	口径(14.4) 残高 1.5	口縁端部は下方へ屈曲する。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
154	蓋	口径(16.6) 残高 1.0	口縁端部は下方へ屈曲し、尖る。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
155	蓋	口径(15.8) 残高 1.2	口縁端部のつまみ出しは弱い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
156	蓋	口径(16.7) 残高 1.1	口縁端部は下方へ短く屈曲し、丸みをもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 淡灰色	密 ◎	自然釉	
157	蓋	口径(15.8) 残高 1.0	口縁端部は下方へ短く屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
158	蓋	口径(15.7) 残高 1.5	口縁端部は下方へ短く屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎		
159	坏	口径(14.0) 残高 5.1	口縁部は外方へ開き、端部は丸くおさめる。	回転ナデ	回転ナデ	淡黄灰色 淡灰色	密 ◎		
160	坏	口径(15.5) 残高 3.3	口縁部は外方へ開き、端部は丸くおさめる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
161	坏	口径(16.0) 残高 3.0	口縁部は外方へ開き、端部は内側へわずかに屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	淡灰色 淡灰色	密 ◎		
162	坏	口径(16.4) 残高 3.0	口縁部は外方へ開き、端部は内側へ屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
163	坏	口径(17.0) 残高 2.9	口縁部は外反し、端部は丸くおさめる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
164	坏	口径(14.6) 残高 3.5	口縁部は端部付近で、わずかに外反する。	回転ナデ	回転ナデ	淡褐色 淡褐色	密 ◎		
165	坏	口径(14.3) 器高 3.7 底径(11.2)	口縁部は外反し、端部は内側へ屈曲する。	㊸回転ナデ ㊹ケズリ	回転ナデ	灰色 黒灰色	密 ◎		
166	坏	残高 2.3 底径(13.5)	口縁部は外方へ開く。平底。	㊸回転ナデ ㊹ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
167	高台坏	残高 1.2 底径(12.4)	底端部に「ハ」の字状の高台が付く。	㊸ヘラケズリ	回転ナデ	淡褐色 灰色	密 ◎		
168	高台坏	残高 3.0 底径(10.1)	底端部に高台が付く。	㊸回転ナデ ㊸ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 ◎		
169	高台坏	残高 1.4 底径(12.2)	底端部に「ハ」の字状の高台が付く。	マメツ	マメツ	淡褐色 淡褐色	密 ○		
170	皿	口径(14.4) 残高 2.5	口縁部は外方へ開き、端部は内側へ屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	淡灰褐色 淡灰褐色	密 ○		

## 2 区 の 調 査

悪社谷 1 号窯址採集遺物観察表 土製品

(3)

番号	器種	法量 (cm)	形 態 ・ 施 文	調 整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
171	碗	口径 (25.2) 残高 6.2	口縁部は内湾し、端部は凹む。	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色 灰色	密 ◎		
172	甕	口径 (26.6) 残高 2.6	口縁部は外方へ開き、内端部を屈曲させる。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 灰色	密 ◎		
173	甕	口径 (20.0) 残高 0.9	口縁部は外方へ開き、端部を上下につまみ出す。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 ◎		
174	甕	口径 (23.4) 残高 4.5	口縁部は外方へ開き、端面はわずかに凹む。	◎回転ナデ ㊦タタキ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
175	甕	口径 (22.2) 残高 2.6	口縁部は外方へ開き、端部は外方へ屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
176	甕	口径 (29.7) 残高 2.4	口縁部は外方へ開く。	ナデ	回転ナデ	乳灰色 乳灰色	密 ◎		
177	甕	残高 3.9	肩部はなだらか。	タタキ	タタキ	灰色 灰色	密 ◎		

## 第4章

# 3 区の調査

きたうめもとあくしゃだに  
(北梅本悪社谷遺跡)



## 第4章 3区の調査（北梅本悪社谷遺跡）

### 1. 調査の経過

#### （1）経過（第3図）

1994（平成6）年3月、松山市農林水産部農林土木課（以下「農林土木課」という）より、松山市北梅本町甲695外における農道新設工事に伴う埋蔵文化財確認願いが、松山市教育委員会文化教育課（以下「文化教育課」という）に提出された。

当地は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「103 鳥越古墳」内にある。周辺地域には、駄場姥ヶ懐1号窯（西尾幸則、1981）を含む小野谷古窯址群が分布している。また、隣接地には、枝朶下池にて窯址1基、悪社谷にて灰原2ヶ所を確認している。

これらの事により、当該地における埋蔵文化財の有無と、さらには遺跡の範囲や性格を確認するため、1994（平成6）年4月に文化教育課は試掘調査を実施した。試掘調査の結果、須恵器を含む遺物包含層を検出し、当該地に古墳時代から古代までの遺跡が存在することが明らかとなった。

この結果を受け、文化教育課の指導のもと、（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターと農林土木課の二者は発掘調査について協議を行い、農林土木課の協力のもと1994（平成6）年5月30日より窯跡、灰原、工房址などの確認を目的とする発掘調査を開始した。

#### （2）調査組織

調査地	松山市北梅本町甲695外
遺跡名	北梅本悪社谷遺跡
調査期間	野外調査 平成6（1994）年5月30日～同年6月30日
調査面積	900m <sup>2</sup>
調査担当	調査係長 田城武志 調査員 山本健一 相原浩二

### 2. 層位（第21図）

基本層位は、第Ⅰ層灰色細砂質土（耕作土）、第Ⅱ層黄橙色土（鉄錆色）、第Ⅲ層黄橙色礫混土～明黄灰色礫混土（造成土）、第Ⅳ層明黄褐色礫混土～明黄灰褐色粘性土（地山層）である。

第Ⅰ層：調査地全域で見られる。現代の耕作土である。

第Ⅱ層：耕作土床土である。現況では畑地であるが、畑地周辺に畦がみられることから、水田利用時の床土である。

第Ⅲ層：造成土である。第Ⅰ層と同じ土壌の混入がみられること、土質が第Ⅳ層より軟弱であること、さらに第Ⅰ層、もしくは第Ⅱ層の直下にあることから造成土と判断した。

第Ⅳ層：第Ⅳ層以下は、6層分を検出した。第Ⅳ①層は明黄褐色礫混土（5～10cm大の円礫）、第Ⅳ②層は明黄褐色土、第Ⅳ③層は明黄褐色礫混土（20～30cm大の円礫）、第Ⅳ④層は明黄褐色粘性土（やや紫色を帯びる）、第Ⅳ⑤層は紫色粘性土、第Ⅳ⑥層は明黄灰褐色粘性土（20～35cm大の円礫が点在）である。

### 3. 遺構と遺物

本調査地一帯は、南西に流れをとる悪社川によって開析された谷間である。調査地北側には南西方向に舌状に延びる尾根があり、この南傾斜面と舌状先端斜面には窯跡（枝朶下池・悪社谷）を確認している。現在は、数段からなる耕作地として利用されている。

調査区は、道路新設のため幅6m、全長150mと細長い。また、既存農道は、生活道路として利用されていることより、調査範囲は限定された。調査の結果、T1～T9及びT12は、現代の造成により遺構や包含層がない。ただし、耕作土中からは須恵器を採取している。一方、T10では旧地形の谷間、T11では遺物包含層を検出した。

#### T 1（第20・21図、図版6）

T1は調査地西端部、既存農道の北側に位置する。トレンチの規模は長さ10.8m、幅90cmで、地表下38～61cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第I層、第II層、第III層、第IV層を検出した。各層の堆積は、第I層33cm、第II層16～26cm、第III層10～20cm以上、第IV層30cm以上となる。本トレンチでは包含層、遺構、遺物は検出されなかった。

#### T 2（第20・21図、図版6）

T2は調査地西部、既存農道の北側に位置する。T1との比高差は第I層上面で1.6mを測る。トレンチの規模は長さ7.7m、幅90cmで、地表下30～52cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第I層、第II層、第IV層を検出したが、第III層は未検出である。各層の堆積は、第I層20cm、第II層5～24cm、第IV層18cm以上となる。本トレンチでは包含層、遺構、遺物は検出されなかった。

#### T 3（第20・21図、図版6）

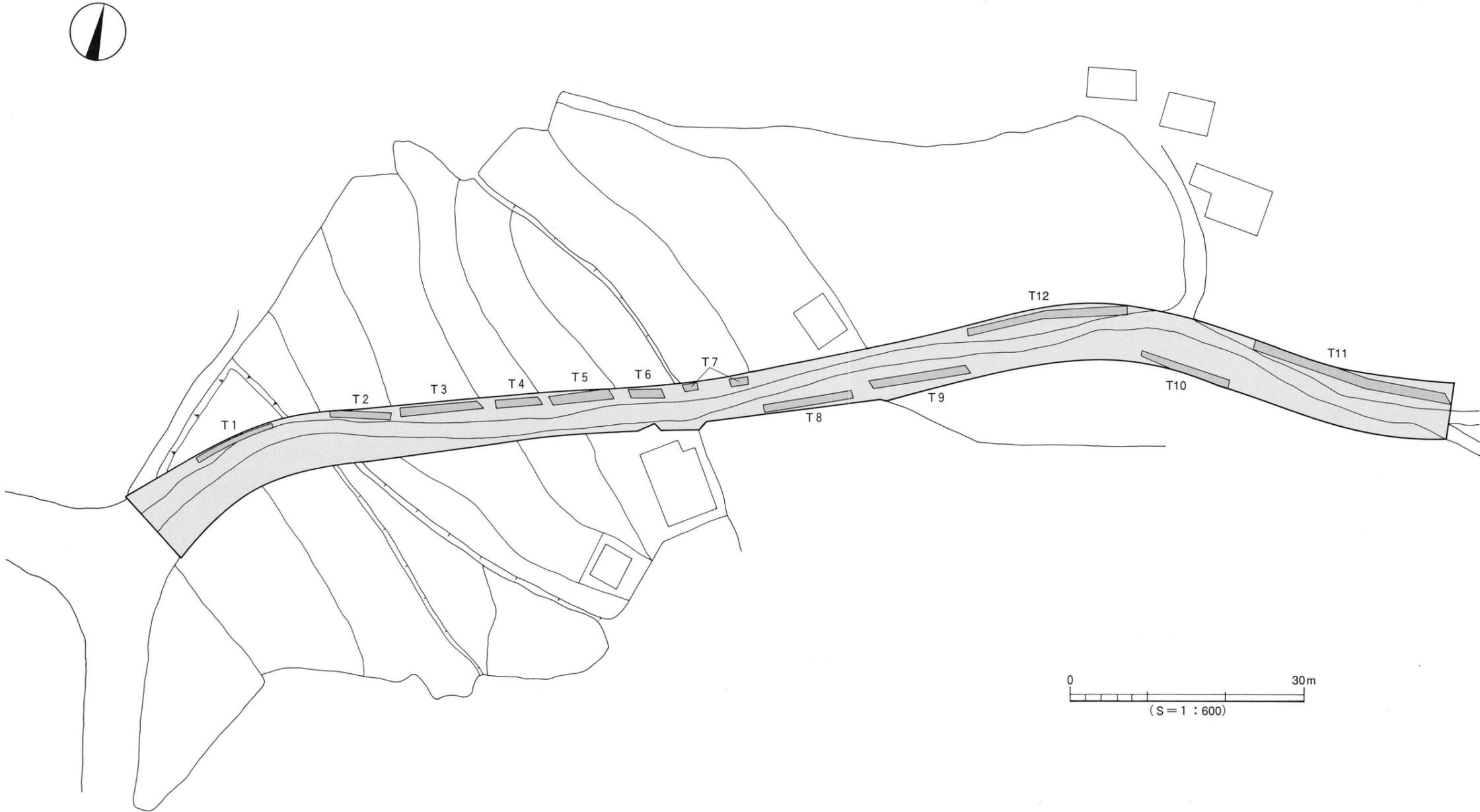
T3は調査地西部、既存農道の北側に位置する。T2との比高差は第I層上面で50cmを測る。トレンチの規模は長さ10.6m、幅100cmで、地表下47～70cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第I層、第II層、第III層、第IV層を検出した。各層の堆積は、第I層20cm、第II層10～40cm、第III層2～26cm、第IV層20cm以上となる。本トレンチでは包含層、遺構、遺物は検出されなかった。

#### T 4（第20・21図、図版6）

T4は調査地西部、既存農道の北側に位置する。T3との比高差は第I層上面で50cmを測る。トレンチの規模は長さ6m、幅110cmで、地表下30～114cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第I層、第II層、第III層、第IV層を検出した。各層の堆積は、第I層15cm、第II層5～15cm、第III層4～30cm、第IV層90cm以上となる。本トレンチでは包含層、遺構、遺物は検出されなかった。

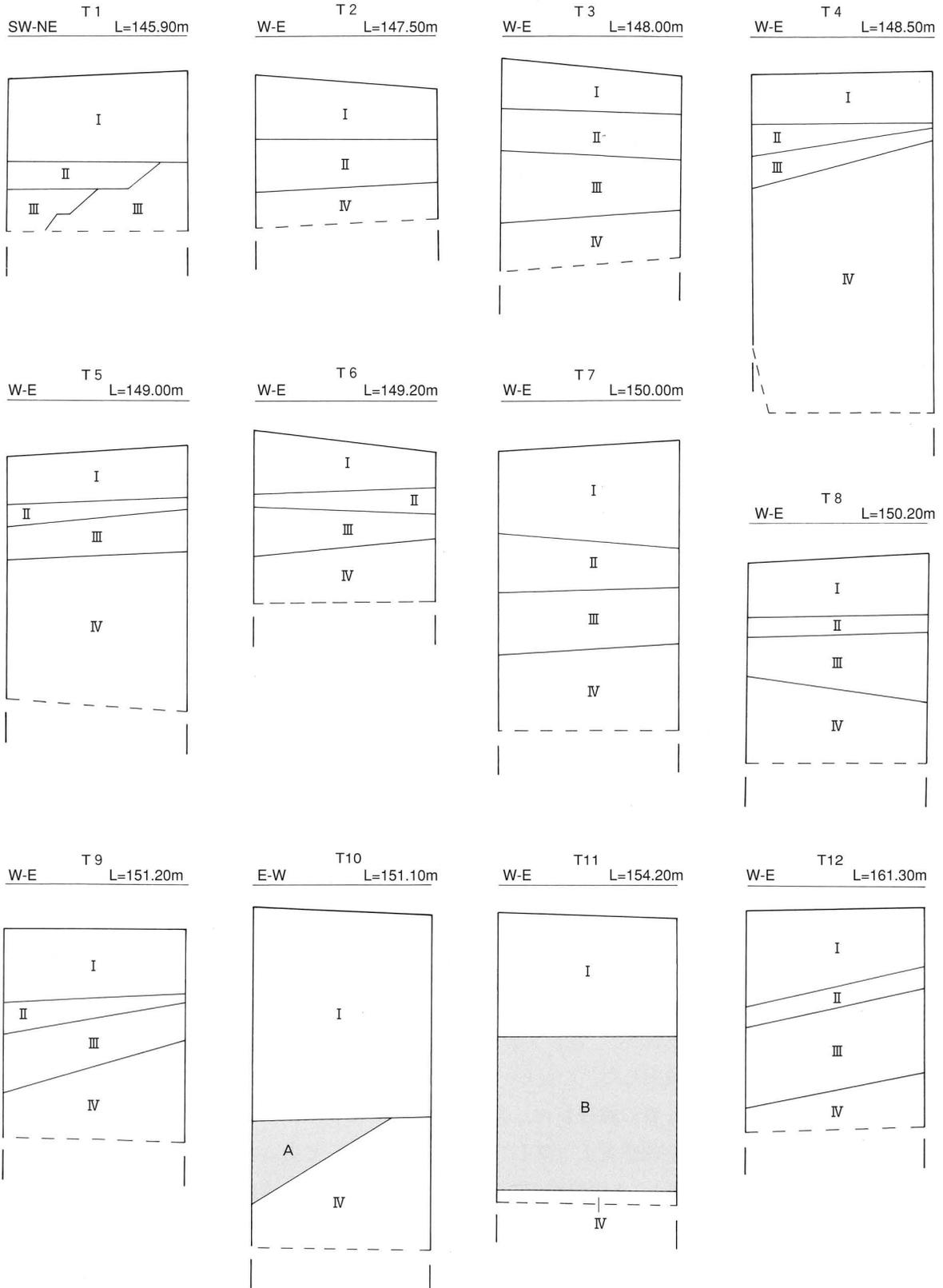
#### T 5（第20・21図、図版6）

T5は調査地西部、既存農道の北側に位置する。T4との比高差は第I層上面で50cmを測る。トレンチの規模は長さ8m、幅140cmで、地表下58～90cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第I層、第II層、第III層、第IV層を検出した。各層の堆積は、第I層20cm、第II層4～25cm、第III層10～32cm、第IV層50cm以上となる。本トレンチでは包含層、遺構、遺物は検出されなかった。



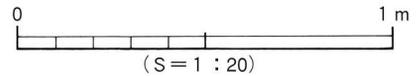
第20図 調査地位置図

層 位



- 第I層 灰色細砂質土（耕作土）
- 第II層 黄橙色土（錆び色・床土）
- 第III層 黄橙褐色礫混土～明黄灰色礫混土（造成土）
- 第IV層 明黄褐色礫混土～明黄灰褐色粘性土

- A層 谷間の堆積土
- B層 遺物包含層



第21図 土層柱状図

### 3 区 の 調 査

#### T 6 (第20・21図、図版6)

T 6 は調査地西部、既存農道の北側に位置する。T 5 との比高差は50cmを測る。トレンチの規模は長さ4.4m、幅120cmで、地表下50～110cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅰ層、第Ⅱ層、第Ⅲ層、第Ⅳ層を検出した。各層の堆積は、第Ⅰ層20cm、第Ⅱ層4～10cm、第Ⅲ層7～24cm、第Ⅳ層90cm以上となる。本トレンチでは包含層、遺構、遺物は検出されなかった。

#### T 7 (第20・21図、図版6)

T 7 は調査地中央部、既存農道の北側に位置する。畑地への出入り口を残したため、調査はトレンチの西端部分と東端部分に限られた。T 6 との比高差は第Ⅰ層上面で80cmを測る。トレンチの規模は長さ4.3m、幅100cmで、地表下62～98cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅰ層、第Ⅱ層、第Ⅲ層、第Ⅳ層を検出した。各層の堆積は、第Ⅰ層30cm、第Ⅱ層5～22cm、第Ⅲ層10～30cm、第Ⅳ層30cm以上となる。本トレンチでは包含層、遺構、遺物は検出されなかった。

#### T 8 (第20・21図、図版6)

T 8 は調査地中央部、既存農道の南側に位置する。T 7 との比高差は第Ⅰ層上面で約20cmを測る。トレンチの規模は長さ11.9m、幅120cmで、地表下55～70cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅰ層、第Ⅱ層、第Ⅲ層、第Ⅳ層を検出した。各層の堆積は第Ⅰ層20cm、第Ⅱ層5～23cm、第Ⅲ層8～30cm、第Ⅳ層38cm以上となる。本トレンチでは包含層、遺構、遺物は検出されなかった。

#### T 9 (第20・21図、図版7)

T 9 は調査地中央部、既存農道の南側に位置する。T 8 との比高差は約90cm、農道北側のT 12の西端部とは2.2mを測る。トレンチの規模は長さ12.8m、幅120cmで、地表下62～72cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅰ層、第Ⅱ層、第Ⅲ層、第Ⅳ層を検出した。各層の堆積は、第Ⅰ層20cm、第Ⅱ層5～22cm、第Ⅲ層14～44cm、第Ⅳ層48cm以上となる。本トレンチでは包含層、遺構、遺物は検出されなかった。

#### T 10 (第20・22図、図版7)

T 10は、調査地東部、既存農道の三差路の南側にあり、地形が谷状に落ち込む部分にあたる。トレンチの規模は長さ12m、幅100cmで、地表下60～130cmまで掘り下げた。基本層位は第Ⅰ・Ⅳ層と、谷間を埋める土壌Ⅰ・Ⅱ層を検出した。ただし、基本層位の第Ⅱ・Ⅲ層は検出されなかった。

第Ⅰ層は砂量の違いから4層に細分され、第Ⅰ①層灰色細砂質土、第Ⅰ②層黄橙色土、第Ⅰ③層明黄灰色礫混土、第Ⅰ④層灰色細砂質土(第Ⅰ①層よりやや暗い)である。第Ⅰ層以下はA①層明灰橙色土～黄灰色砂礫(谷間上層)、A②層暗青灰色粘性土(谷間下層)、第Ⅳ層黄色砂礫層(60cm大の礫石混)となる。

第Ⅰ層は4つに分離でき、耕作地を改変したことがうかがえる。第Ⅳ層以下は、礫石(60cm大)や出水が大量であったため確認していない。また、第Ⅳ層上面が谷部の基底面を形成している。

### 旧地形の谷

トレンチ中央部から東にかけて、谷の西側傾斜部と基底部を検出した。検出長は東西5.5m、南北0.8m、深さは西側落ち込み部で0.5mを測る。基底部は南に下がる。

谷間の堆積土は、上層の明灰橙色土～黄灰色砂礫、下層の暗青灰色粘性土からなる。

上層は40～60cmの厚さを測り、11層に細分される。上層中からは遺物の出土はない。上層は、攪拌されているため造成土と判断した。

下層は、5～15cmの厚さを測る。やや灰黒い土中には、約1cm大の炭化物と、灰色粘性土が混入する。下層からは土器や石器の出土はない。

#### 出土遺物（第22図）

須恵器（1）1は第Ⅰ②層出土で、高台の付く坏身の底部片である。高台は「ハ」の字状に付く。

#### T11（第20・23図、図版7）

T11は、調査地東端部で、既存農道の北側に位置する。調査終了間際の降雨により土層壁が崩壊したため、土層図は西半部を測量するにとどまった。トレンチの規模は長さ14m、幅120cmで、地表下28～96cmまで掘り下げた。

層位は、第Ⅰ層灰色細砂質土（耕作土）、B①層淡黄色細砂質土（やや赤味をおびる）、B②層淡黄色細砂質土、第Ⅳ①層明黄褐色礫混土（5～10cm大の円礫）である。T11では基本層位の第Ⅱ・Ⅲ層はみられない。B①層とB②層は本トレンチに限り検出したものである。

B①層は、トレンチ中央から東にかけて堆積しており、層厚は10～20cmを測る。土質は軟らかい。本層はやや赤味を帯びているが、これは上層の耕作土の汚染と思われる。B②層と土質が酷似しているが、遺物は出土していない。

B②層は、遺物包含層で、層厚5～30cmを測る。堆積状況と土質は、B①層と同様である。本層からは須恵器2点、石器1点、炭化物が出土した。須恵器片1点は3×2cm大の胴部片で、小片のため図化していない。炭化物は、1cm前後の大きさの物が数点検出された。

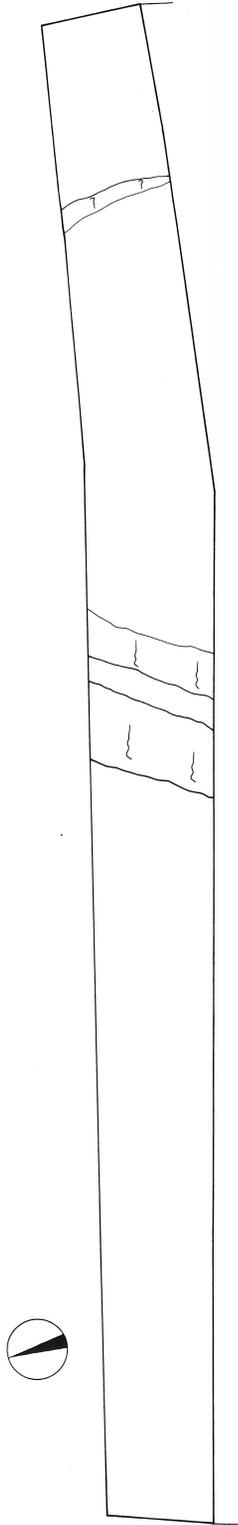
#### 出土遺物（第23図）

須恵器（2）2は高台の付く坏身の底部片である。高台は「ハ」の字状に付き、高台端部には、沈線状の凹みが認められる。外面と底部外面は回転ナデ、内面はナデ調整を施す。

石鏃（3）3は凹基無茎式石鏃である。基部の抉りは深く、法量は長さ1.7cm、幅1.4cm、厚さ0.35cm、重量0.67gである。石材は緑色チャートである。

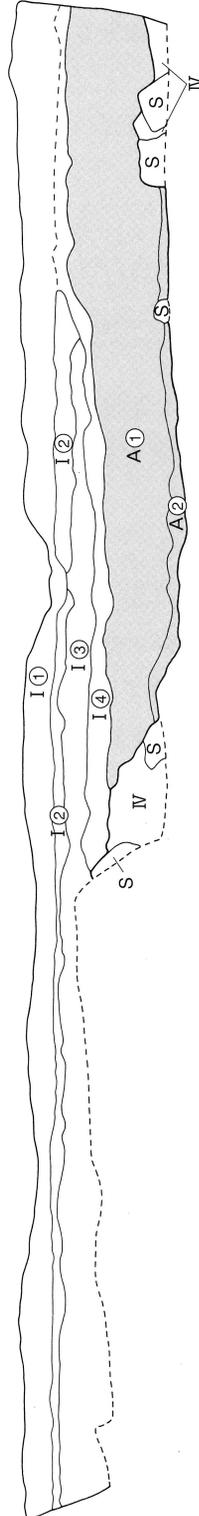
#### T12（第20・21図、図版7）

T12は調査地東部、既存農道の北側に位置する。T12は丘陵が西及び南へ傾斜する変換地点にあたる。トレンチの規模は長さ21m、幅100cmで、地表下40～70cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅰ層、第Ⅱ層、第Ⅲ層、第Ⅳ層を検出した。各層の堆積は、第Ⅰ層40cm、第Ⅱ層5～14cm、第Ⅲ層5～44cm、第Ⅳ層20cm以上となる。本トレンチでは包含層、遺構、遺物は検出されなかった。



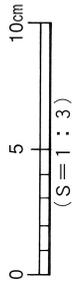
W E

L=151.60m

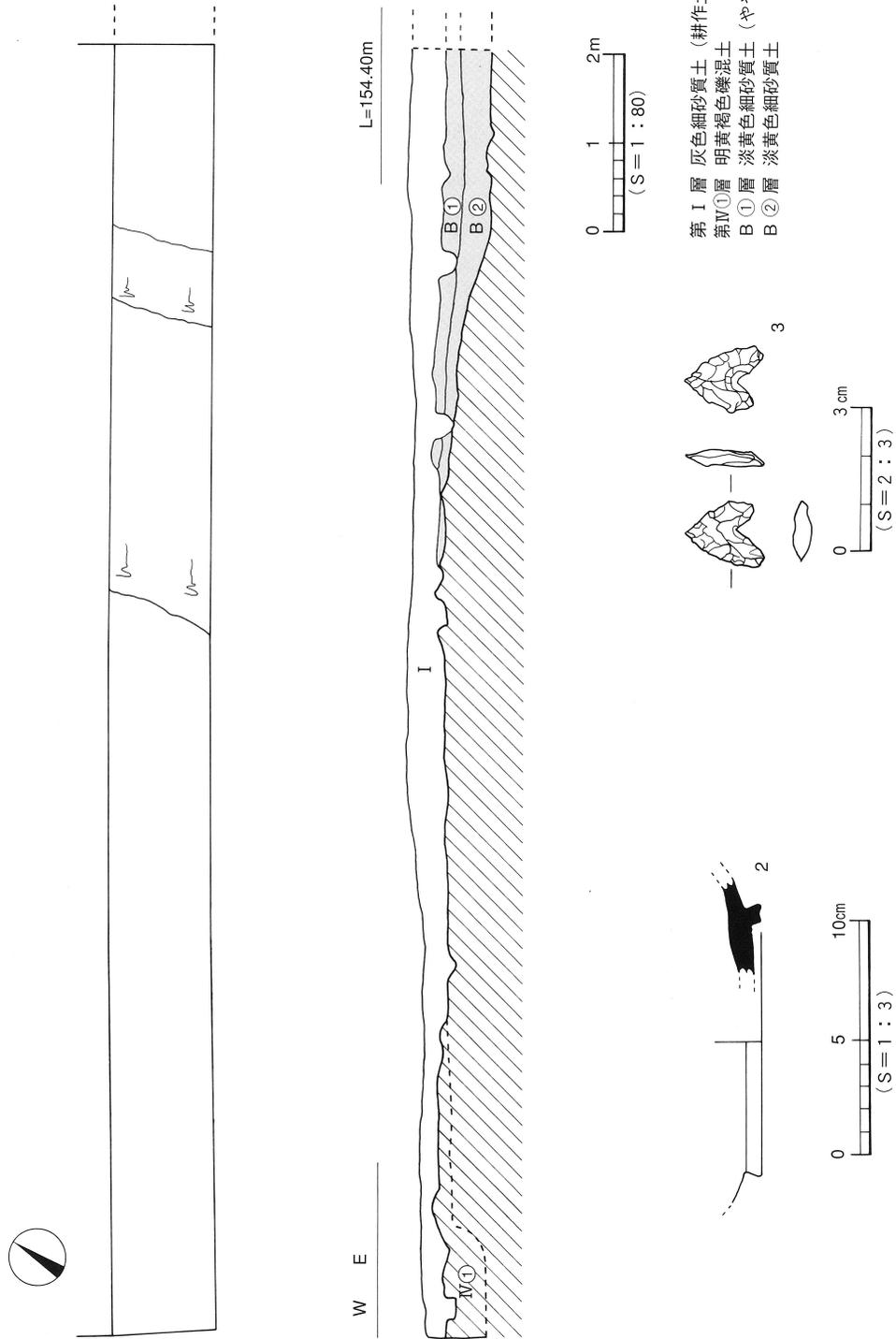


- 第 I ① 層 灰色細砂質土
- 第 I ② 層 黄橙色土
- 第 I ③ 層 明黄灰色礫混土
- 第 I ④ 層 灰色細砂質土 (第 I ① よりやや暗い)
- 第 IV 層 黄砂礫混層 (60cm 大礫混)

- A ① 層 明灰橙色土~黄灰色砂礫層
- A ② 層 暗青灰色粘性土



第22図 T10平・断面図・出土遺物実測図



第23図 T-11平・断面図・出土遺物実測図

## 4. 小 結

今回の調査では、調査地のほとんどが近現代の造成による掘削の影響を強く受けていた。調査地が諸般の事情で狭小であったため、調査の目的である窯跡、灰原、工房址などの遺構の検出には至らなかった。しかし、T11より北へ約40mの地点には悪社谷1号窯（第39図）が存在することや、今回の調査でのT10・T11には、古墳時代から古代までの遺物包含層と、旧地形が確認できたこと、さらには耕作土中から須恵器片が採集されていることなどから、調査地周辺には窯址に関連する遺構・遺物が存在していることが確実となった。

今後は、周辺地域での遺構の確認と、窯址群の構造解明が課題となる。

なお、本調査では周辺地の遺跡分布調査を行った。調査の結果、窯壁と遺物を採集した。採集品は、『小野川流域の遺跡』で収録しているので参照していただきたい。

## 遺物観察表（作成者：山本健一）

(1) 以下の表は、本調査検出の遺物の計測値及び観察一覧である。

(2) 遺物観察表の各記載について。

法 量 欄 ( ) は復元推定値

形態・施文欄 土器の各部位名称を略記。例) 底→底部。

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記した。例) 長→長石。

( ) 中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。例) 長(1) → 「1mm大の長石を含む」である。

焼成欄の記号について。◎→良好、○→良、△→不良。

表4 出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面 内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
1	坏	高台径(13.0) 高台高 0.6 残高 1.8	高台は「ハ」の字状に開き、断面台形で底部端よりやや内側に付く。	回転ナデ	回転ナデ	青色・灰色 灰色	長(1) ◎	T10	
2	坏	高台径(11.4) 高台高 0.5 残高 1.7	高台は「ハ」の字状に開き、断面台形で底部端に付く。	回転ヘラケズリ	回転ナデ→ナデ	灰色 灰色	長(1) ◎	T11	

出土遺物観察表 石製品

(2)

番号	器種	残存	材質	法 量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
3	石 鏃	完形	緑色チャート	1.7	1.4	0.35	0.67	T 11 凹基式	

## 第5章

# 4 区の調査



## 第5章 4区の調査

### 1. 調査の経過

#### (1) 経過

試掘調査は道路幅6m、全長800m弱を対象地としている。

作業工程を以下に記す。平成7年9月18日、試掘トレンチを設定し、重機によりT1・T2の掘削を開始する。トレンチ内を精査し、土層断面図を作成する。9月19日、T3～8を重機で掘削し、トレンチ内の精査及び土層断面図の作成。また、T1～8までのトレンチの位置図を作成する。9月20日、T9・10を人力で掘削、T11・12を重機により掘削し、トレンチ内の精査及び土層断面図の作成。9月21日、T13・14を重機により掘削し、トレンチ内の精査及び土層断面図の作成。また、T1～8までのトレンチの位置図を作成する。トレンチを埋め戻し、対象地西半分の試掘調査の現場作業を終了する。平成8年1月23日、対象地東半分の試掘調査を開始する。まず、T15～17を人力で掘削し、トレンチの位置図を作成する。1月24日、T18～20を人力で掘削し、トレンチの位置図を作成する。トレンチを埋め戻し試掘調査の現場作業を終了する。

#### (2) 調査組織

調査地	松山市北梅本町乙690-2他
調査期間	平成7年9月18日～平成8年1月24日
調査面積	4,200m <sup>2</sup>
調査担当	河野史知

### 2. 層位

対象地は、谷部や丘陵斜面の標高156～210mに位置する。基本層位は第I層暗黄褐色土、第II層褐色～暗褐色土、第III層灰黄色～灰黄褐色土、第IV層青灰色粘質土、第V層暗緑灰色粘質土～暗灰色粘土、第VI層明緑灰色～緑灰色砂礫、第VII層浅黄色～黄灰色土である。

第I層—造成土

第II層—耕作土

第III層—第II層に伴う造成土

第IV層—第III層が混じる粘質土

第V層—有機物の堆積層

第VI層—旧河川の堆積砂礫

第VII層—地山

### 3. 遺構と遺物

#### T 1 (第24・25図、図版9)

T 1 は対象地の西端にあり、谷に沿って設定した。トレンチの規模は長さ2.5 m、幅0.8 mで、地表下170cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅰ・Ⅲ～Ⅴ・Ⅶ層を検出した。各層位の堆積は第Ⅰ層25～30cm、第Ⅲ層26～30cm、第Ⅳ層16～20cm、第Ⅴ層70～75cm、第Ⅶ層15cm以上となる。第Ⅳ層より少量の灰が検出された。出土物はない。

#### T 2 (第24・25図、図版9)

T 2 は対象地の西側のT 1 から東19mの地点にあり、谷に沿って設定した。トレンチの規模は長さ2.4 m、幅0.8 mで、地表下140cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅱ～Ⅴ・Ⅶ層を検出した。各層位の堆積は第Ⅱ層16～20cm、第Ⅲ層25～32cm、第Ⅳ層20～25cm、第Ⅴ層50～60cm、第Ⅶ層17cm以上となる。T 1 と同様に第Ⅳ層より少量の灰が検出された。出土物はない。

#### T 3 (第24・25図、図版9)

T 3 は対象地の西側にあり、谷に沿って設定した。トレンチの規模は長さ2.8 m、幅0.8 mで、地表下110cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅱ層～第Ⅵ層を検出。各層位の堆積は第Ⅱ層10～16cm、第Ⅲ層14～18cm、第Ⅳ層16～20cm、第Ⅴ層10～15cm、第Ⅵ層45cm以上となる。出土物はない。

#### T 4 (第24・25図、図版9)

T 4 は対象地の西側にあり、谷に沿って設定した。トレンチの規模は長さ2.8 m、幅0.8 mで、地表下100cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅱ～Ⅵ層を検出したが、第Ⅶ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅱ層16～18cm、第Ⅲ層18～26cm、第Ⅳ層10～20cm、第Ⅴ層28～35cm、第Ⅵ層18cm以上となる。出土物はない。

#### T 5 (第24・25図、図版9)

T 5 は対象地の西側にあり、谷に沿って設定した。トレンチの規模は長さ2.5 m、幅0.8 mで、地表下120cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅱ～Ⅳ・Ⅵ層を検出したが、第Ⅶ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅱ層12～15cm、第Ⅲ層12～15cm、混交層18～22cm、第Ⅳ層10～18cm、第Ⅵ層60cm以上を検出した。ここでは基本層位以外に第Ⅲ層と第Ⅳ層の混合層(②層)を検出し、17～25cmの堆積であった。出土物はない。

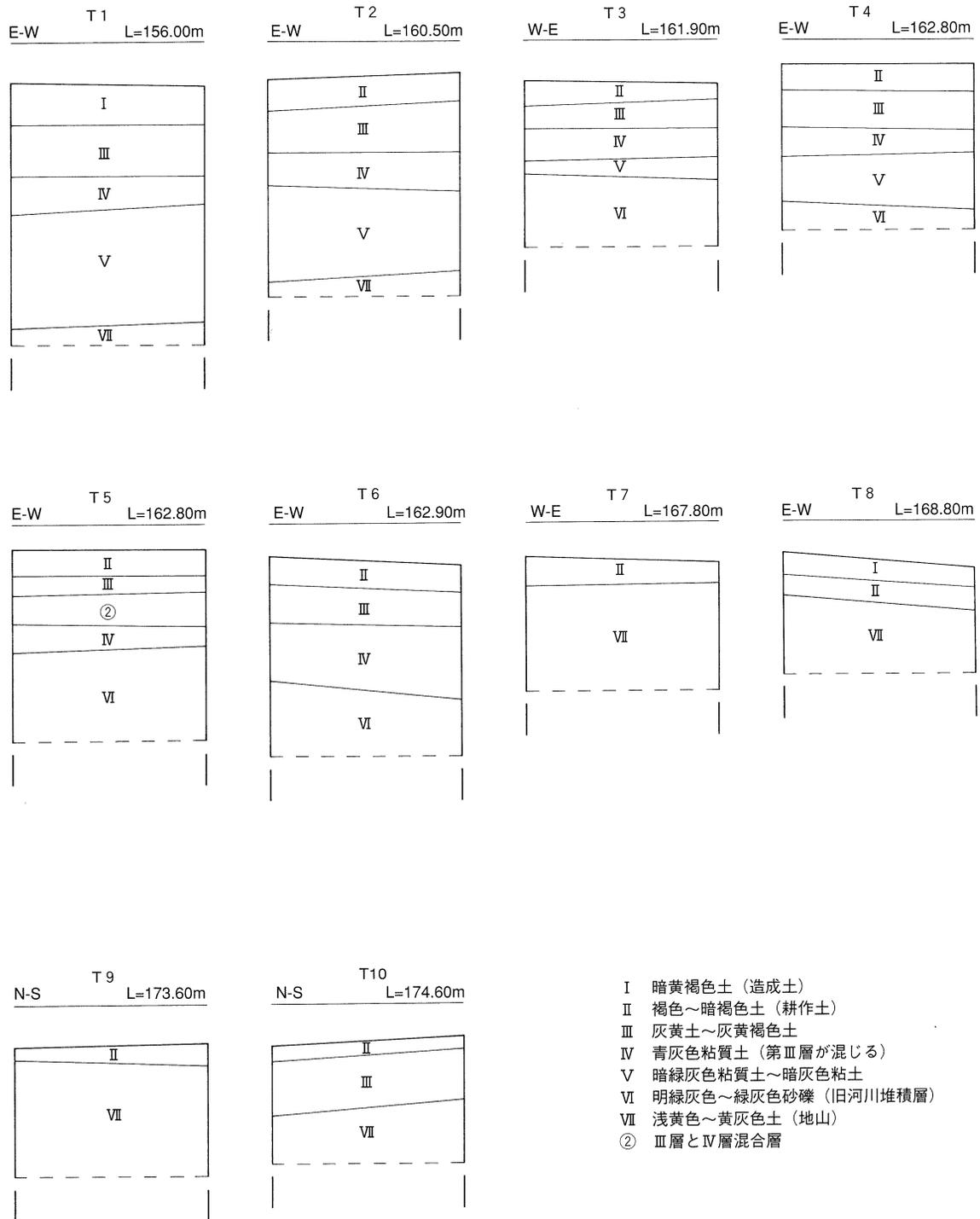
#### T 6 (第24・25図、図版9)

T 6 は対象地の西側にあり、谷に沿って設定した。トレンチの規模は長さ2 m、幅0.8 mで、地表下125cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅱ～Ⅳ・Ⅵ層を検出したが、第Ⅴ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅱ層14～18cm、第Ⅲ層20～25cm、第Ⅳ層35～45cm、第Ⅵ層50cm以上となる。出土物はない。



第24図 調査地位置図

遺構と遺物



第25図 土層柱状図(1)

#### 4 区 の 調 査

##### T 7 (第24・25図、図版9)

T 7は対象地の西側にあり、谷に沿って設定した。トレンチの規模は長さ2.5m、幅0.8mで、地表下80cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅱ・Ⅶ層を検出したが、第Ⅲ～Ⅵ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅱ層10～18cm、第Ⅶ層68cm以上となる。出土物はない。

##### T 8 (第24・25図、図版9)

T 8は対象地の西側にあり、谷に沿って設定した。トレンチの規模は長さ2m、幅0.8mで、地表下80cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅰ・Ⅱ・Ⅶ層を検出したが、第Ⅲ～Ⅵ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅰ層12～15cm、第Ⅱ層12～14cm、第Ⅶ層50cm以上となる。出土物はない。

##### T 9 (第24・25図、図版10)

T 9は対象地の西側にあり、谷に沿って設定した。トレンチの規模は長さ1.5m、幅0.8mで、地表下90cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅱ・Ⅶ層を検出したが、第Ⅲ～Ⅵ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅱ層6～14cm、第Ⅶ層75cm以上となる。出土物はない。

##### T 10 (第24・25図、図版10)

T 10は対象地の中央付近にあり、谷に沿って設定した。トレンチの規模は長さ1.6m、幅0.8mで、地表下80cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅱ・Ⅲ・Ⅶ層を検出したが、第Ⅳ～Ⅵ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅱ層10cm、第Ⅲ層30～35cm、第Ⅶ層は40cm以上であるが、上層に10～30cmの礫層の堆積がある。出土物はない。

##### T 11 (第24・26図、図版10)

T 11は対象地の中央付近にあり、谷に沿って設定した。トレンチの規模は長さ2m、幅0.8mで、地表下70cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅱ・Ⅲ・Ⅶ層を検出したが、第Ⅳ～Ⅵ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅱ層10cm、第Ⅲ層30～35cm、第Ⅶ層20cmを検出した。出土物はない。

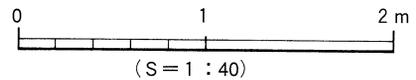
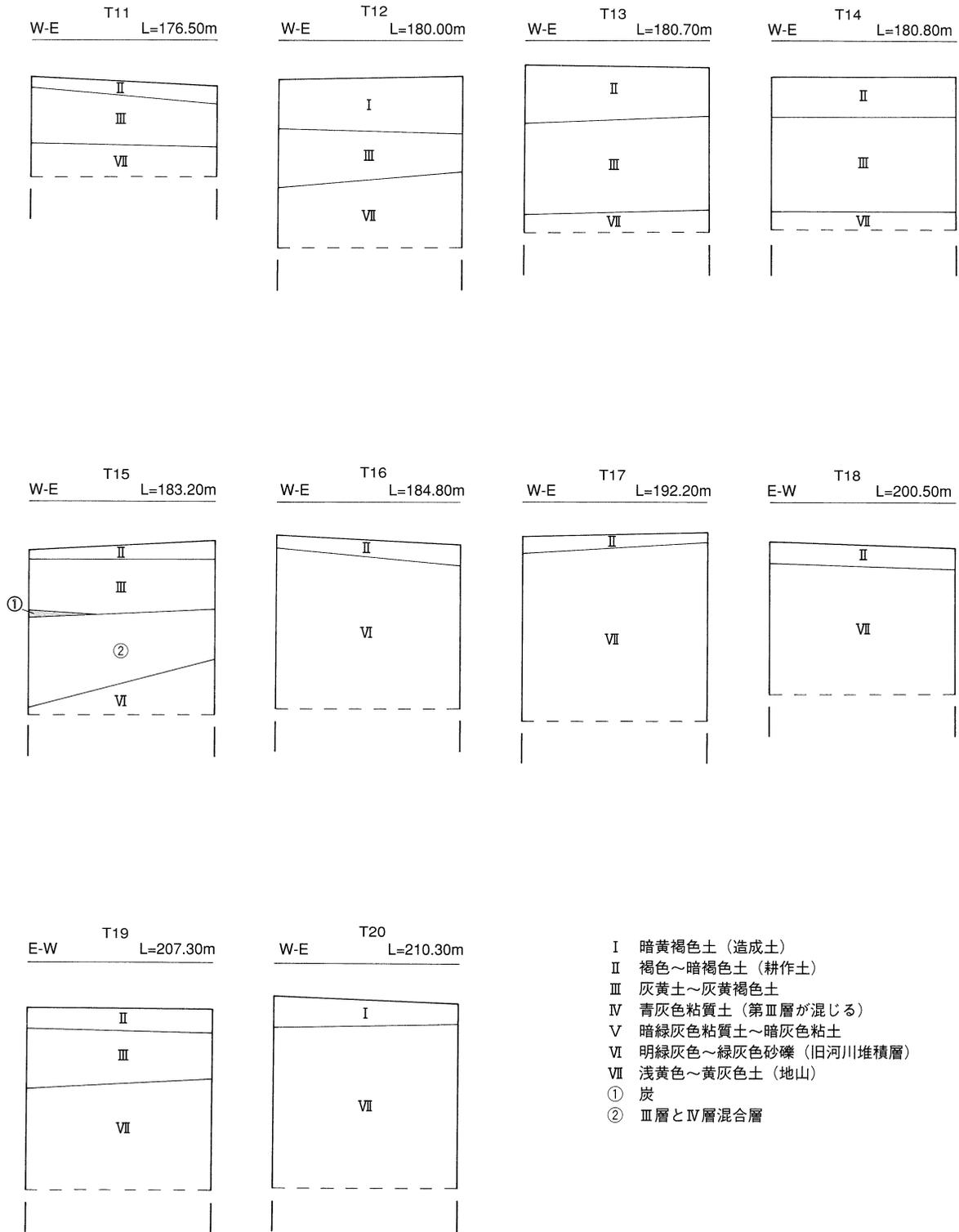
##### T 12 (第24・26図、図版10)

T 12は対象地の中央付近にあり、谷に沿って設定した。トレンチの規模は長さ4.2m、幅0.8mで、地表下110cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅰ・Ⅲ・Ⅶ層を検出したが、第Ⅱ・Ⅳ～Ⅵ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅰ層30～40cm、第Ⅲ層25～40cm、第Ⅶ層20cm以上となる。出土物はない。

##### T 13 (第24・26図、図版10)

T 13は対象地の中央付近にあり、谷に沿って設定した。トレンチの規模は長さ3.4m、幅0.8mで、地表下110cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅱ・Ⅲ・Ⅶ層を検出したが、第Ⅳ～Ⅵ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅱ層30～40cm、第Ⅲ層60cm、第Ⅶ層15cm以上となる。出土物はない。

遺構と遺物



第26図 土層柱状図(2)

#### 4 区 の 調 査

##### T 14 (第24・26図、図版10)

T14は対象地の中央付近にあり、谷に沿って設定した。トレンチの規模は長さ4.6m、幅0.8mで、地表下100cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅱ・Ⅲ・Ⅶ層を検出したが、第Ⅳ～Ⅵ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅱ層25～30cm、第Ⅲ層60～65cm、第Ⅶ層10cm以上となる。出土物はない。

##### T 15 (第24・26図、図版11)

T15は対象地の中央付近にあり、谷に沿って設定した。トレンチの規模は長さ2.8m、幅0.8mで、地表下110cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅱ・Ⅲ・Ⅵ層を検出したが、第Ⅳ・Ⅴ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅱ層5～12cm、第Ⅲ層30～40cm、第Ⅵ層35cm以上となる。ここでは、基本層位以外に第Ⅲ層と青灰色土の混合層(②層)を検出した。この層は30～60cmの堆積である。また、第Ⅲ層と混合層の間には層厚5cmの炭を混入する層(①層)を検出した。出土物はない。

##### T 16 (第24・26図、図版11)

T16は対象地の中央付近にあり、谷に沿って設定した。トレンチの規模は長さ3m、幅0.8mで、地表下110cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅱ・Ⅵ層を検出したが、第Ⅲ～Ⅴ・Ⅶ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅱ層5～10cm、第Ⅵ層105cm以上となる。出土物はない。

##### T 17 (第24・26図、図版11)

T17は対象地の東部にあり、谷に沿って設定した。トレンチの規模は長さ1.6m、幅0.8mで、地表下120cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅱ・Ⅶ層を検出したが、第Ⅲ～Ⅵ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅱ層6～10cm、第Ⅶ層115cm以上となる。出土物はない。

##### T 18 (第24・26図)

T18は対象地の東部にあり、谷に沿って設定した。トレンチの規模は長さ2m、幅0.8mで、地表下100cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅱ・Ⅶ層を検出したが、第Ⅲ～Ⅵ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅱ層12～15cm、第Ⅶ層90cm以上となる。出土物はない。

##### T 19 (第24・26図)

T19は対象地の東部にあり、谷に沿って設定した。トレンチの規模は長さ2.1m、幅0.8mで、地表下110cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅱ・Ⅲ・Ⅶ層を検出したが、第Ⅳ～Ⅵ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅱ層10～15cm、第Ⅲ層30～40cm、第Ⅶ層75cm以上となる。出土物はない。

##### T 20 (第24・26図、図版11)

T20は対象地の東端にあり、谷に沿って設定した。トレンチの規模は長さ1.4m、幅0.8mで、地表下125cmまで掘り下げた。層位は、基本層位の第Ⅰ・Ⅶ層を検出したが、第Ⅱ～Ⅵ層は未検出である。各層位の堆積は第Ⅰ層10～18cm、第Ⅶ層110cm以上となる。出土物はない。

## 4. 小 結

今回の試掘調査地は、悪社谷遺跡の東側谷部から丘陵斜面に位置し、対象地の西端と東端では約50mの比高差がある。対象地は、現在使用中の農道が含まれているため、農道の両側にトレンチを設定した。その結果、T3～6・15・16からは旧河川の堆積土である砂礫層を確認した。T1～6では青灰色粘質土を検出し、T1においては少量であるが灰の混入が確認できた。このことはT1の北側丘陵に窯跡に関する施設があり、その施設に伴った灰が丘陵の下側であるT1一带に流れ込んだと推測できる。また、T1・2は暗灰色～暗緑灰色粘質土の有機物層の堆積がみられた。この層からは自然流木の小片が少量出土した。本層の堆積時期は、旧河川の埋没以降となる。

さて、現在の河川に沿うように旧河川が埋没していることが想定された。旧河川の幅は、T3～7付近では80m前後、T15・16付近では35m以上であることがわかった。

T8～14とT17～20は丘陵の斜面上にあるため、耕作時に大規模な掘削が行われている。よって、大半が地山となり、遺構や遺物は検出されなかった。

T15では、第Ⅲ層と第Ⅳ層混合層の間に炭を包含する層を一部検出したが、時期や性格については判断できる資料が得られなかった。

以上、4区の試掘調査についてまとめたが、炭層の検出は窯址に関するものと考えられ、周辺地は調査が必要といえる。

## 第6章 調査の成果と課題

本書では、北梅本町で行った確認調査と緊急調査、及び周辺地の採集資料について報告を行った。

### 1. 確認調査

確認調査は、小野川上流の斎院木橋付近から悪社谷におよぶ長さ約1.7kmに対して行われた。

調査は主に、古代の窯跡に関する資料の検出につとめたが、調査が幅2～3mの限られた範囲で実施されたため、直接的な遺構の確認にはいたらなかった。ただし、枝朶下池の北縁にある2区では、調査地に接して窯址が露呈しており、焼土や遺物の分布範囲を測量し、遺物の採集を行った。この窯跡は、枝朶下池3号窯址とされているものであり、2区周辺の調査が進めば、窯址の関連遺構が検出されることであろう。

### 2. 本格調査

3区は、2区の確認調査と一帯の踏査、数点の遺物出土により、試掘トレンチを拡張し、本格的に調査を行った。その結果、谷や自然地形の落ちを検出し、少量の遺物が出土した。旧地形が一部判明したことは、悪社谷1号窯址や同2号窯址の関連遺構の所在を推量する資料となる。2区や3区の調査結果では、尾根の周縁部に主たる遺構がみとめられないので、作業場等の施設は尾根の傾斜地にあつたと考えたい。

また、石鏝は緑色チャート製品で、形態と重さより縄文時代のものに比定できる（註1）。一帯の山々で石鏝を採集した人が多いときくが、先の時代には同地は狩猟域になっていたようである。

### 3. 採集品

枝朶下池周辺では、確認調査時においても窯址を容易に確認することができる。同様に、小野～北梅本一帯ではこれまでに幾人かの研究者により窯址が発見されている。既に『小野川流域の遺跡』でその一部を報告したが、先に未報告となった資料について、追加報告を行いたい。今回は長井数秋氏、善永光一氏、池田 学氏の採集品を附編として掲載した。追加資料には、小野一帯の窯址が東にも展開し、かつ古く（6世紀末）から操業していたことを示すものが含まれている。また、新たに潮見山の南麓にも窯址が存在していることも判明した。今後とも継続的な踏査が必要である。

以上、調査について報告を行った。枝朶下池4号窯址は、池の水による侵食で年々倒壊が進行している。消滅前に調査が必要であろう。松山平野の古代窯址の中心地でもあり、今後とも踏査、確認調査、本格調査等は継続して行わなければならない。

最後になったが、長井数秋氏、善永光一氏、丹下道一氏には資料の公開にご協力をいただいた。記して感謝の意を表するものであります。

（註1）石鏝の年代については加島次郎氏の教示による。

## 附章 I 小野川上流域の表採資料

### 1. はじめに

ここでは、小野川上流域で表採した窯址関連資料を取り上げる。提示資料は、悪社谷1号窯、枝朶下池2号窯、小野谷窯址の三資料である。枝朶下池2号窯資料は、長井数秋氏が永年にわたり小野地区を踏査し、採集したものの一部である。小野谷駄場窯址資料は、1984（昭和59）年に松山市教育委員会文化教育課の職員が採集したものである。悪社谷1号窯址資料は、1996（平成8）年に当センター職員が採集したものである。

以下、三資料について実測図を掲載し、その特徴を略記する。

### 2. 資料

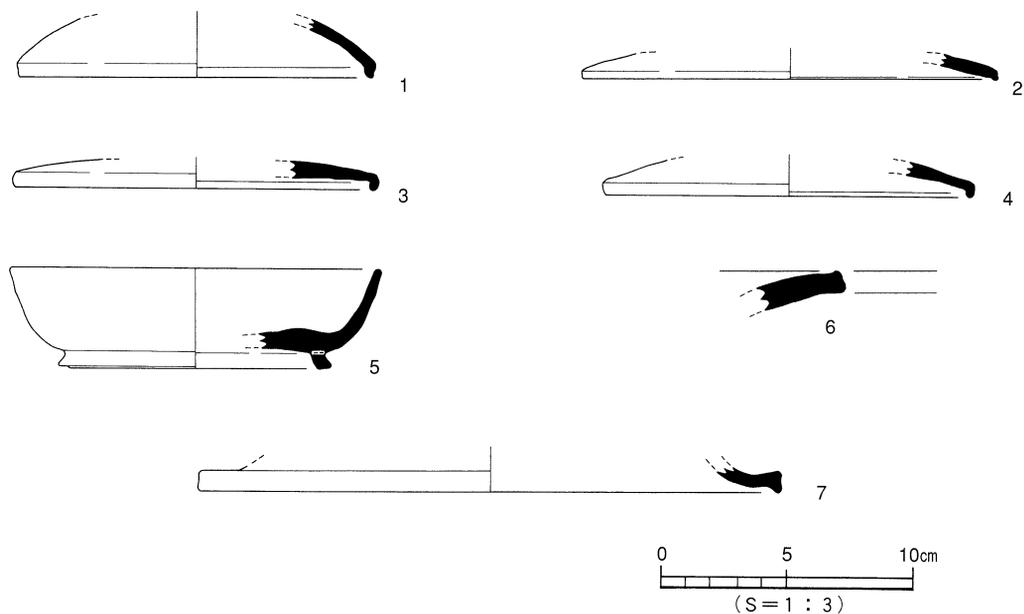
#### 悪社谷1号窯址（第27・39図）

所在 松山市北梅本町

立地 悪社川上流の小開析谷南傾斜地。海拔160m。

遺構 傾斜地の中位付近に窯体が構築されていたと推定。裾部付近には須恵器と窯壁片が分布。

遺物 第27図1～7が採集品である。器種には坏蓋、坏身、甕、高坏がある。1～4は坏蓋で、口縁端部は短く垂下する。5は坏身で、「ハ」の字状の高台をもつ。6は甕で、外反する口縁部は端部が面をなす。7は高坏の脚部で、端部は短く垂下する。小片にて底径は不確か。



第27図 悪社谷1号窯址採集遺物実測図（96年）

枝朶下池 2 号窯址 (第28・29・39図)

所在 松山市北梅本町

立地 小開析谷を利用した溜池の北岸にある。低丘陵の緩傾斜地に構築したものか。

遺構 現在は確認できない(消滅か)。採集時には窯址と考えられる遺構が存在していた。

遺物 保管の関係により資料が三つに分けられているので、各々で特徴ある土器をあげておく。

資料 1 (第28図 8~24) : 器種には坏蓋と坏身がある。8~10は坏蓋で、8は扁平な擬宝珠様つまみが見られる。9・10は口縁部片で、9は口縁端部が垂下し、10は口縁内側にくぼみをもつ。11~17は坏身である。11~13は口径が小さいもので、胴部上半にあいまいな稜をもつ。14~17は口径が大きいもので、口縁端部は外反し、内側にくぼみや沈線をもつ。18~24は高台がつく坏で、18~21は底径が小さいものである。22~24は底径が大きく、器高が低いため皿に類似する。

資料 2 (第29図 25~32) : 器種には皿と甕がある。25~31は皿で、口縁端部は外反し、30を除き内側部にくぼみ面をもつ。32は甕で、大きく外反する口縁部は、口縁端部がナデくぼむ。

資料 3 (第29図 33~39) : 器種には坏蓋、坏身、甕がある。33・34は坏蓋で、33には扁平で低いつまみがつく。35~38は坏身で、35は口径が小さく、器高が高いものである。36~38は口径が35に対し広く、器高も低くなる。39は甕で、外反する口縁部は、内端部が小さく突出する。

小野谷駄場窯址 (第30・39図、図版12)

所在 松山市北梅本町

立地 低丘陵の先端部の緩傾斜地に構築したものか。

遺構 現存していない。採集時には多くの土器片が散在していた。

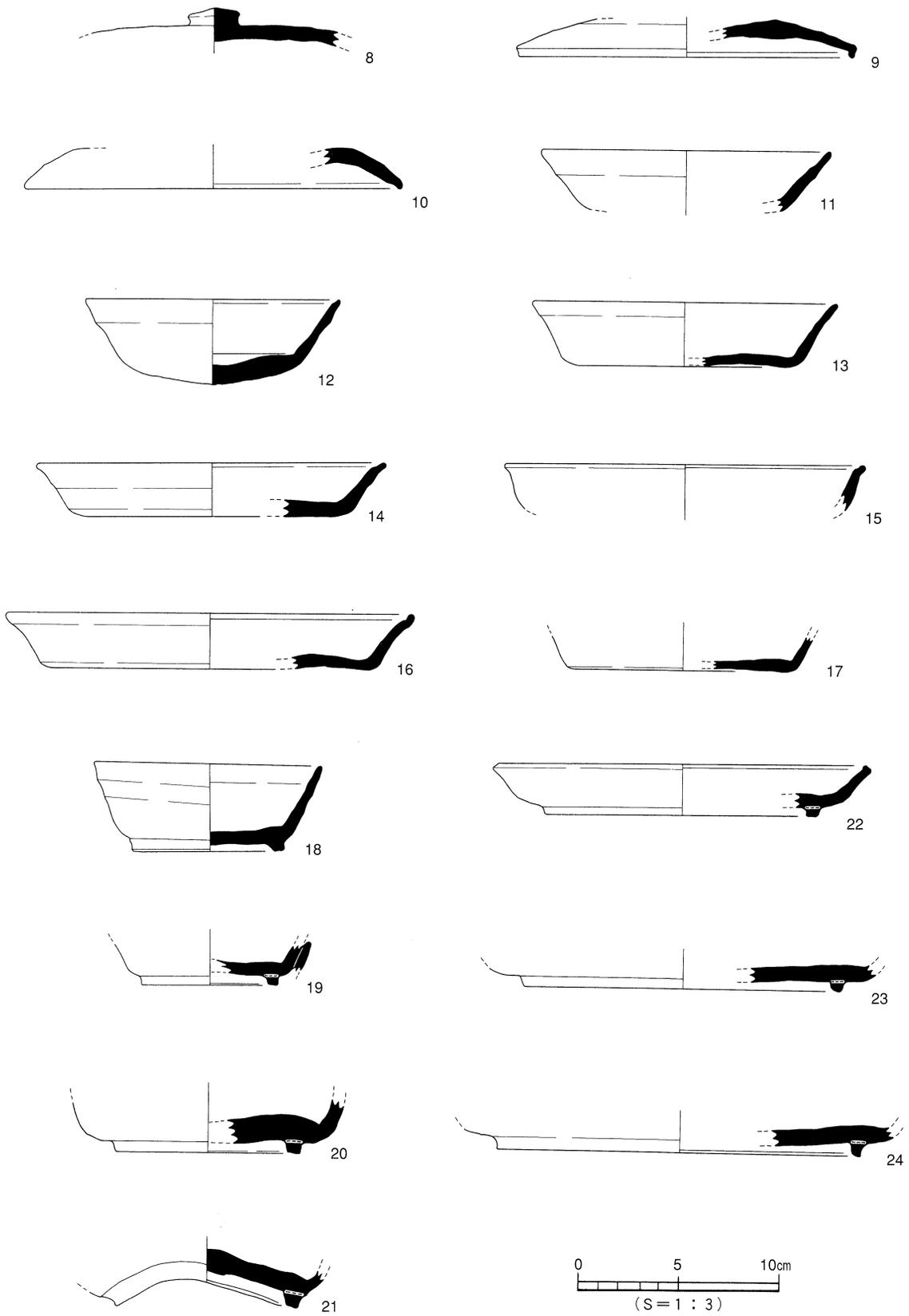
遺物 第30図 40~47が採集品で、器種には坏蓋、坏身、甕、鉢、瓦がある。坏蓋 40・41は口縁部にかえりをもつもので、40はかえりが口縁部より下がり、41は口縁部とほぼ同じ高さにつく。42・43は坏身で、胴部下半に稜をもつ。44は甕で、口縁端部は内傾し面をもつ。45は鉢で、胴部上半が湾曲してたちあがる。46は甕の胴部片で、内面のあて具痕には同心円の中心部に「十」状の痕をみる。47は瓦で、凹面に布目痕をもつ。

### 3. まとめ

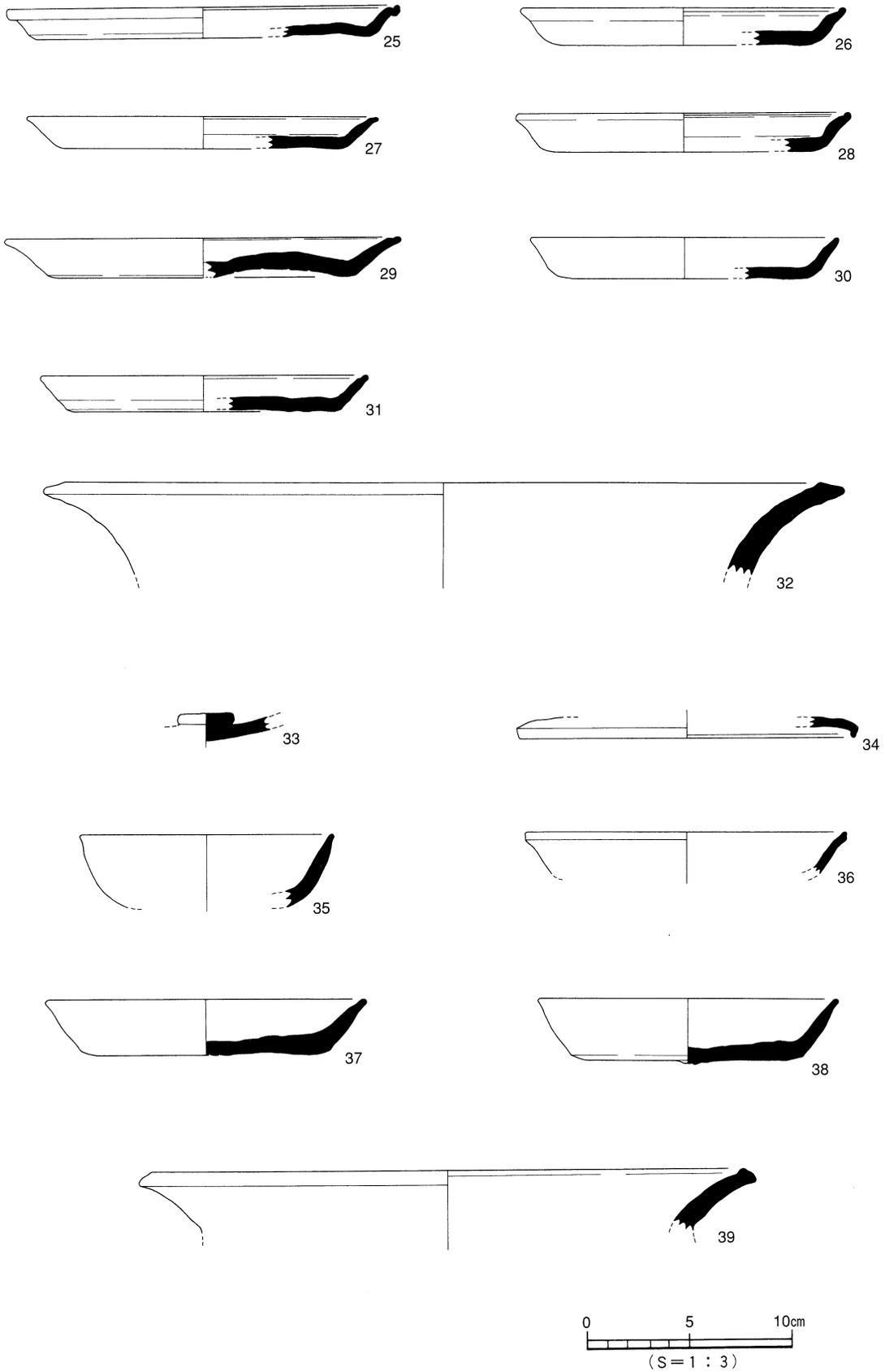
本資料中、新たな資料は枝朶下池 2 号窯である。現在は確認できないが、踏査時には須恵器片が集中的に分布し、窯址関連遺構の一部が露出していたものと考えられる。遺物は、隣接する 3 号窯址とは大きな時期差をみせない。小野谷駄場窯址資料は、瓦を採集している。松山平野では来住廃寺に代表される古代寺院が多い。本資料では、それ等寺院址との関係は判断できない。今後の課題である。

以上、三地点の資料提示を行ってきた。平井・小野・北梅本一帯には未確認の窯址が数多くある。今後とも、継続的に分布調査は必要である。

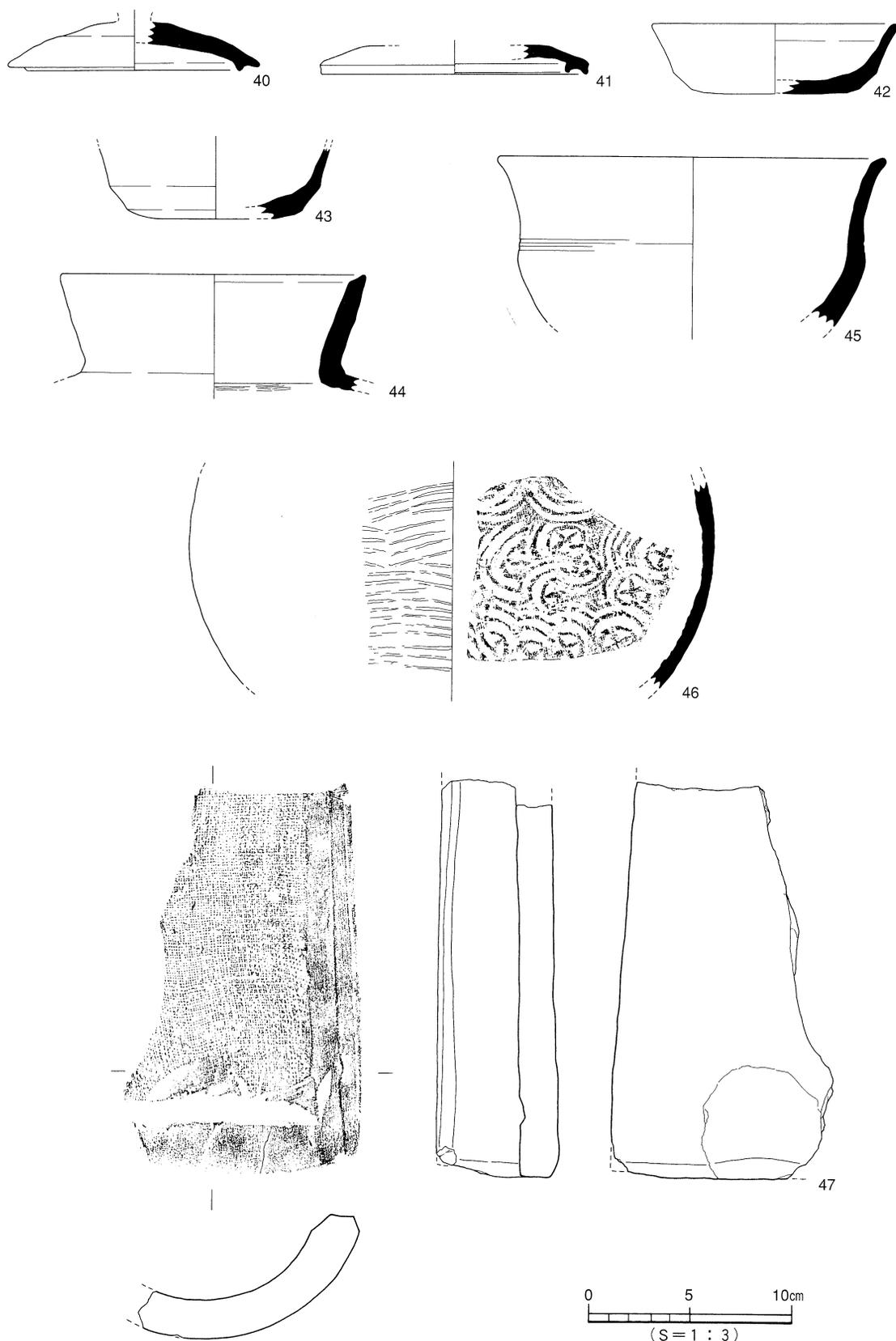
最後になったが、資料を提供していただきました長井数秋氏、小野谷駄場窯址に関する助言をいただきました西尾幸則氏には末尾になりましたが、記して感謝申し上げます。



第28図 枝朶下池2号窯址採集遺物実測図(1)



第29図 枝朶下池 2号窯址採集遺物実測図(2)



第30図 小野谷駄場窯址採集遺物実測図

遺物一覧 (作成者：梅木謙一)

(1) 遺物の計測値及び観察一覧である。

(2) 遺物観察表の各記載について。

法 量 欄 ( ) : は復元推定値

形態・施文欄 土器の各部位名称を略記。例) 天→天井部、口→口縁部、胴上→胴部上位、裾→裾部、胴底→胴部～底部。

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記した。例) 砂→砂粒、長→長石、石→石英、密→精製土。( ) 中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。例) 石・長(1~4)→「1~4mm大の石英・長石を含む」である。

焼成欄の記号について。◎→良好、○→良、△→不良。

表5 悪社谷1号窯址採集遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
1	蓋	口径(14.0) 残高 2.3	天井部は丸みをもつ。口縁端部は下方へ屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
2	蓋	口径(16.3) 残高 1.0	口縁端部のつまみ出しは弱い。	回転ナデ	回転ナデ	淡灰色 淡灰色	密 ◎		
3	蓋	口径(14.1) 残高 1.1	口縁端部は下方へ屈曲。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
4	蓋	口径(14.4) 残高 1.4	口縁端部は下方へ屈曲。	回転ナデ	回転ナデ	淡緑灰色 淡灰色	密 ◎	自然釉	
5	高台坏	口径(14.6) 器高 3.9 底径(10.8)	高台は「ハ」の字状に開き、丸みのある底部端に付く。	㊦回転ナデ ㊧回転ヘラケズリ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	淡灰色 淡灰色	密 ◎		
6	甕	残高 1.55	口縁部は外方へ開く。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 淡灰色	密 ◎		
7	高坏	底径(23.0) 残高 1.0	脚端部は下方へ屈曲。	回転ナデ	不明	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	

表6 枝朶下池2号窯址採集遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
8	蓋	つまみ径2.6 つまみ高0.9 残高 2.0	つまみ部の上面は山形となる。	㊦回転ナデ ㊧ナデ	ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
9	蓋	口径(16.6) 残高 1.9	口縁端部は短く垂下。	㊧回転ヘラケズリ (2/3) ㊦回転ナデ	㊧ナデ ㊦回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
10	蓋	口径(18.7) 残高 2.0	口縁端部は内側にくぼみをもつ。	㊧ナデ ㊦回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		

遺物観察表

枝朶下池2号窯址採集遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
11	坏	口径(14.3) 残高 3.0	口縁部は内湾して立ち上がる。口縁端部は丸みをもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ○		
12	坏	口径(12.6) 器高 4.2 底径(8.0)	口縁部は外反し、口縁端部は内傾し、面をなす。	㊦回転ナデ ㊧ナデ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
13	坏	口径(15.0) 器高 3.2 底径(10.6)	口縁部は外反し、端部は細く丸みをもつ。	㊦回転ナデ ㊧ハラケズリ→ナデ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	青灰色 灰色	密 ◎		
14	坏	口径(17.2) 器高 2.7 底径(12.2)	口縁部は外反し、内側にくぼみをもつ。	㊦回転ナデ ㊧ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
15	坏	口径(17.8) 残高 2.3	口縁部は外反し、内側にくぼみをもつ。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
16	坏	口径(20.0) 器高 2.8 底径(15.6)	口縁部は外反する。内側に沈線1条。	㊦回転ナデ ㊧ナデ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	青灰色 青灰色	密 ○		
17	坏	底径(10.5) 残高 1.2	大きい平底。	㊦回転ナデ ㊧ナデ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
18	高台坏	口径(11.2) 器高 4.5 底径(7.6)	口縁部は内湾して立ち上がり、端部は細る。短い高台。	㊦回転ナデ ㊧ナデ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	灰色 青灰色	密 ○		
19	高台坏	底径(7.8) 残高 2.2	高台部はやや幅広く、接地部は水平となる。	㊦回転ナデ ㊧不明	㊦回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
20	高台坏	底径(9.2) 残高 2.7	垂下する高台部。接地部は水平となる。	㊦回転ナデ ㊧ナデ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	暗灰色 灰色	密 ◎		
21	高台坏	底径(9.0) 残高 2.9	高台部はやや幅広い。	㊦回転ナデ ㊧ナデ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	灰色 青灰色	密 ○	窯体附着	
22	高台坏	口径(18.3) 器高 2.5 底径(13.4)	口縁部は外反し、内側が小さく突出する。短い高台。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	窯体附着	
23	高台坏	底径(15.6) 残高 1.3	底部のやや内側に短い高台が付く。	ナデ	ナデ	淡褐色 淡褐色	密 ○		
24	高台坏	底径(18.0) 残高 1.5	底部のやや内側に短い高台が付く。高台は垂下し、外側が接地する。	㊦ナデ ㊧ハラケズリ→ナデ	ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
25	皿	口径(19.1) 器高 1.5 底径(16.4)	口縁部は外反し、内側に沈線1条。	㊦回転ナデ ㊧ハラケズリ→ナデ	㊦回転ナデ ㊧不明	青灰色 青灰色	密 ◎	自然釉	
26	皿	口径(15.7) 器高 1.8 底径(11.8)	口縁部は外反し、内側にくぼみ面をもつ。	㊦回転ナデ ㊧ハラケズリ→ナデ	㊦回転ナデ ㊧マメツ	青灰色 灰色	密 ◎		
27	皿	口径(17.1) 器高 1.6 底径(13.7)	口縁部は外反する。内側部は浅いくぼみ面をなす。	㊦回転ナデ ㊧ハラケズリ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
28	皿	口径(16.2) 器高 1.9 底径(12.6)	口縁部は外反する。内側部はくぼみ面をなす。	㊦回転ナデ ㊧ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
29	皿	口径(19.3) 器高 1.9 底径(15.0)	口縁部は外反する。内側部はくぼみ面をなす。	㊦回転ナデ ㊧ナデ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
30	皿	口径(15.0) 器高 2.0 底径(12.0)	口縁部は内湾して立ち上がる。端部は細る。	㊦回転ナデ ㊧マメツ	回転ナデ	灰色 暗灰色	密 ◎	自然釉 窯体附着	

枝朶下池 2 号窠址採集遺物観察表 土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
31	皿	口径(16.0) 器高 1.8 底径(12.8)	口縁部は外反する。内側部はくぼみ面をなす。	㊦回転ナデ ㊧ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
32	甕	口径(36.9) 残高 4.5	外反する口縁部。口縁端部は幅広く、ナデくぼむ。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 ◎		
33	蓋	つまみ径3.1 残高 1.5	つまみ部の上面はくぼむ。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		
34	蓋	口径(16.2) 残高 1.0	口縁端部は垂下し、突端は尖る。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 暗灰色	密 ◎		
35	坏	口径(12.2) 残高 3.5	口縁部はわずかに外反し、端部は細る。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
36	坏	口径(15.6) 残高 2.0	口縁部は外反し、外側は面をなす。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
37	坏	口径(15.6) 器高 2.7 底径(10.6)	口縁部は外反する。大きい平底。	㊦回転ナデ ㊧ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
38	坏	口径(14.5) 器高 3.2 底径(9.6)	口縁部はわずかに外反する。大きい平底。	㊦回転ナデ ㊧ナデ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
39	甕	口径(29.0) 残高 3.0	口縁部は外反し、上端部は小さく突出する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 淡灰色	密 ◎		

表 7 小野谷駄場窠址採集遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
40	蓋	口径(10.4) 残高 2.4	かえりは口縁端部より下方に伸び、内傾する。	㊦回転ヘラケズリ ㊦回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 ◎		
41	蓋	口径(13.0) 残高 1.4	かえりは口縁端部とほぼ同じ高さで、端部は面をなす。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
42	坏	口径(11.9) 器高 3.5 底径(6.9)	口縁部はわずかに外反する。	㊦回転ナデ ㊧ナデ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	窯体付着	
43	坏	残高(8.6) 底径 3.4	平底。体部下半に低い稜をもつ。	㊦回転ナデ ㊧ナデ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
44	甕	口径(14.8) 残高 5.7	外傾して立ち上がる口縁部。端部は内傾する面をなす。	回転ナデ	㊦回転ナデ ㊧タタキ	白灰色 白灰色	密 ○		
45	坑	口径(18.8) 残高 8.2	体部上半はゆるやかに湾曲して立ち上がる。	㊦回転ナデ ㊧ヘラケズリ→ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
46	甕	残高 9.1	内面には「十」字状のあて具痕を着取する。	タタキ	タタキ	灰色 灰色	密 ◎		12
47	瓦	残長 19.3	凹面には細かい布目痕。	ナデ	布目痕	淡灰褐色 淡灰褐色	密 ○		12

## 附章Ⅱ 松山市小野地区における窯址の分布と変遷

### 1. はじめに

今回報告する資料は、昭和64年から平成元年にわたって丹下道一氏とともに小野地区の窯業遺跡の確認をするため踏査した際、表面採集したものである。最初は瓦窯も踏査の対象としたが、発見するには至らなかった。窯址と判断した根拠は①大量に須恵器が出土する。②窯体が確認できるか窯壁の一部分が表採される。③灰原の確認ができる。こととした。当初、文献に記載されていた窯跡の確認を主眼に置いたが、調査を進めるにつれて、地区の方々の指摘により文献にない窯址も確認することができた。最終的には、窯址の分布する範囲は小野地区だけではなく、平井地区にもひろがっていることがわかった。

### 2. 資料

#### 柳ヶ谷窯址

所在：松山市平井町

遺跡の概要（第39図）

高縄山系山から派生する丘陵には多くの開析谷がある。平井地区にある通称「柳ヶ谷（やながたに）」もその一つで、東側入り口近くの標高100mの付近に窯址を確認した。発見は古く、『小野村史』にも所在が記されている。窯壁の一部分と須恵器片数点を採集した。『小野川流域の遺跡』では消滅したとされているが、本格的な調査をすれば、窯の一部分が残存していると思われる。

遺物（第31図）

坏身、坏蓋を採集した。

坏蓋（1～5） 口径は13.0～14.0 cmを測る。口縁は外側に開き、口縁内側に段をもたない。調整は、天井部1／2～2／3は回転ヘラケズリで、他は回転ナデである。

坏身（6～11） 復元径12cm前後のものが多い。たちあがりはやや短く、直線的にのびるものと、はじめは大きく内傾し端部になると直立するものがある。底部の中央部は平らである。調整は底部外面中央部が回転ヘラケズリで、内面は不定方向のナデ、他は回転ナデである。

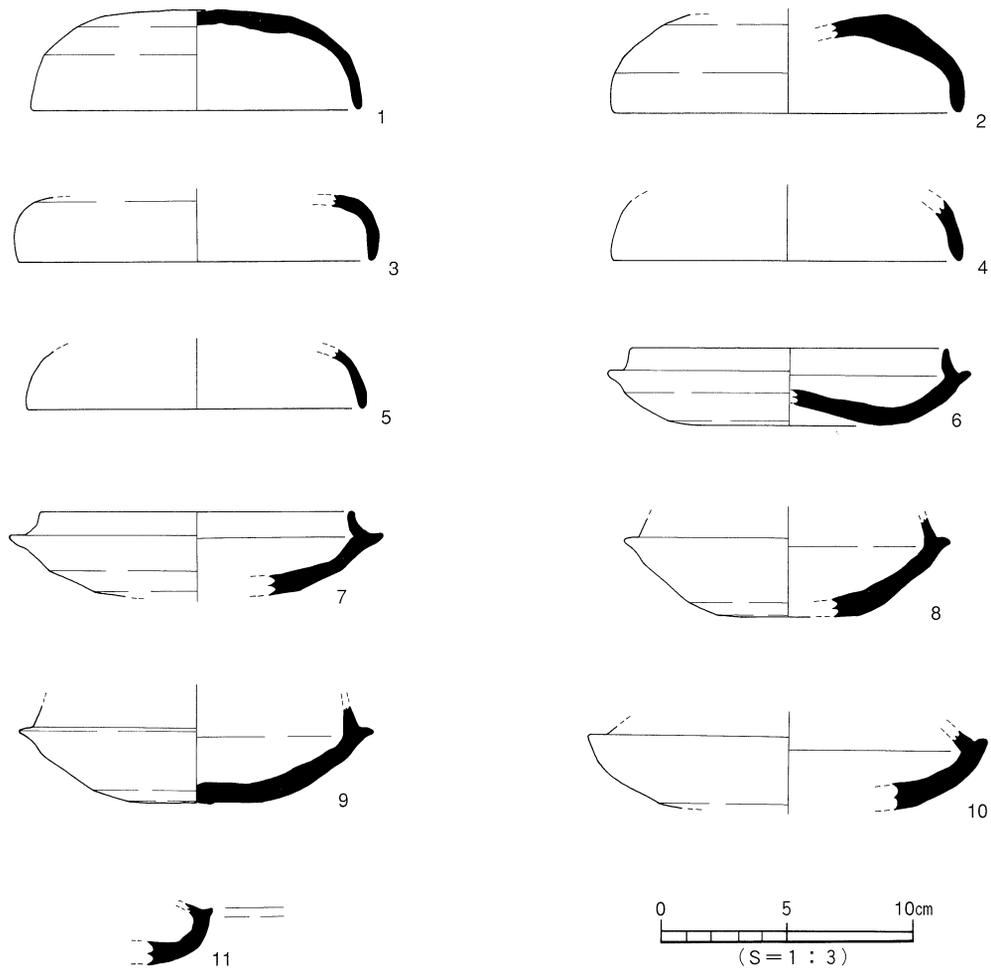
たちあがりの形状、調整、口径から陶邑編年のTK209併行のものである。

#### 小野谷駄場窯址

所在：松山市北梅本町

遺跡の概要（第39図）

『小野川流域の遺跡』によると、昭和40年代の圃場整備事業に伴う調査が行われたとあるが、踏査時には灰原がはっきりと確認された。昭和60年頃の改作時、須恵器、瓦が出土したのではないかとと思われる。瓦窯4基、須恵器窯3基検出されたと報告されているが、面積的に狭い地点であるので窯が7基もあったのか疑問である。ただ、表採した須恵器の型式をみても2時期にまたがっており、複数の窯があったことは十分考えられる。踏査では須恵器片、窯壁の一部分を採集した。出土したといわれる瓦についても追跡したが、発見には至らなかった。



第31図 柳ヶ谷窯址採集遺物実測図

遺物 (第32図)

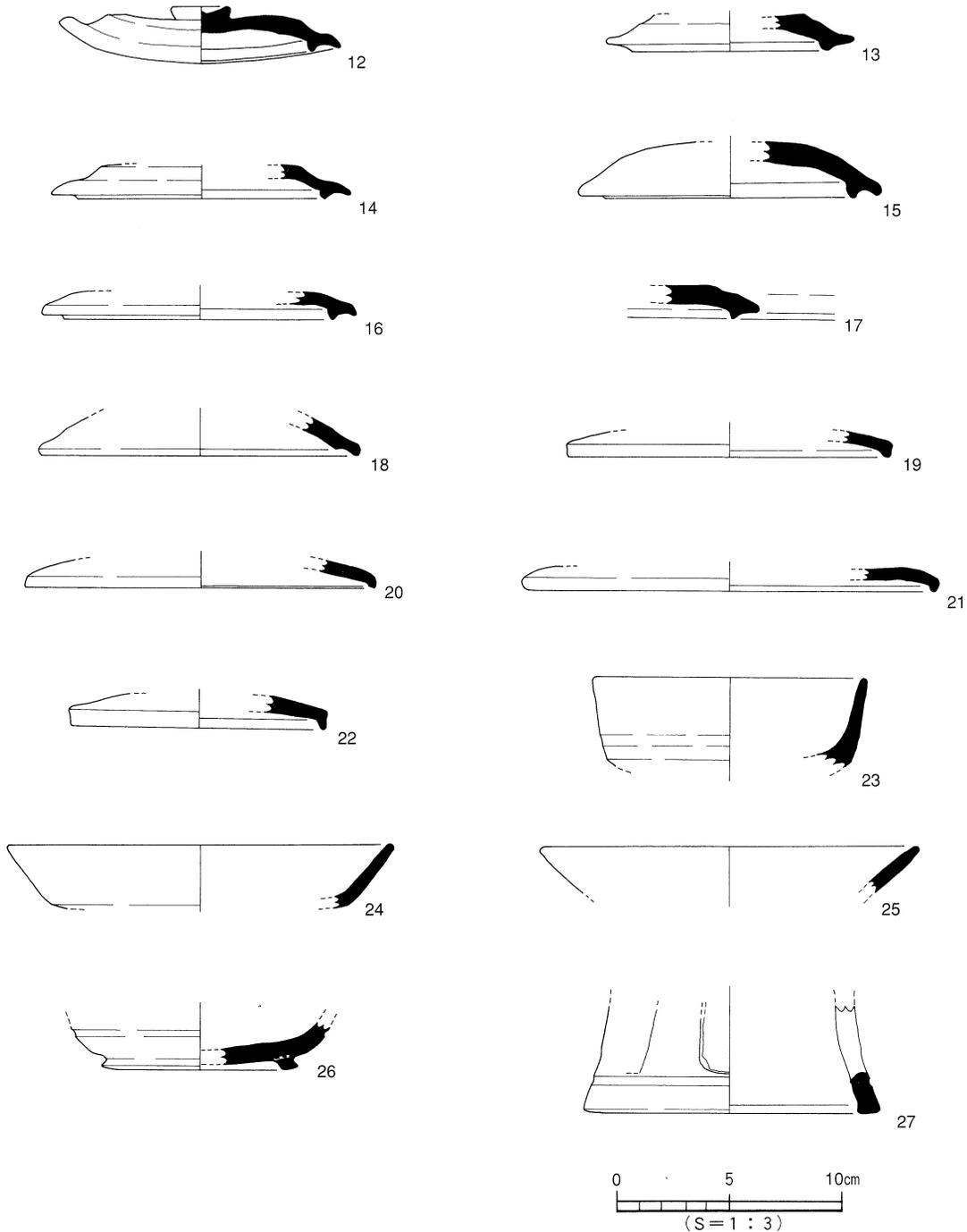
坏身、坏蓋、円面硯を採集した。

坏蓋 (12~22) かえりの有無によってⅡ期のものとⅢ期のものとの2つに分類できる。Ⅱ期のものは、蓋にかえりがつくもので、12~18が相当する。さらに細分され2タイプに分類される。Aタイプ (12~17)、Bタイプ (18) である。Aタイプは断面三角形のかえりがつく。12は、完形品である。天井部に段があり、その中心に、ボタン状のつまみがつく。かえりは小さく、外反ぎみである。器壁はやや薄く、器高も低い。外面の調整は、天井部中央と口縁部付近は回転ナデ、その間は回転ヘラケズリである。13、14、16、17も同様に器高は低く天井部は段を有している。調整は、16を除いて天井部上段は回転ヘラケズリ、他は回転ナデである。15のように天井部が丸く、段がつかないものもある。Bタイプは、かえりの退化が激しく、削り出しにより作られている。Ⅲ期のものは、かえりの消失した蓋である。19~22が相当する。器高は低い。口縁端が短く屈曲しているが、屈曲の様子はさまざまである。口径に差があり、18cmを測る21のような大形品、14~15cmクラスの中形品 (19、20)、22のような小形品がある。残存部分について言うと、調整は天井部内面に不定方向のナデを施すものもあるが、回転ナデがほとんどである。

坏身 (23~26) 高台のつくものとつかないものがあると思われる。23は、口径が小さく、体部は直線的で、口縁部で少し外反する。調整は内外面とも回転ナデである。Ⅱ期のものの坏蓋に対応するものであろう。24、25のように口径の大きいものがある。どちらも、体部は直線的にのび、調整は残存部分は回転ナデである。Ⅲ期の坏蓋に対応するものと考えられる。26のように、「ハ」字状の高台をもつものもある。

陶硯 (27) 円面硯の脚部である。最大径は11.6 cmを測る。透かしは長方形であると思われる。

以下の記述では、Ⅱ期の資料を小野谷駄場①、Ⅲ期の資料を小野谷駄場②とする。



第32図 小野谷駄場窯址採集遺物実測図

### 枝朶下池 3号窯址

所在：松山市北梅本町

遺跡の概要（第39図）

小野谷の東隣に、北東から南西方向に開く悪社谷がある。谷の下流部分は現在、堤が築かれ、枝朶下池となっている。干水時に灰原を確認した。

遺物（第33・34図）

坏蓋、坏身、甕等を採集した。

坏蓋（28～37） 小片が多く全体の形状がつかみにくい。器高の高いもの（31）と偏平なもの（30、32～37）に分類できる。偏平なものの中には、さらに大形品（30、33）、中形品（34、35）、小形品（36）がある。調整は、内面はほとんどが回転ナデであるが、外面は天井部に回転ヘラケズリを施すものもある。つまみは偏平な擬宝珠である（28～29）。口縁の形状は、30、33のように口縁端部を屈曲させ端面に1条の凹線を施すものもあるが、さまざまである。

坏身（38～46） 高台のつくもの（44、45）とつかないものがある。42は、やや浅めの坏身である。体部、口縁部は直線的に伸びる。大形品に入る。調整は底部外面1/2が回転ヘラケズリの他は回転ナデである。43は、深めで、体部は直線的であるが、口縁は外反する。調整は、底部外面は回転ヘラケズリで、他は回転ナデである。小形品である。46は、口径25cmを測る。体部、口縁部とも外湾ぎみである。他と比較して大きいので坏身ではない可能性もある。

甕（47～53） 小片ばかりである。大形品、中形品、小形品に分類できそうである。51は、甕ではなく高坏かもしれない。

甗（54） 板状の把手である。

### 枝朶下池 5号窯址

所在：松山市北梅本町

遺跡の概要（第39図）

前述悪社谷に所在する。遺跡の背後は潮見山であり、当遺跡の付近には、地元の人が「なめり石」と呼ぶ、良質の粘土の厚い堆積が認められる。

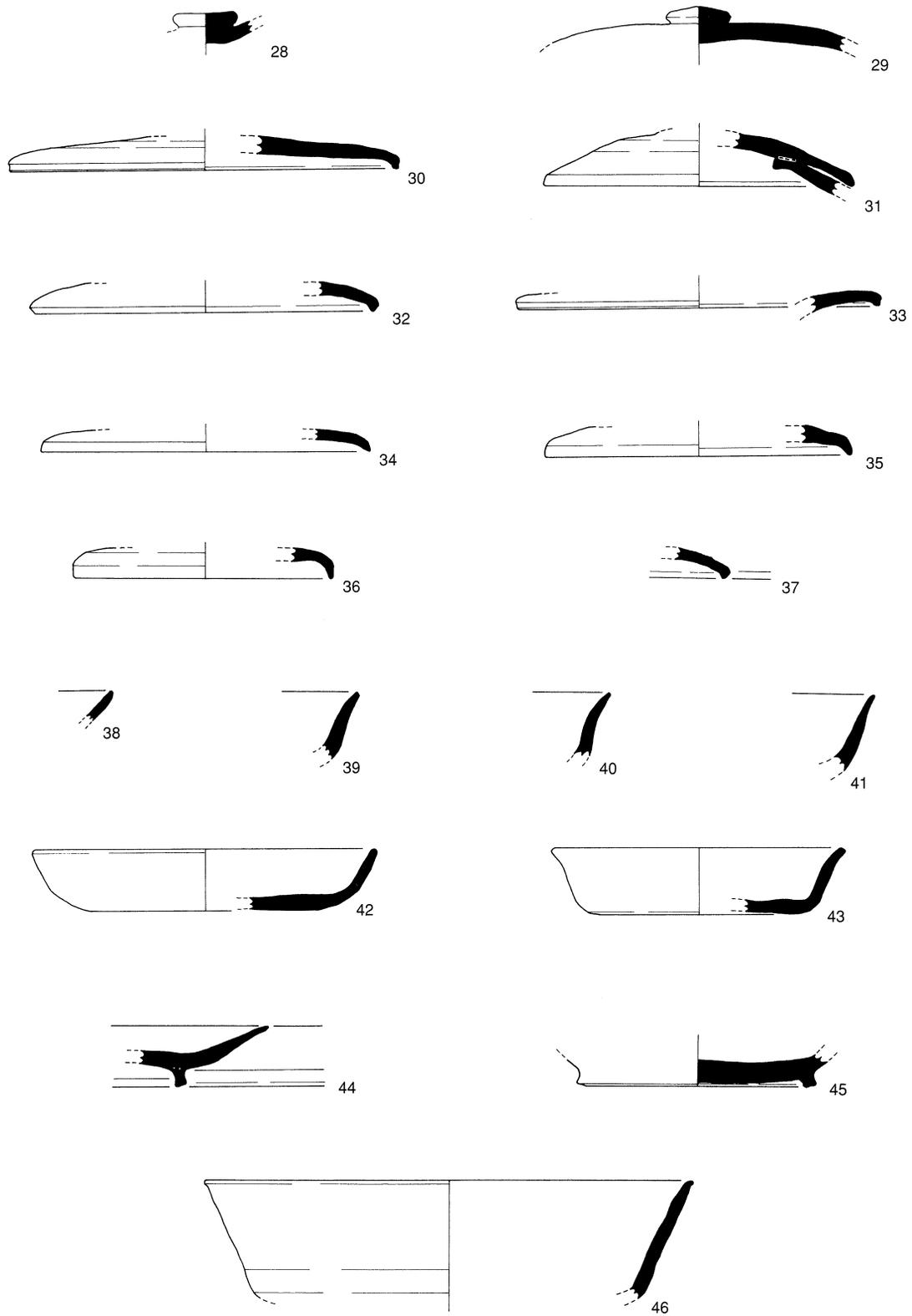
遺物（第35図）

坏身、坏蓋、高坏、皿、甕を採集した。

坏蓋（55～63） 偏平なものばかりである。58と63は口縁部を短く屈曲させるが屈曲する前に天井部に段を有し、鍵状を呈する。しかし、他の口縁端の形状はさまざまである。口径によって大形品（55、59）、中形品（57）、小形品（60、61）に分類できる。調整は、55、56、57、60の天井部外面が回転ヘラケズリの後ナデで、他は回転ナデがほとんどである（66、67）。

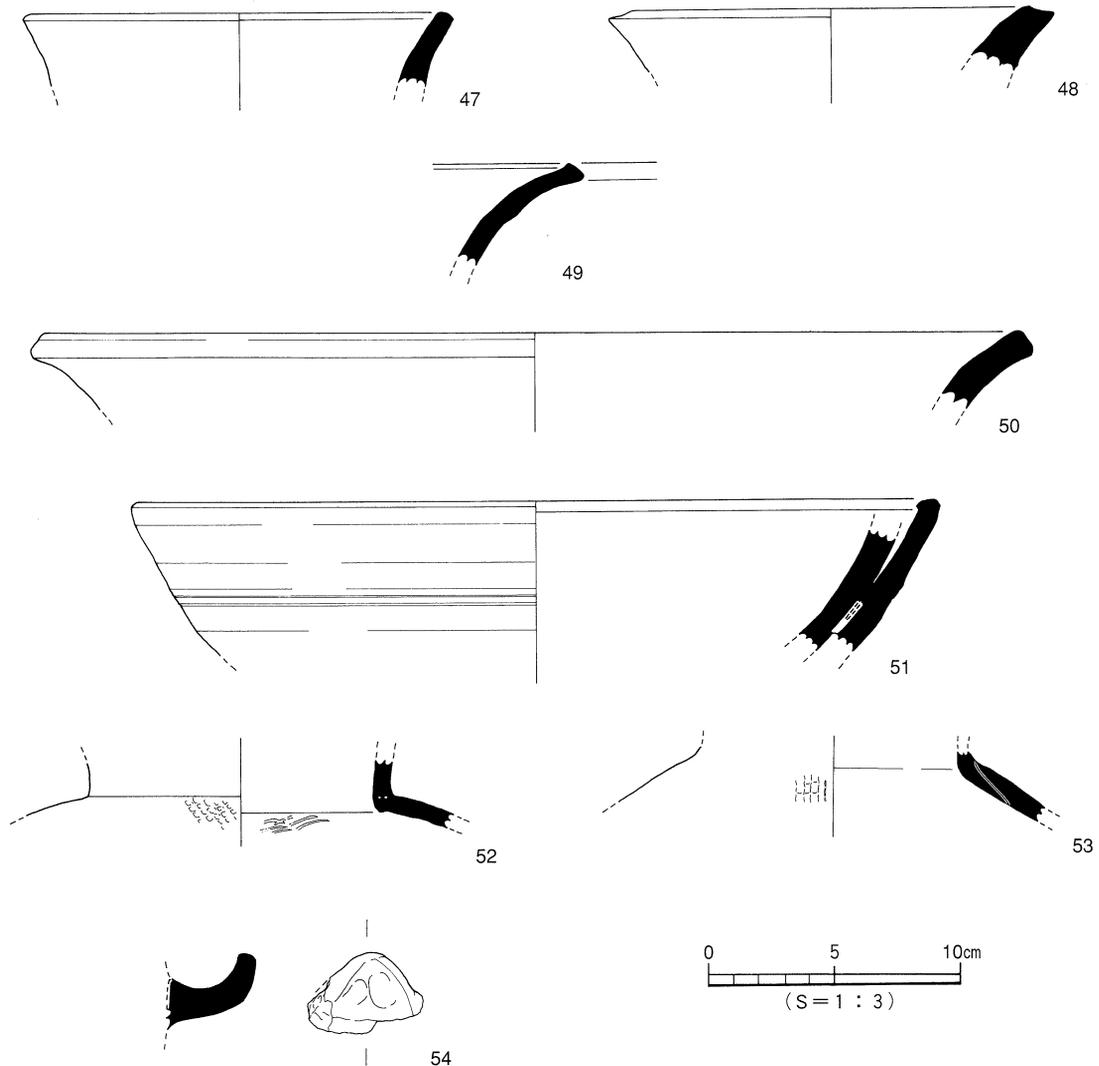
坏身（64～68） 高台のつくもの（68）とつかないものがある。66は、深めの坏身で、体部は内湾ぎみにたちあがる。調整は、底部外面が回転ヘラケズリ、他は回転ナデである。67は、体部が外湾ぎみにのび、口縁端内面に凹線を1条施すものである。調整は、底部外面が回転ヘラ切りの後ナデ、他は回転ナデである。

高坏（69） 脚部である。端面は、下方に拡張する。



0 5 10cm  
(S = 1 : 3)

第33图 枝朶下池3号窯址採集遺物實測圖 (1)



第34図 枝朶下池3号窯址採集遺物実測図(2)

皿 (70~74) 体部が外反ぎみに伸び、口縁端内面に1条の凹線を施すものと、体部が直線的に伸び口縁端内面に凹線を施さないものに分類できる。前者には大形品 (73、74)、中形品 (72)、小形品 (71) がある。後者は小形品 (70) のみである。調整は、70、71、73の底部外面が回転ヘラケズリで、他は、ほとんど回転ナデである。

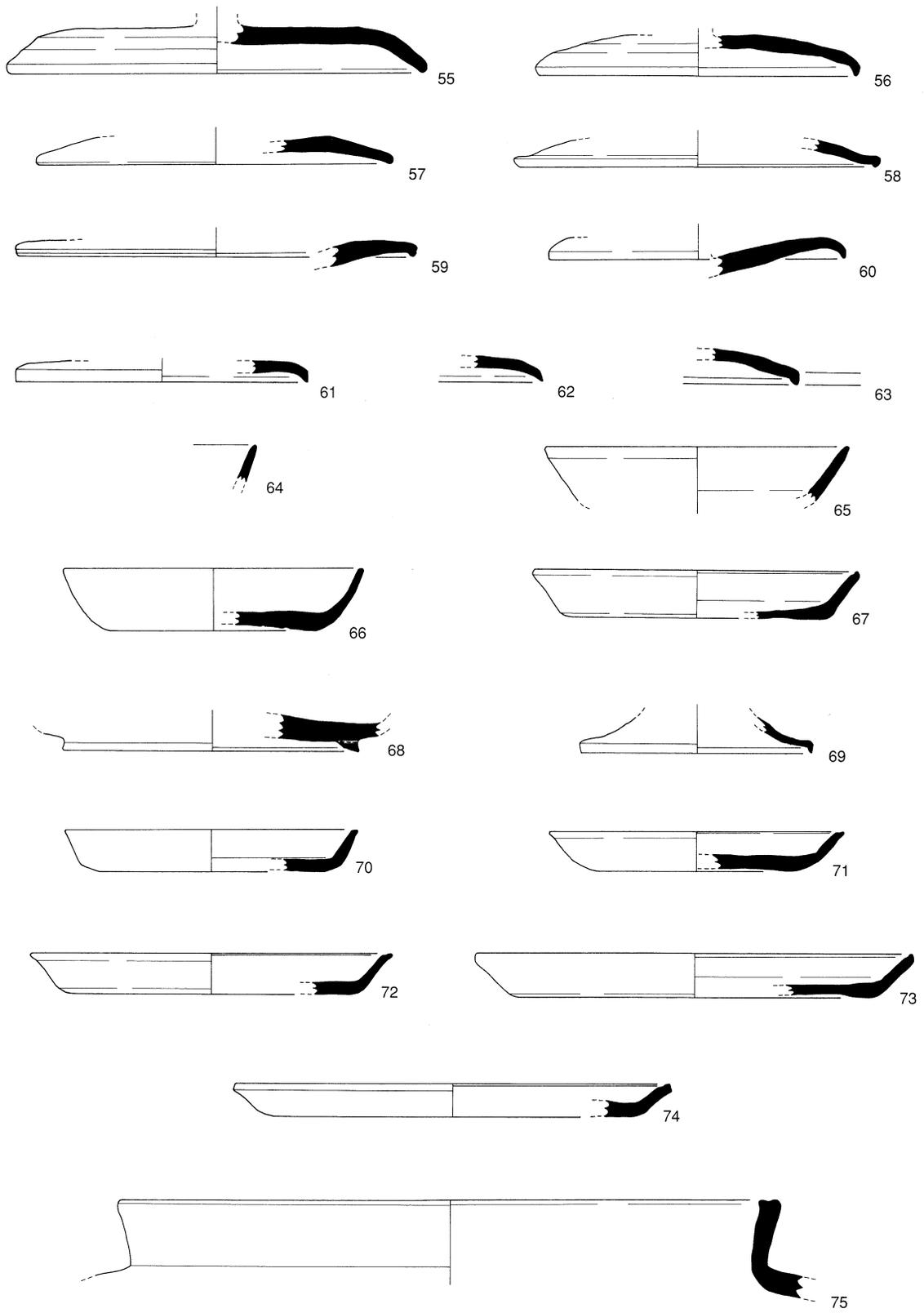
甕 (75) 大形品である。器厚は厚く、口縁端部は水平で、凹線が入る。

### 枝朶下池裏窯址

所在：松山市北梅本町

遺跡の概要 (第39図)

枝朶下池の東岸に小高い丘があり、その東面にも窯址を確認した。小野・駄場窯址群としては、現在一番東端のものである。規模は小さいが、悪社谷の東隣の谷となる。窯壁の一部分と擬宝珠のつまみをもつ坏蓋の破片を採集した。



第35图 枝朶下池5号窯址採集遺物實測圖

## 潮見山南窯址

所在：松山市北梅本町

遺跡の概要（第39図）

松山平野奥部の小野川によって開析された小野谷の開口部に独立丘陵状の山がある。潮見山である。潮見山にはいくつかの小谷が刻まれている。その一つ、南に開いている谷の東側に窯は存在する。周辺には前述の「なめり石」が堆積している。窯壁の一部分と、須恵器片多数が散在している。その分布範囲から、複数の窯が存在することが予想される。

遺物（第36・37図）

坏身、坏蓋、高坏、甕、甕等を採集した。

坏蓋（76～81） 口径は10.8～13.1 cmである。天井部は丸いものが多く、口縁部との境には緩やかな稜をもつものや凹みをもつものがある。口縁は外側に開く。口縁内面に段はない。調整は、天井部外面に回転ヘラケズリ、天井部内面に一部不定方向のナデ、他の部分は回転ナデである。

坏身（84～88） 口径の復元可能なものは少ない。86、87とも13.5 cmである。たちあがりは短い。

蓋（82、83） 短頸壺の蓋と思われる。天井部は回転ヘラ切りのまま未調整。

甕（89） 口縁部と思われる。大きく開く口縁部に断面三角形の凸帯がつく。

高坏（90～92） 90は、無蓋高坏の身部で口縁部と体部、体部と底部の境に段をもつ。調整は、内外面とも回転ナデである。91は、長脚2段透かしの脚部で間に2条の沈線を施す。92は脚部の裾で端面は上下に開く。

甕（93、95～97） 小形品（93）中形品（95、96）大形品（97）に分けることができる。93は、体部上半は急速にすぼまる。肩部に2条の凹線の下に刺突斜線文を施す。口縁は短く直線的である。95は、外反ぎみに広がる口縁で外面はカキ目で調整する。端部外面は断面カマボコ状の凸帯をめぐらす。96も、外反ぎみに広がる口縁であるが端部は上方に拡張する。体部にはタタキをナデで消している。97は、大きく広がる口縁で端部は下方に拡張する。外面は刺突斜線文である。

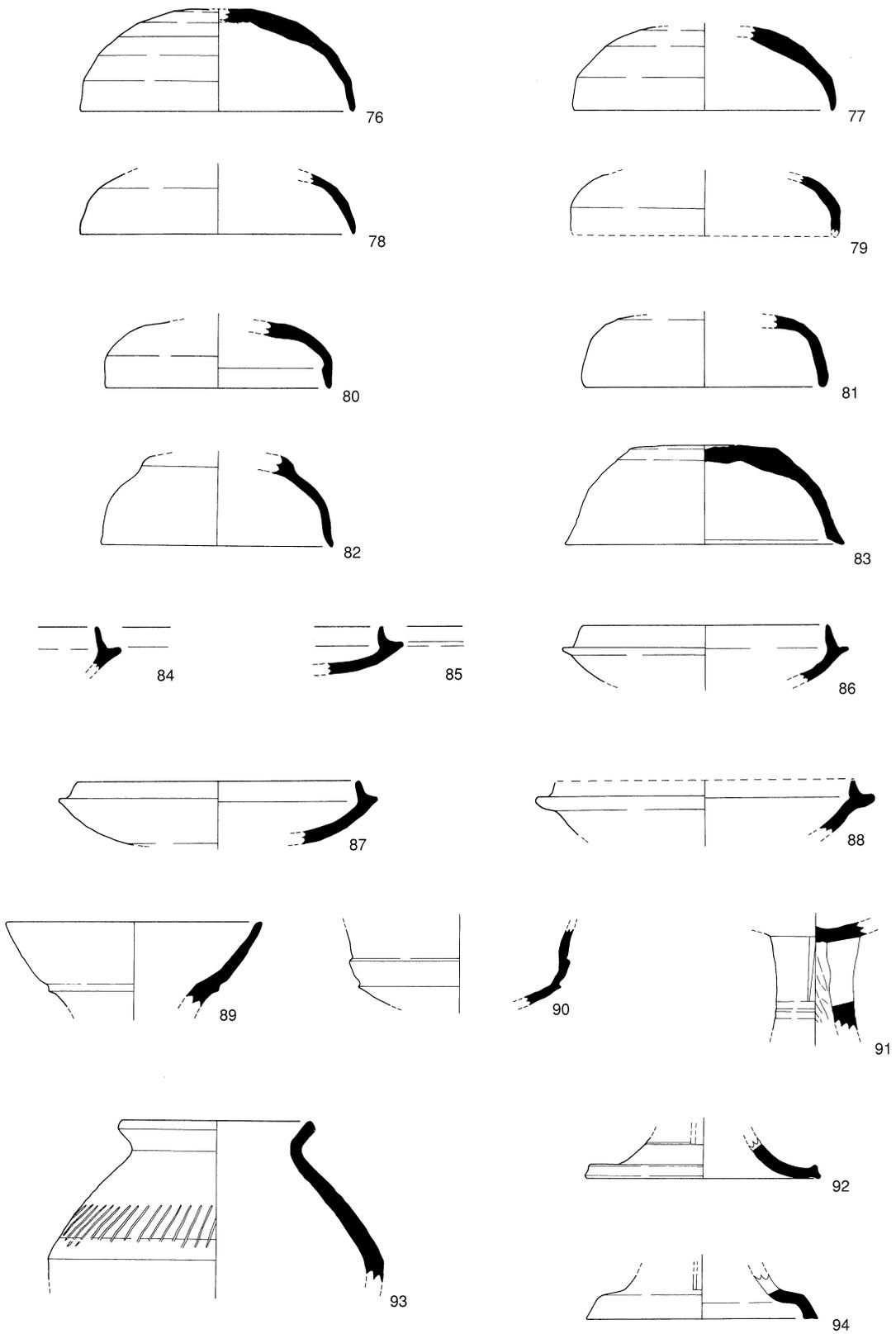
94は、器種は特定できないが、脚部である。

## 3. 考察

### （1）編年的考察（第38図）

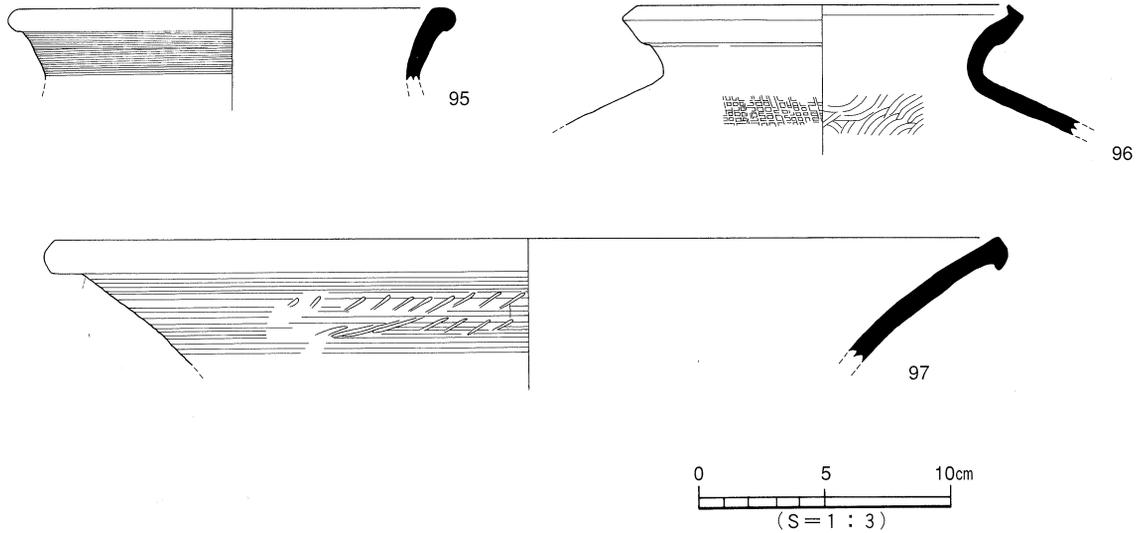
蓋坏類を中心に今回採集された各窯跡の資料を検討してみる。蓋坏類から、大きく3時期に分けることができる。Ⅰ期は、坏身にかえりがつくもの。Ⅱ期は、かえりが坏身から消滅し、蓋につくもの。Ⅲ期は、かえりが蓋からも消滅するものである。今回の踏査では、Ⅰ期段階のものは、柳ヶ谷窯址と潮見山南窯址がある。坏身の口径は両窯跡は12～13cm前後で、陶邑T K 209併行となる。同期の窯址は、当地域では他に茨谷窯址がある。操業は短期の窯でⅠ型式におさまるとされる。坏身の口径は12cmで、ほぼ同じであるが、前2窯址のものとの違いは以下の通りである。①坏身のかえりが若干短く、退化している。②長脚の高坏の脚には透かしが無くなっている。③短脚の高坏が出現している。これらの理由から柳ヶ谷窯址、潮見山南窯址のほうが段階的に古いと考えられる。

Ⅱ期には小野谷駄場窯址がある。しかし、小野谷駄場窯址の資料には、Ⅲ期のものも含まれており、複数基の窯の資料が混在している可能性がある。そこで、純粋なⅡ期のみの姥ヶ懐窯の資料（T K 46併行）から考える。姥ヶ懐窯址と小野谷駄場窯址①の坏蓋で大きく違うところは、つまみの形状であ



0 5 10cm  
(S = 1 : 3)

第36図 潮見山南窯址採集遺物実測図(1)



第37図 潮見山南窯址採集遺物実測図(2)

るが、それは後で考察する。報告書によると、蓋坏類はa類とb類に分類されている。a類は、①器壁が厚い。②坏蓋の天井高が高い。b類は、①器壁が薄い。②坏蓋の天井高が低い。といった特徴をもっているという。そして、b類の方が後出的としている。これを小野谷駄場窯址の資料にあてはめると、坏蓋は、a類が1点、b類が5点で、姥ヶ懐窯址灰原でのa類とb類の比率約1：2であるから、小野谷駄場窯址の方が新しいと考えたい。小野谷駄場窯址の資料は点数が限られていて比較することに問題があるが、宝珠つまみとボタン状のつまみでは後者が後出的と考えているので、その点からみても矛盾しない。また、小野谷駄場窯址には第32図の18のような坏蓋を2点発見した。口縁内部に段をもっているような形状である。かえりは時期が新しくなるにつれて退化してくるので、かえりが消失する直前のものと考えることが適当であると考えた。今後資料の増加を待ちたい。

Ⅲ期の須恵器を採集した窯址には、小野谷駄場窯址②、枝朶下池3号窯址、同5号窯址、枝朶下池裏窯址がある。資料的に分析可能な前3窯址について他地域の編年を援用して述べることにする。枝朶下池3号窯址の坏蓋を大まかに天井高の高いものと扁平なものと分類したが、前者は後者より古い様相を示している。3窯址の中では、前者つまり天井高の高い坏蓋は、枝朶下池3号窯址にしか採集されておらず同窯が3窯址の中で一番古いと考えられる。次に、坏蓋の口縁端の形状をみてみる。どれも口縁端を屈曲させてつくっているが、その中でも屈曲する手前の天井部に段がつくものが新しい様相を示している。小野谷駄場窯址にはその特徴をもったものはなく、枝朶下池5号窯址には2点存在する(第35図58、63)。このことより、小野谷駄場窯址は、枝朶下池5号窯址より古いと考えられる。3窯址を古い順に並べると次のようになる。

枝朶下池3号窯址 → 小野谷駄場窯址② → 枝朶下池5号窯址

その他文献等によって、資料が示されているものは当地域には駄場姥ヶ懐2号窯址、悪社谷1号窯址、同2号窯址、枝朶下池4号窯址がある。これらも同様な観点から見てみる。悪社谷1号窯址(MT21併行)の蓋坏は天井部が高く枝朶下池3号窯址よりも古いと考えた。悪社谷2号窯址資料に天井

部と口縁部との境に段がつくものがある。高台付坏身の高台の形状をみると小野谷駄場窯址と枝朶下池5号窯址の間にくるものと推測できる。

まとめると以下のようなになる。

柳ヶ谷窯址 ————  
 潮見山南窯址 ————→ 茨谷1号窯址 → 姥ヶ懐1号窯址 → 小野谷駄場窯址① → 悪社谷1号窯址  
 → 枝朶下池3号窯址 → 小野谷駄場窯址② → 悪社谷2号窯址 → 枝朶下池5号窯址

この時系列をもとに坏身、坏蓋、高坏、皿等を配列してみると、第38図のようになる。I期の中で、柳ヶ谷・潮見山南窯段階では、長脚2段透かしの高坏や甕がある。坏の茨谷段階になってなくなり、短脚の無蓋高坏が出現する。II期姥ヶ懐段階で盤や平瓶が出現する。III期では、各段階で坏蓋端部はさまざまな屈曲の様相を呈する。しかし、悪社谷1号・枝朶下池3号窯段階、つまり、口縁端部が屈曲する前に天井部との境で段をなすものが出現してはじめて皿が出現する。しかも、口縁端内面に凹線のある皿が多い。他地域で皿は、III期の坏蓋のかえりが消滅した段階で出現する。皿の出現が少し遅れる。椀はIII期に出現する。これは他地域と変わらない。

## (2) 窯の変遷と若干の考察

次に小野地域の須恵器窯の地理的な変遷を追うことにする。I期の窯3か所、II期の窯2か所、III期の窯8か所ある。第39図に示されるように大まかにみて窯は古いものから新しいものへと西から東へと移動していく様子がよみとれる。これは、西から東へと薪や良質の粘土を求め移動していった過程がよく現れている。悪社谷(枝朶下池窯址を含む)窯址に多くのIII期の窯が構築されるのは、「なめり石」とよばれる良好の粘土の存在のみならず需要の拡大も考えられる。久米官衙群の整備・拡張との関係が予想される。

小野地域の須恵器の特徴を表わしているものに、口縁端内面に凹線を施す坏身や皿がある。元来この特徴をもつものには土師器の皿があり、明らかに土師器の影響を受けている。しかし、須恵器のとしては少なく、松山平野では、砥部町千足第1号窯址出土の皿、重信町伽藍窯址出土の盤があげられる。県外を見てみると、さらに少なく、管見では高知県土佐山田町大法寺西窯址や平城宮等にあるのみである。松山平野の特徴的なものとみることができのかもしれない。しかも、それは、III期の須恵器全般にみられるものではなく、III期の新しい段階に出現することが分かった。先述したように須恵器の需要の拡大によって土師器生産の工人が須恵器づくりに動員されていった可能性が考えられる。もしくは土師器を模倣することに何らかの意味をもっていたのかと思われる。

## (3) 今後の課題

小野地区においては、踏査や発掘調査によって須恵器窯の実態が大まかに明かされてきた。一方、松山平野での久米官衙群や古墳等の調査によって供給地での状況も解明されてきた。今後は生産地である窯の資料と消費地である官衙等の資料との関連をあきらかにすることを課題としたい。

重松隆之先生やその他多くの小野地域の方々にお教を頂き行った踏査からもう10年の年月が経とうとしている。早期の資料公表を考えていたが、当方の怠慢と諸事情により報告するまでには至らなかった。今回、松山市埋蔵文化財センターの御好意でその機会を与えられた次第である。そればかり

か、土器の実測やトレース等個人では到底処理することのできなかつたことを梅木謙一氏をはじめ、大西朋子氏、水口あをい氏、平岡直美氏にさせていただいた。末筆ながら感謝致します。

(善永 光一)

〔参考文献〕

- 小野村 1960 『小野村史』  
永田正章 1968 「伊予の国窯業の始源—砥部を中心に—」『愛媛の文化 第7号』  
重松隆之 1978 『小野面影図説』  
愛媛県史編さん委員会 1986 『愛媛県史 資料編 考古』  
松山市史料集編集委員会 1987 『松山市史資料集 第2巻 考古編Ⅱ』  
松本敏三 1988 「須恵器の窯跡群 中四国」『季刊考古学 第24号』  
梅木謙一 編 1996 『小野川流域の遺跡』 松山市教育委員会、(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター  
田辺昭三 1966 『陶邑古窯址群Ⅰ』 平安学園考古学クラブ  
奈良国立文化財研究所 1976 『平城宮発掘調査報告Ⅶ』  
中村 浩他 1976 『陶邑Ⅰ』 大阪府文化財調査報告書 第28輯  
中村 浩他 1977 『陶邑Ⅱ』 大阪府文化財調査報告書 第29輯  
田辺昭三 1981 『須恵器大成』  
中村 浩 1981 『和泉陶邑窯の研究』  
菱田哲郎 1996 「須恵器の系譜」『歴史発掘⑩』  
白石太一郎 1982 「畿内における古墳の終末」『国立歴史民俗博物館研究報告 第1集』  
山田邦和 1988 「飛鳥・白鳳時代須恵器研究の展望」『古代文化』40-6  
重信町誌編纂委員会 1975 『重信町誌』  
重信町教育委員会 1997 「拝志古窯群」重信町埋蔵文化財調査報告書4  
愛媛県砥部町教育委員会 1992 『砥部町埋蔵文化財報告書Ⅱ 通谷池第4号窯跡 千足第1号窯跡』  
松本敏三・岩橋 孝 1985 「香川県古代窯業遺跡分布調査報告Ⅱ」『瀬戸内歴史民俗資料館紀要第2号』  
廣田典夫 1991 『土佐の須恵器』  
北九州市埋蔵文化財調査会 1977 『天観寺窯跡群』  
舟山良一・松本敏三・池田榮史 1996 『集成須恵器図録 第5巻 西日本編』  
周陽考古学研究所 1981 「山口県の土師器・須恵器」『周陽考古学研究所報2』  
向田裕始 1985 「芸備地方における須恵器生産(1)—古墳時代を中心として—」『芸備古墳文化論考』

遺物一覧 (作成者：善永光一)

遺物観察表の各記載については、33ページを参照していただきたい。

	坏	高	坏	その他
I 期	柳ヶ谷・潮見山南 1 7 77 86	90 91 92	柳ヶ谷：1・7 潮見山南：77・86・89～94・97	89 94 93 97
	茨谷1号 (242) (247)	(252)	(255)	
II 期	駄場姥ヶ懐1号 56 62 77 100	(126) (141)	(138) (139)	(161) (165)
	小野谷駄場① 15 23 12 14 18			
III 期	悪社谷1号・枝朶下池3号 (205) (212) 31 30 34 36 43 42		悪社谷1号：(205)・(212)・(214)・(221) 枝朶下池3号：30・31・34・36 42～44・46	(221) 46
	小野谷駄場②・駄場姥ヶ懐2号 21 19 22 (185) (186) 24		小野谷駄場②：19・21・22・24・26 駄場姥ヶ懐2号：(185)・(186)	
	枝朶下池5号 58 55 57 61 66 67	69		70 71 72 73

第38図 小野地区における須恵器の変遷 (S=1:6)

※図中の○番号は報告書第57集に掲載

遺物観察表

表8 柳ヶ谷窯址採集遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) 色調(内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
1	坏蓋	口径(13.0) 器高 4.0	天井部は平ら。天井部と口縁部の間にゆるやかな稜。口縁端内面に段なし。	㊸回転ヘラケズリ(2/3) ㊹回転ナデ	㊸ナデ(2/3) ㊹回転ナデ	青灰色 青灰色	石・長(1) ◎		
2	坏蓋	口径(13.6) 残高 3.9	天井部は平ら。天井部と口縁部の間にゆるやかな稜。口縁端内面に段なし。	㊸回転ヘラケズリ(1/2) ㊹回転ナデ	回転ナデ	暗青灰色 淡橙灰色	密 ◎	焼き ひずみ	
3	坏蓋	口径(14.0) 残高 2.5	やや外反する口縁。口縁端内面に段なし。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	焼き ひずみ	
4	坏蓋	口径(13.8) 残高 2.4	やや外反する口縁。口縁端内面に段なし。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 淡青灰色	密 ◎		
5	坏蓋	口径(13.3) 残高 2.3	やや外反する口縁。口縁端内面に段なし。	回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	密 ◎		
6	坏身	口径(12.5) 器高 3.1	立ち上がりは内傾し、端部では直立する。受部に溝。	㊸回転ヘラケズリ(1/2) ㊹回転ナデ	㊸ナデ ㊹回転ナデ	暗青灰色 青灰色	石・長(1) ◎	焼き ひずみ	
7	坏身	口径(12.3) 残高 3.3	立ち上がりは内傾し、端部では直立する。	㊸回転ヘラケズリ(2/3) ㊹回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	石・長(1) ◎	焼き ひずみ	
8	坏身	残高 3.9	立ち上がりは直線的に内傾する。	㊸回転ヘラケズリ(1/3) ㊹回転ナデ	不明	淡黒色 淡橙灰色	長(1) ◎	焼き ひずみ	
9	坏身	残高 3.8	立ち上がりは直線的に内傾する。	不明	㊸ナデ ㊹回転ナデ	暗青灰色 暗青灰色	長(1) ◎		
10	坏身	残高 3.2	立ち上がりは直線的に内傾する。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	回転ナデ	暗青灰色 暗青灰色	密 ○		
11	坏身	残高 2.4	立ち上がりは直線的に内傾する。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ○	焼き ひずみ	

表9 小野谷駄場窯址採集遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) 色調(内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
12	蓋	口径(12.8) 器高 2.6 つまみ径2.6 つまみ高0.6	中央部にボタン状のつまみ。天井部には段を有する。かえりは小さく、外反気味。	㊸つまみナデ ㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	㊸ナデ ㊹回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	焼き ひずみ	12
13	蓋	口径(8.7) 残高 1.6	天井部に段。かえりは小さく、受部の外に出る。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	密 ◎		
14	蓋	口径(11.0) 残高 1.5	天井部には段がある。かえりは小さく、受部の外に出る。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	密 ◎		
15	蓋	口径(11.1) 残高 2.5	天井部はやや丸みをもつ。かえりは小さく受部の外に出る。	不明	回転ナデ	淡緑灰色 淡青灰色	密 ◎		
16	蓋	口径(11.8) 残高 1.2	天井部にはゆるやかな段をもつ。かえりは小さく、受部の外に出る。	回転ナデ	回転ナデ	淡黄青灰色 淡黄青灰色	密 ◎		
17	蓋	残高 1.4	天井部にはゆるやかな段をもつ。かえりは受部の外に出る。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	長(1) ◎		

小野谷駄場採集遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
18	蓋	口径(14.0) 残高 1.7	ケズリ出しによる退化したかえりをもつ。	回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	長(1) ◎		
19	蓋	口径(14.2) 残高 1.1	口縁は短く屈曲し、端部は丸味をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	長(1) ◎		
20	蓋	口径(15.4) 残高 1.3	口縁部は短く屈曲し、端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	長(1) ◎		
21	蓋	口径(18.0) 残高 1.1	天井部は平らで段をもたない。口縁は短く屈曲し、端部は丸い。	回転ナデ	㊦ナデ ㊧回転ナデ	淡灰色 淡橙色	密 ○		
22	蓋	口径(11.2) 残高 1.5	やや丸味をもつ天井部。口縁部は短く屈曲し、端部はするとい。	不明	㊦ナデ ㊧回転ナデ	暗緑色 淡青灰色	密 ◎	自然釉	
23	坏	口径(12.0) 残高 4.0	直線的にのびる体部から、やや外反する口縁部をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	密 ◎		
24	坏	口径(17.0) 残高 2.8	直線的にのびる体部。口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
25	坏	口径(16.4) 残高 2.1	直線的にのびる体部。口縁はすこし細くなり、端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	石・長(1) ◎		
26	高台坏	残高 2.1 底径 (7.4)	しっかりと「ハ」の字状に開く高台。	㊨回転ナデ (一部ナデ)	回転ナデ	淡褐青灰色 淡黄青灰色	石(1) ◎		
27	硯	残高 4.7 底径(11.6)	推定「方形」のすかし。すかしの下に1条の凹線。すかし孔のあけ方にシャープさなし。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		12

表10 枝朶下池3号窯址採集遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
28	蓋	残高 1.4 つまみ径2.8 つまみ高0.7	中央部に扁平なつまみ。	㊩つまみナデ ㊪回転ヘラケズリ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	石・長(1) ◎		
29	蓋	残高 2.2 つまみ径3.6 つまみ高0.8	中央部に扁平化した扁球つまみ。天井部はやや丸味をもつ。	不明	回転ナデ (1部ナデ)	淡青灰色 淡青灰色	長(1) ◎		
30	蓋	口径(18.4) 残高 1.6	天井は平ら。口縁は短く屈曲し、外面に1条の凹線を施す。端部はややするとい。	㊫回転ヘラケズリ ㊬回転ナデ	㊭不明 ㊮回転ナデ	白灰色 白灰色	石・長(1~2) △		
31	蓋	口径(14.6) 残高 2.5	天井部は少し丸味をもつ。口縁部は短く屈曲し、端部は丸い。	㊫回転ヘラケズリ (1/2) ㊬回転ナデ	ナデ	青灰色 青灰色	長(1) ◎		
32	蓋	口径(16.0) 残高 1.4	天井部は少し丸味をもつ。口縁部は短く屈曲し、端部は丸味をもつ。	不明	回転ナデ	淡緑灰色 青灰色	長(1) ◎	自然釉	
33	蓋	口径(17.0) 残高 1.0	口縁部は短く屈曲し、外面に1条の凹線を施す。端部は丸い。	㊫回転ヘラケズリ ㊬回転ナデ	回転ナデ	淡黄灰色 淡青灰色	長(1) ◎	焼き ひずみ	
34	蓋	口径(15.6) 残高 1.1	口縁部は短く屈曲し、端部はややするとい。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	焼き ひずみ	

遺物観察表

枝朶下池3号窯址採集遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
35	蓋	口径(14.4) 残高 1.4	口縁部は短く屈曲し、端部はややずるどい。	回転ナデ	回転ナデ	淡黄青灰色 淡黄青灰色	長(1) ◎		
36	蓋	口径(12.2) 残高 1.4	天井部は平ら。口縁部は垂直に屈曲する。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	長(1) ◎		
37	蓋	残高 1.4	口縁部は短く屈曲し、端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	淡橙青灰色 青灰色	密 ◎		
38	坏	残高 1.4	直線的にのびる体部。口縁は端部で少し細くなる。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	長(1) ◎		
39	坏	残高 3.2	体部は直線的にのび、口縁部はやや外反する。	回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	長(1) ◎		
40	坏	残高 3.0	体部は直線的にのび、口縁部はやや外反する。	回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	長(1) ◎	焼き ひずみ	
41	坏	残高 3.6	体部は内傾気味に立ち、口縁部は外反する。	回転ナデ	回転ナデ	淡黄青灰色 青灰色	密 ◎	焼き ひずみ	
42	坏	口径(16.2) 器高 2.9 底径(11.2)	直線的に体部がのびる。口縁端部は丸い。	㊸回転ヘラケズリ (1/2) ㊹回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	石・長(1~2) ◎		
43	坏	口径(13.6) 器高 3.1 底径(9.4)	直線的に体部がのびる。口縁部はやや外反し、端部は丸い。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 暗青灰色	石・長(1) ◎		
44	高台坏	残高 2.9	「ハ」の字状の短い高台。	回転ナデ	回転ナデ (1部ナデ)	淡橙青灰色 淡青灰色	長(1) ◎	焼き ひずみ	
45	高台坏	残高 1.5 底径(10.4)	「ハ」の字状の短い高台。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	㊸ナデ ㊹回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	長(1) ◎		
46	坏	口径(25.0) 残高 5.6	体部は外反気味に広がり、口縁は端部で少し、外傾屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	淡黄青灰色 青灰色	長(1) ◎		
47	甕	口径(16.0) 残高 2.9	外反気味に広がる口縁部。端部は平ら。	回転ナデ	回転ナデ	淡黄青灰色 青灰色	密 ◎		
48	甕	口径(15.6) 残高 2.5	口縁部は外反する。端部は中央部でくぼみをもつ。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 暗青灰色	密 ◎		
49	甕	残高 4.0	口縁部は大きく外反する。端部は上方へ断面三角形に突出する。	回転ナデ	回転ナデ	淡緑色 淡緑色	密 ◎	自然釉	
50	甕	口径(38.8) 残高 3.0	口縁部は外反する。端部は平らで、1条の凹線をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		
51	甕	口径(31.6) 残高 6.0	内傾気味に立ち上がる口縁部。端部は内側に拡張する。	回転ナデ	回転ナデ	淡橙青灰色 青灰色	密 ◎		
52	甕	残高 2.7	直線的にのびる口縁。	㊹回転ナデ ㊺格子タタキ	㊹回転ナデ ㊻同心円→ナデ	緑色 褐灰色	密 ◎	自然釉	
53	甕	残高 2.7	肩部片。	㊼回転ナデ ㊽タタキ	回転ナデ	淡黄青灰色 淡青灰色	長(1) ◎		
54	甗	残高 3.1	把手。板状。	ナデ		灰色	密 △		

表11 枝朶下池5号窯址採集遺物観察表

土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
55	蓋	口径(20.0) 残高 2.4	天井部は平ら。口縁端部は丸く仕上げる。	㊸回転ヘラケズリ →ナデ ㊹回転ナデ	㊸ナデ ㊹回転ナデ	淡褐灰色 淡青灰色	石・長(1) ◎		
56	蓋	口径(15.4) 残高 2.0	天井部はやや丸みをもつ。口縁部は短く屈曲し、端部はやや丸味をもつ。	㊸回転ヘラケズリ →ナデ ㊹回転ナデ	㊸ナデ ㊹回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
57	蓋	口径(17.0) 残高 1.4	天井部は平ら。口縁端部は少し屈曲し、丸い。	㊸回転ヘラケズリ →ナデ ㊹回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	長(1~2) ◎		
58	蓋	口径(17.2) 残高 1.3	天井部は丸味のある、ゆるやかな段をもつ。口縁部は短く、強く屈曲し、端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	長(1) ◎		
59	蓋	口径(19.2) 残高 1.3	口縁部は短く屈曲し、外面に1条の凹線をもつ。端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	長(1) ◎	焼き ひずみ	
60	蓋	口径(14.2) 残高 1.8	天井部は平ら。口縁部は短く屈曲し、端部はややするどい。	㊸回転ヘラケズリ →ナデ ㊹回転ナデ	㊸ナデ ㊹回転ナデ	淡黄灰色 淡黄灰色	石・長(1) ○	焼き ひずみ	
61	蓋	口径(14.2) 残高 1.1	口縁部は短く屈曲し、端部はややするどい。	回転ナデ	回転ナデ	淡黄青灰色 青灰色	長(2) ◎	焼き ひずみ	
62	蓋	残高 1.3	口縁部は外方に曲がり、端部はややするどい。	回転ナデ	回転ナデ	淡黄青灰色 淡青灰色	長(1) ◎	内面に ヘラ記号	
63	蓋	残高 1.7	天井部は丸味をもつ。口縁部は短く屈曲し、端部は丸味をもつ。	不明	回転ナデ	淡橙色 青灰色	密 ○		
64	坏	残高 1.8	口縁部は直線的にのびる。端部はやや丸味をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	密 ◎		
65	坏	口径(14.6) 残高 2.7	体部は直線的にのびる。口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	長(1) ◎		
66	坏	口径(14.4) 器高 3.0 底径(10.1)	体部は内湾気味にのびる。口縁端部は丸い。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	㊸ナデ ㊹回転ナデ	淡黄色 淡黄色	石・長(1) △		
67	坏	口径(15.6) 器高 2.3 底径(12.0)	体部は外反気味にのびる。口縁部内面に1条の凹線を巡らす。	㊸回転ヘラケズリ →ナデ ㊹回転ナデ	回転ナデ	淡黄青灰色 淡黄青灰色	長(1) ○		
68	高台坏	残高 1.8 底径(14.2)	高台は短く、端部は内傾する。	㊸回転ヘラケズリ →ナデ ㊹回転ナデ	ナデ	灰色 淡青灰色	密 ○	焼き ひずみ	
69	高坏	残高 1.8 底径(11.2)	脚端面が下方にのびる。断面三角形となる。	不明	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	密 △		
70	皿	口径(14.2) 器高 2.0 底径(10.8)	体部は直線的にのびる。口縁端部は少し外反する。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	回転ナデ	淡黄灰色 淡黄灰色	長(1) ◎		
71	皿	口径(14.2) 器高 1.9 底径(9.6)	体部は外方にのびる。口縁端部は外反し、内面に1条の凹線が巡る。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	㊸ナデ ㊹回転ナデ	暗青灰色 淡青灰色	長(1) ◎	焼き ひずみ	
72	皿	口径(17.5) 器高 2.0 底径(13.6)	体部は直線的にのびる。口縁端部は外反し、内面に1条の凹線が巡る。	回転ナデ	㊸ナデ ㊹回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	長(1) ◎		
73	皿	口径(21.2) 器高 2.1 底径(17.1)	体部は外反気味にのびる。口縁内面に1条の凹線が巡る。	㊸回転ヘラケズリ ㊹回転ナデ	不明	青灰色 青灰色	長(1) ◎	焼き ひずみ スガ附着	
74	皿	口径(21.2) 器高 1.6 底径(17.4)	体部は外反気味にのびる。口縁は外反し、内面に1条の凹線が巡る。	回転ナデ	回転ナデ	淡黄青灰色 淡青灰色	石・長(1) ◎		

遺物観察表

枝朶下池5号窯址採集遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
75	甕	口径(32.0) 残高 4.7	口縁は直線的にのびる。端部は平坦になり、一条の凹線をめぐらす。	㊦回転ナデ ㊧タタキ→ナデ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	淡青灰色 淡青灰色	石・長(1) ◎		

表12 潮見山南窯址採集遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
76	坏蓋	口径(13.1) 残高 4.9	天井部は丸い。天井部と口縁部の境に凹みあり。口縁内面は段なし。	㊦回転ヘラケズリ(3/4) ㊦回転ナデ	㊦ナデ(2/3) ㊦回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
77	坏蓋	口径(12.4) 残高 4.0	天井部と口縁部の境に凹みあり。	㊦回転ヘラケズリ ㊦回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
78	坏蓋	口径(13.2) 残高 2.9	天井部と口縁部の境にゆるやかな稜をもつ。	㊦回転ヘラケズリ ㊦回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
79	坏蓋	残高 2.7	天井部と口縁部の境にゆるやかな稜をもつ。	不明	回転ナデ	淡緑色 淡青灰色	長(1) ◎		
80	坏蓋	口径(10.8) 残高 3.2	天井部と口縁部の境にゆるやかな稜をもつ。	㊦回転ヘラケズリ→ナデ ㊦回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	長(1) ◎		
81	坏蓋	口径(11.4) 残高 3.4	天井部と口縁部の境にゆるやかな稜をもつ。口縁内面は段なし。	㊦回転ヘラケズリ(3/4) ㊦回転ナデ	回転ナデ	青灰色 淡青灰色	密 ◎		
82	蓋	口径(11.0) 残高 4.3	天井部に段を有する。口縁端部は外反気味。	㊦回転ヘラケズリ ㊦回転ナデ	回転ナデ	暗青灰色 淡褐色	密 ◎		
83	蓋	口径(13.2) 器高 4.8 底径(7.2)	天井部上面はヘラケズリ。天井部と口縁部の境にゆるい稜あり。口縁端部は内傾する。	㊦回転ヘラケズリ ㊦回転ナデ	回転ナデ	淡褐色 淡褐色	長(1~2) ◎		
84	坏身	残高 2.0	立ち上がりはうすく、直線的に内傾する。	回転ナデ	回転ナデ	淡黄灰色 淡黄灰色	密 ◎		
85	坏身	残高 2.3	立ち上がりは短く、やや外傾気味。	回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	密 ◎		
86	坏身	口径(13.5) 残高 3.1	立ち上がりは直線的に内傾する。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
87	坏身	口径(13.5) 残高 3.1	立ち上がりは直線的に内傾する。	回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	密 ◎		
88	坏身	残高 2.5	立ち上がりは短く、やや外傾気味。	回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	密 ◎		
89	甕	口径(12.2) 残高 4.1	口縁部中位に断面三角形の凸帯をもつ。凸帯より上は内湾気味に広がる。	不明	回転ナデ	緑色 淡青灰色	密 ◎	自然釉	
90	高坏	残高 3.7	口縁部と体部、体部と底部の間に段をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 淡青灰色	密 ◎		
91	高坏	残高 5.2	脚上部は強くしぼられる。長脚二段透し。	不明	シボリ痕	淡黄青灰色 暗緑色	長(1~2) ◎		

潮見山南窯址採集遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
92	高坏	残高 2.0 底径 (11.2)	ラッパ状に広がる脚部。端面は上下に拡張する。スカシをもつ。	回転ナデ	回転ナデ	褐色 灰褐色	長(1) ◎		
93	壺	口径 (9.0) 残高 7.7	内傾気味にすぼまる体部。2条の凹線下に刺突斜線文。	回転ナデ	回転ナデ	緑灰色 淡黄青灰色	長(1~3) ◎	自然釉	12
94	壺	残高 2.1 底径 (11.1)	外反しながら広がる脚は、裾部でなだらかな段をもつ。端部は凹みをもつが平坦。長方形のスカシ。	回転ナデ	回転ナデ	暗青灰色 暗橙色	密 ◎		
95	甕	口径(17.0) 残高 2.8	外反する口縁部。端部は外面に断面カマボコ状の凸帯をもつ。	㊦(廻)回転ナデ ㊧カキ目	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
96	甕	口径(14.8) 残高 5.2	口縁部は外反する。端部は上方に拡張する。	㊨回転ナデ ㊫タタキ→ナデ	㊨回転ナデ ㊫タタキ→ナデ	淡青灰色 淡褐色	密 ◎		
97	甕	口径(37.5) 残高 5.0	口縁部は外反する。端部は下方に拡張する。	㊦(廻)回転ナデ ㊧カキ目→施文	回転ナデ	暗緑色 淡褐色	密 ◎		12

表13 小野・平井地区の窯址一覧

遺跡名	種類	施設	遺物	時期	調査	備考
悪社谷1号	窯址	窯体	窯壁・須恵器	8C前半	踏査	遺物多量
悪社谷2号	窯址		窯壁・須恵器	8C前半	踏査	遺物多量
悪社谷3号	窯址	窯体		不明	踏査	窯体を塙で構築する。
悪社谷	遺物表採地		窯壁・須恵器	(8C前半)	踏査	遺物数点
枝朶下池1号	窯址	窯体	須恵器	6C後半	踏査	遺物少量。池のなか。長井数秋氏による踏査。
枝朶下池2号	窯址		窯壁・須恵器	6C後半	踏査	消滅か。遺物少量。長井数秋氏による踏査。
枝朶下池3号	窯址	窑窯	窯壁・須恵器	8C前半	踏査	窯体焼土面が露呈する。
枝朶下池4号	窯址	窯体	窯壁・須恵器	8C前半	踏査	
枝朶下池5号	窯址	窑窯	窯壁・須恵器	8C前半	踏査	窯体焼土面が露呈する。池のなか。
小野谷駄馬	窯址	灰原	瓦・須恵器		踏査	
(伝)駄馬姥ケ懐	伝承地				踏査	
駄馬姥ケ懐1号	窯址	窑窯・窯体・灰原	窯壁・須恵器	7C後葉	本格調査	保存、野外展示
駄馬姥ケ懐2号	窯址		窯壁・須恵器	8C初頭	踏査	一部が遺存
茨谷1号	窯址		窯壁・須恵器	7C初頭~前葉	踏査	遺物多数
柳ケ谷	窯址		窯壁・須恵器		踏査	善永光一氏による踏査。
枝朶下池裏	窯址		窯壁・須恵器		踏査	善永光一氏による踏査。
潮見山南	窯址		窯壁・須恵器		踏査	善永光一氏による踏査。



第39図 小野・平井地区の窯址分布図 (S=1:5,000)

# 写 真 图 版

# 写真図版例言

1. 遺構の撮影は調査担当者及び大西が行った。

使用機材：

カメラ	トヨフィールド45A	レンズ	スーパーアンギュロン 90mm他
	アサヒペンタックス67		ペンタックス67 55mm他
	ニコンニューFM2		ズームニッコール 28~85mm他
フィルム	プラスXパン・ネオパンSS・エクタクロームEPP		

2. 遺物の撮影は、大西が行った。

使用機材：

カメラ	トヨ/ビュー45G
レンズ	ジンマーS 240mm
ストロボ	コメット/C A-32・C B2400 (バンク使用)
スタンド他	トヨ/無影撮影台・ウエイトスタンド101
フィルム	プラスXパン

3. 白黒写真の現像・焼き付けは、一部を除いて大西が行った。

使用機材：

引伸機	ラッキー450MD
	ラッキー90MS
レンズ	エル・ニッコール135mm
	エル・ニッコール50mm
印画紙	イルフォードマルチグレードIVRC
フィルム現像剤	コダックD-76・HC110

【参考】『埋文写真研究』 Vol.1 ~ 8

(大西朋子)



1 調査地全景（上空より）



1 T1完掘状況 (西より)



2 T1土層 (西より)



3 T2完掘状況 (西より)



4 T2土層 (東より)



5 T3完掘状況 (西より)



6 T3土層 (西より)

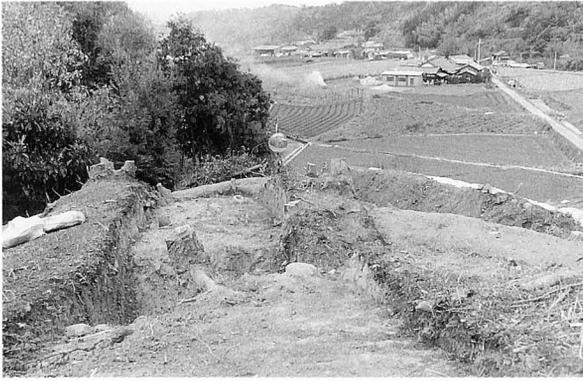


7 T4完掘状況 (西より)



8 T4土層 (西より)

1 区 の 調 査



1 T5完掘状況（北より）



2 T5土層（東より）



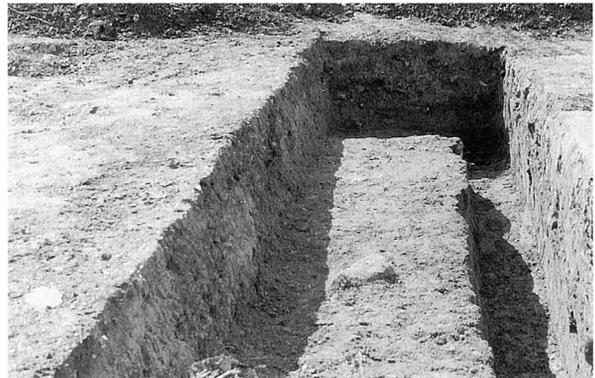
3 T6完掘状況（南より）



4 T6土層（東より）



5 T7完掘状況（東より）



6 T7土層（南より）



7 T8完掘状況・土層（東より）



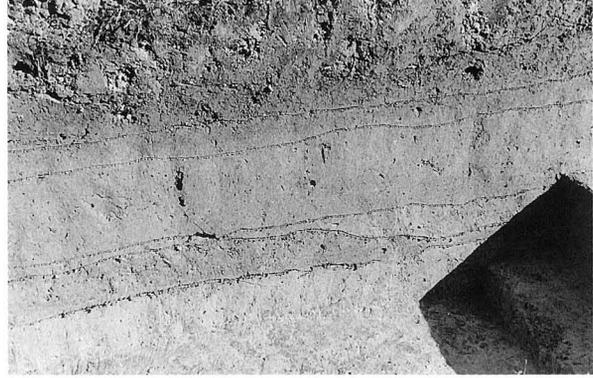
8 T9土層（西より）

2 区 の 調 査

図  
版  
四



1 T10 調査前 (東より)



2 T10 土層 (北より)



3 T11 調査前 (西より)



4 T11 土層 (東より)



5 T12 調査前 (西より)



6 T12 土層 (北より)



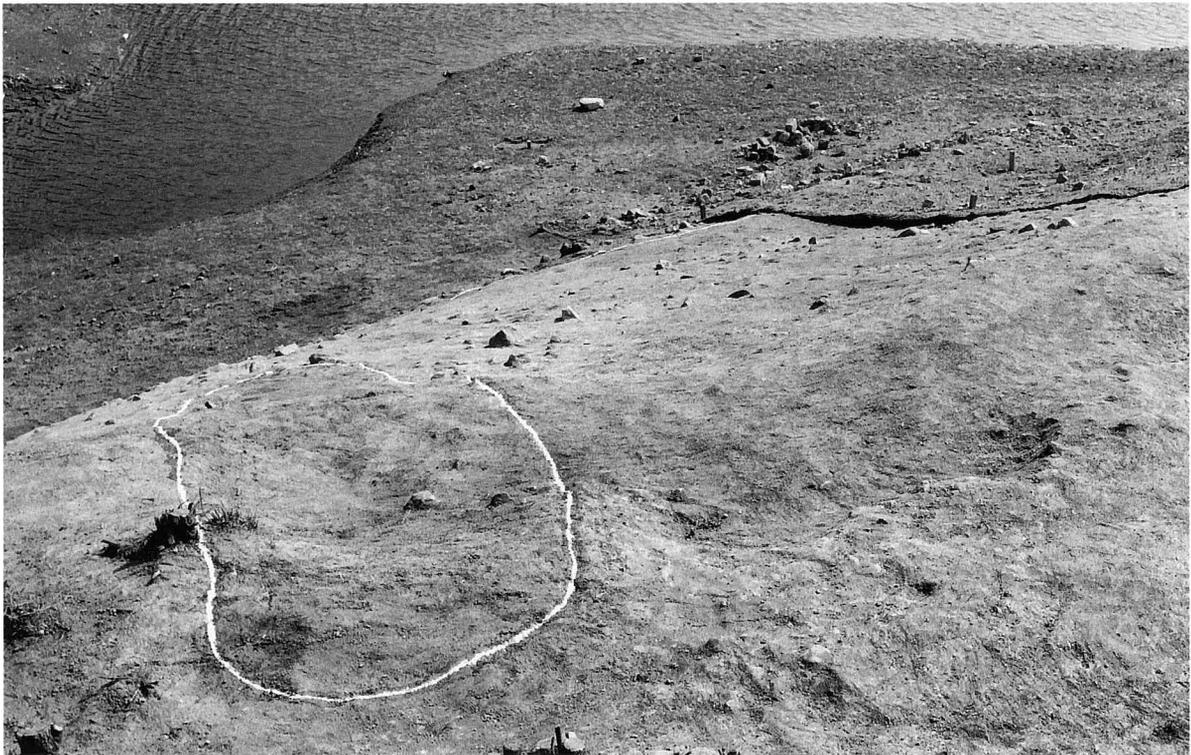
7 T13 調査前 (西より)



8 T13 土層 (西より)



1 枝朶下池 3 号窯址検出状況①（南より）



2 枝朶下池 3 号窯址検出状況②（北より）

3 区 の 調 査

図  
版  
六



1 T1 掘削状況 (西より)



2 T2 掘削状況 (西より)



3 T3 掘削状況 (東より)



4 T4 掘削状況 (東より)



5 T5 掘削状況 (東より)



6 T6 掘削状況 (東より)



7 T7 掘削状況 (東より)



8 T8 掘削状況 (東より)

3 区 の 調 査



1 T9 掘削状況 (西より)



2 T10 掘削状況 (西より)



3 T11 掘削状況 (東より)



4 T12 掘削状況 (東より)



5 3区の現況 (南西より)

4 区 の 調 査

図  
版  
八



1 T1～2 地点 (西より)



2 T4～6 地点 (西より)



3 T7～8 地点 (西より)



4 T9～10 地点 (西より)



5 T12 地点 (西より)



6 T13～14 地点 (西より)



7 T15 地点 (西より)

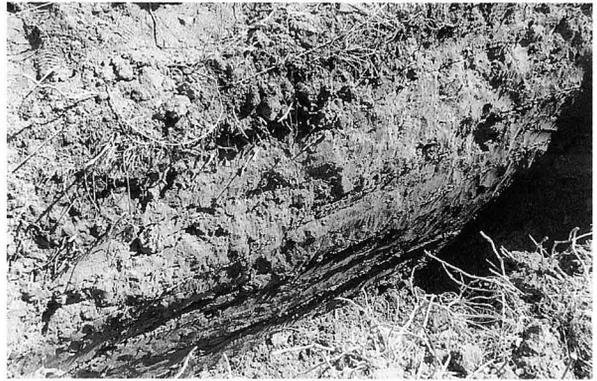


8 T20 地点 (西より)

4 区 の 調 査



1 T1 土層 (北より)



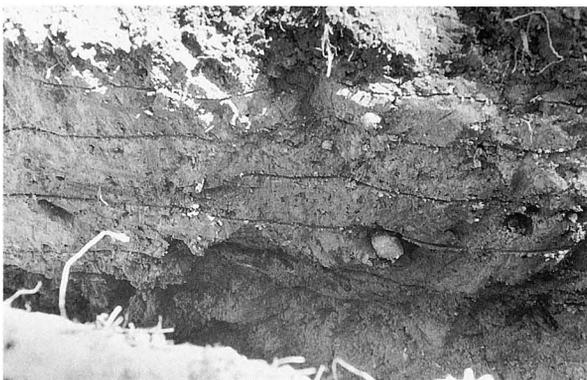
2 T2 土層 (北東より)



3 T3 土層 (北西より)



4 T4 土層 (北より)



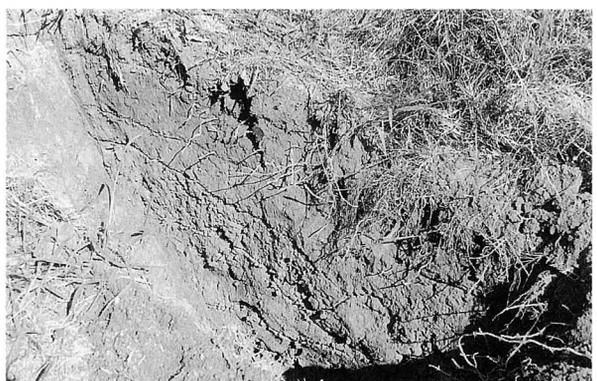
5 T5 土層 (北より)



6 T6 土層 (北より)



7 T7 土層 (南より)



8 T8 土層 (北より)

4 区 の 調 査

図  
版  
一  
〇



1 T9 土層 (西より)



2 T10 土層 (西より)



3 T11 土層 (南より)



4 T12 土層 (南より)



5 T13 土層 (南東より)



6 T14 土層 (南西より)

4 区 の 調 査



1 T15 土層 (南より)



2 T16 土層 (南より)



3 T17 土層 (南より)



4 T20 土層 (南より)



5 3・4区の現況 (南より)



46



47



12



97



27



93

1 小野谷駄場窯址採集遺物 (46・47・12・27)・潮見山南窯址採集遺物 (93・97)

## 報告書抄録

ふりがな	おのがわりゅういきのいせき							
書名	小野川流域の遺跡Ⅱ							
副書名	北梅本悪社谷							
巻次								
シリーズ名	松山市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第66集							
編著者名	梅木謙一・高尾和長・山本健一・河野史知・大西朋子・善永光一							
編集機関	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター							
所在地	市教委 〒790-0003 松山市三番町6丁目6-1 TEL 089-948-6605 埋文 〒791-8032 松山市南斎院町乙67-6 TEL 089-923-6363							
発行年月日	西暦 1998年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きたうめもとあくしゃだに 北梅本悪社谷	まつやましきたうめともまち 松山市北梅本町	38201	267	33° 49' 07"	132° 51' 37"	19940530～ 19940630	900	農道整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
北梅本悪社谷	集落	古墳 古代	旧地形(谷間)	須恵器、石器				

松山市文化財調査報告書 第66集

## 小野川流域の遺跡Ⅱ

---

平成 10年 3月31日 発行

編 集	松 山 市 教 育 委 員 会 〒790-0003 松山市三番町6丁目6-1 TEL(089)948-6605
発 行	財団法人 松山市生涯学習振興財団 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー 〒791-8032 松山市南斎院町乙67番地6 TEL(089)923-6363
印 刷	原 印 刷 株 式 会 社 〒791-8014 松山市山越4丁目8-15 TEL(089)924-8823

---